平成 27 年度 「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組のご紹介









平成 28 年3月

国土交通省

全国「道の駅」連絡会

― 目　次 ―

【はじめに】

1．「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組について …… 1

2．平成 27 年度夏期 就労体験型実習結果

（1）就労体験型 基本協定締結大学 …… 2

（2）就労体験型 受入「道の駅」 …… 3

（3）マッチング結果 …… 4

（4）平成 27 年度夏期 就労体験型実習結果概要 …… 6

（5）基本協定（ひな形）、各様式等 …… 45

3．平成 27 年度 連携企画型実習結果

（1）連携企画型実習状況 …… 52

（2）平成 27 年度 連携企画型実習結果概要 …… 53

【はじめに】

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実際的な知識や技術を学ぶことが重要です。

このため、国土交通省では「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。

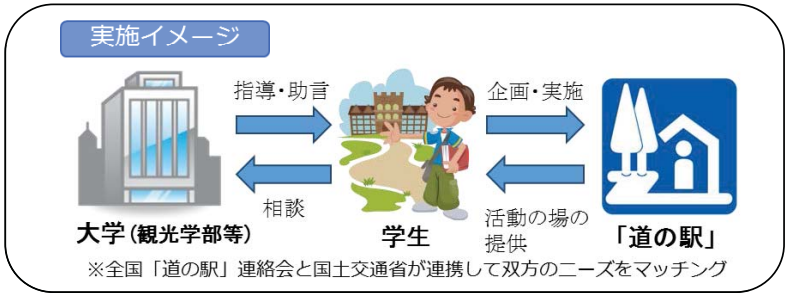
これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。

本書は、この「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組に関して、今夏に実施された「就労体験型実習（インターンシップ）」、また１年を通して授業の一環として実施された「連携企画型実習」の実績を紹介するものです。

１．「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組について

「道の駅」と大学の連携・交流に関する一環として、平成 27 年度より「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組が始まりました。

本取組を推進することによって、地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図ります。



具体的な取組としては「就労体験型」と「連携企画型」の２つのタイプがあります。



本取組によって期待される効果としては、次のようなものがあります。

〈大学のメリット〉
- ●地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確である「道の駅」をフィールドとして、机上では得がたい学習が可能
- ●地域の活性化の現場における将来の人材育成

〈「道の駅」のメリット〉
- ●若者の視点を活かした地域づくり、若者の元気による実行力のある企画の実施
- ●HP 作成や SNS 等の若者の IT スキル、情報ネットワークを活用した情報発信

２．平成 27 年度夏期 就労体験型実習結果

（１）就労体験型 基本協定締結大学

就労体験型実習に関して、全国「道の駅」連絡会と基本協定を締結している大学は、平成 27 年 12 月現在、一つのコンソーシアムを含む 58 大学（大学数としては 62 大学）となっています。

表-1 就労体験型 基本協定締結大学一覧

平成27年12月時点

No.	都道府県	大学名	No.	都道府県	大学名
1	北海道	北海道大学	31	岐阜県	中部学院大学短期大学部
2	北海道	稚内北星学園大学	32	静岡県	常葉大学
3	北海道	北星学園大学	33	愛知県	名古屋外国語大学
4	北海道	旭川大学	34	愛知県	名城大学
5	北海道	北海商科大学	35	三重県	鈴鹿大学
6	北海道	釧路公立大学	36	京都府	成美大学
7	北海道	釧路短期大学	37	京都府	平安女学院大学
8	青森県	青森大学	38	京都府	立命館大学
9	青森県	青森中央学院大学	39	大阪府	大阪観光大学
10	岩手県	岩手県立大学	40	大阪府	近畿大学
11	岩手県	岩手大学	41	大阪府	阪南大学
12	山形県	東北芸術工科大学	42	大阪府	桃山学院大学
13	山形県	東北公益文科大学	43	兵庫県	神戸海星女子学院大学
14	福島県	福島大学	44	兵庫県	神戸芸術工科大学
15	茨城県	茨城キリスト教大学	45	兵庫県	流通科学大学
16	茨城県	茨城県立農業大学校	46	奈良県	帝塚山大学
17	茨城県	筑波大学	47	和歌山県	和歌山大学
18	栃木県	宇都宮大学	48	鳥取県	鳥取大学
19	栃木県	佐野短期大学	49	岡山県	倉敷芸術科学大学
20	栃木県	文星芸術大学	50	徳島県	徳島大学
21	埼玉県	淑徳大学	51	香川県	香川大学
22	埼玉県	立教大学	52	愛媛県	大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会（5大学）
23	千葉県	江戸川大学			
24	千葉県	城西国際大学	53	福岡県	九州産業大学
25	東京都	跡見学園女子大学	54	長崎県	長崎県立大学
26	東京都	帝京大学	55	長崎県	長崎国際大学
27	山梨県	山梨学院大学	56	長崎県	長崎総合科学大学
28	長野県	長野大学	57	大分県	日本文理大学
29	長野県	松本大学	58	宮崎県	宮崎大学
30	岐阜県	中部学院大学			

※「52 大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」は、愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学より構成されており、大学数としては62大学となる。

※都道府県は、協定締結先（学長・学部長等）により整理。

（２）就労体験型 受入「道の駅」

就労体験型実習に対して受入を表明している「道の駅」は、平成 27 年 12 月現在、145 駅となっています。

表-2 就労体験型 受入「道の駅」一覧

平成27年12月時点

No	都道府県	市町村	道の駅名	備考
1	北海道	旭川市	あさひかわ	
2	北海道	室蘭市	みたら室蘭	
3	北海道	名寄市	もち米の里☆なよろ	
4	北海道	三笠市	三笠	
5	北海道	ニセコ町	ニセコビュープラザ	重点
6	北海道	北竜町	サンフラワー北竜	
7	北海道	猿払村	さるふつ公園	
8	北海道	更別村	さらべつ	
9	北海道	幕別町	忠類	
10	青森県	青森市	なみおか	
11	青森県	今別町	いまべつ	
12	青森県	七戸町	しちのへ	重点候補
13	岩手県	花巻市	石鳥谷	
14	岩手県	遠野市	遠野風の丘	全国モデル
15	宮城県	登米市	津山	
16	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	重点
17	秋田県	横手市	さんない	
18	秋田県	横手市	十文字	
19	秋田県	北秋田市	あに	
20	秋田県	北秋田市	たかのす	
21	秋田県	にかほ市	象潟	重点
22	山形県	村山市	むらやま	
23	山形県	高畠町	たかはた	
24	山形県	遊佐町	鳥海	
25	福島県	天栄村	羽鳥湖高原	
26	福島県	磐梯町	ばんだい	
27	福島県	柳津町	会津柳津	
28	福島県	昭和村	からむし織の里しょうわ	
29	福島県	会津坂下町・湯川村	あいづ 湯川・会津坂下	
30	茨城県	常陸太田市	さとみ	
31	茨城県	城里町	かつら	
32	栃木県	宇都宮市	うつのみやろまんちっく村	
33	栃木県	栃木市	みかも	
34	栃木県	佐野市	どまんなかたぬま	
35	栃木県	茂木町	もてぎ	全国モデル
36	栃木県	那須町	東山道伊王野	
37	栃木県	那須町	那須高原友愛の森	重点
38	埼玉県	吉見町	いちごの里よしみ	重点候補
39	千葉県	八千代市	やちよ	
40	千葉県	鴨川市	鴨川オーシャンパーク	
41	千葉県	芝山町	風和里しばやま	
42	千葉県	館南町	保田小学校	重点候補
43	山梨県	山梨市	花かげの郷まきおか	
44	山梨県	山梨市	みとみ	
45	山梨県	北杜市	こぶちさわ	重点候補
46	山梨県	北杜市	はくしゅう	
47	山梨県	北杜市	南きよさと	
48	山梨県	中央市	とよとみ	
49	山梨県	小菅村	こすげ	
50	長野県	上田市	上田道と川の駅	
51	長野県	中野市	ふるさと豊田	
52	長野県	飯山市	花の駅千曲川	
53	長野県	東御市	雷電くるみの里	
54	長野県	青木村	あおき	重点
55	長野県	伊那市	南アルプスむら長谷	
56	長野県	阿南町	信州新野千石平	重点候補
57	新潟県	長岡市	良寛の里 わしま	
58	新潟県	村上市	朝日	
59	新潟県	胎内市	胎内	
60	新潟県	阿賀町	阿賀の里	
61	富山県	南砺市	福光	
62	富山県	射水市	カモンパーク新湊	
63	石川県	珠洲市	すずなり	
64	福井県	大野市	九頭竜	
65	福井県	おおい町	うみんぴあ大飯	
66	福井県	おおい町	名田庄	
67	岐阜県	高山市	ななもり清見	
68	岐阜県	高山市	パスカル清見	
69	岐阜県	関市	平成	
70	岐阜県	関市	むげ川	
71	岐阜県	中津川市	賤母	重点候補
72	岐阜県	美濃市	美濃にわか茶屋	
73	岐阜県	飛騨市	宙ドーム・神岡	
74	岐阜県	郡上市	古今伝授の里やまと	
75	岐阜県	郡上市	明宝	重点候補
76	岐阜県	下呂市	馬瀬 美輝の里	
77	岐阜県	池田町	池田温泉	
78	岐阜県	富加町	半布里の郷 とみか	
79	岐阜県	白川町	清流白川 クオーレの里	
80	岐阜県	白川町	美濃白川	
81	静岡県	富士宮市	朝霧高原	
82	静岡県	富士市	富士川楽座	
83	静岡県	小山町	すばしり	
84	愛知県	西尾市	にしお岡ノ山	
85	三重県	大台町	奥伊勢おおだい	重点候補
86	三重県	紀北町	紀伊長島マンボウ	
87	滋賀県	米原市	伊吹の里	
88	京都府	福知山市	最匠の郷やくの	
89	京都府	舞鶴市	舞鶴港とれとれセンター	重点候補
90	大阪府	河南町	かなん	
91	兵庫県	西脇市	北はりまエコミュージアム	重点候補
92	兵庫県	淡路市	あわじ	
93	兵庫県	宍粟市	みなみ波賀	
94	兵庫県	加東市	とうじょう	重点候補
95	兵庫県	香美町	村岡ファームガーデン	
96	和歌山県	田辺市	水の郷日高川 龍游	
97	和歌山県	かつらぎ町	紀ノ川万葉の里	
98	和歌山県	北山村	おくとろ	
99	鳥取県	岩美町	きなんせ岩美	
100	鳥取県	若桜町	若桜	
101	鳥取県	琴浦町	ポート赤碕	
102	島根県	雲南市	おろちの里	
103	岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	
104	岡山県	新庄村	メルヘンの里新庄	
105	岡山県	西粟倉村	あわくらんど	重点候補
106	広島県	尾道市	クロスロードみつぎ	重点
107	広島県	三次市	ふおレスト君田	
108	広島県	三次市	ゆめランド布野	
109	広島県	安芸太田町	来夢とごうち	
110	広島県	北広島町	舞ロードIC千代田	
111	山口県	萩市	萩しーまーと	全国モデル
112	山口県	周南市	ソレーネ周南	
113	山口県	阿武町	阿武町	
114	徳島県	阿南市	公方の郷なかがわ	
115	徳島県	美馬市	藍ランドうだつ	
116	香川県	高松市	香南楽湯	
117	香川県	三豊市	たからだの里さいた	
118	香川県	三豊市	ふれあいパークみの	
119	香川県	小豆島町	小豆島オリーブ公園	
120	香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	
121	愛媛県	今治市	今治市多々羅しまなみ公園	重点
122	愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	重点
123	愛媛県	今治市	伯方S・Cパーク	重点
124	愛媛県	今治市	よしうみいきいき館	重点
125	愛媛県	八幡浜市	八幡浜みなっと	
126	愛媛県	四国中央市	霧の森	
127	愛媛県	松野町	虹の森公園まつの	
128	愛媛県	鬼北町	日吉夢産地	
129	高知県	四万十町	あぐり窪川	
130	高知県	四万十町	四万十とおわ	
131	福岡県	うきは市	うきは	重点
132	長崎県	西海市	さいかい	
133	熊本県	菊池市	旭志	
134	熊本県	菊池市	泗水	
135	熊本県	大津町	大津	
136	熊本県	五木村	子守唄の里 五木	
137	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
138	宮崎県	都城市	都城	
139	宮崎県	延岡市	北川はゆま	重点候補
140	宮崎県	延岡市	北方よっちみろ屋	
141	宮崎県	日南市	酒谷	
142	宮崎県	日南市	なんごう	
143	宮崎県	都農町	つの	
144	鹿児島県	阿久根市	阿久根	
145	鹿児島県	薩摩川内市	樋脇	

（３）マッチング結果

平成 27 年度夏期に実施された就労体験型実習において、大学（学生）の希望する「道の駅」とマッチングを行った結果、協定を締結している 22 大学計 59 名が全国の 32 箇所の「道の駅」で実習を行うこととなりました。

表-3　平成 27 年度夏期 就労体験型実習参加大学一覧

No.	都道府県	大学名
8	青森県	青森大学
9	青森県	青森中央学院大学
10	岩手県	岩手県立大学
12	山形県	東北芸術工科大学
15	茨城県	茨城キリスト教大学
16	茨城県	茨城県立農業大学校
22	埼玉県	立教大学
23	千葉県	江戸川大学
25	東京都	跡見学園女子大学
26	東京都	帝京大学
27	山梨県	山梨学院大学
30	岐阜県	中部学院大学
32	静岡県	常葉大学
37	京都府	平安女学院大学
38	京都府	立命館大学
39	大阪府	大阪観光大学
48	鳥取県	鳥取大学
49	岡山県	倉敷芸術科学大学
51	香川県	香川大学
52	愛媛県	大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会（5大学）
54	長崎県	長崎県立大学
57	大分県	日本文理大学

表-4　平成 27 年度夏期 就労体験型実習受入「道の駅」一覧

No	都道府県	市町村	道の駅名	備考
10	青森県	青森市	なみおか	
12	青森県	七戸町	しちのへ	重点候補
14	岩手県	遠野市	遠野風の丘	全国モデル
16	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	重点
21	秋田県	にかほ市	象潟	重点
26	福島県	磐梯町	ばんだい	
30	茨城県	常陸太田市	さとみ	
31	茨城県	城里町	かつら	
33	栃木県	栃木市	みかも	
35	栃木県	茂木町	もてぎ	全国モデル
40	千葉県	八千代市	やちよ	
49	山梨県	中央市	とよとみ	
54	長野県	東御市	雷電くるみの里	
55	長野県	青木村	あおき	重点
63	富山県	射水市	カモンパーク新湊	
73	岐阜県	美濃市	美濃にわか茶屋	
75	岐阜県	郡上市	古今伝授の里やまと	
78	岐阜県	池田町	池田温泉	
83	静岡県	富士市	富士川楽座	
86	三重県	大台町	奥伊勢おおだい	重点候補
89	京都府	福知山市	農匠の郷やくの	
99	和歌山県	北山村	おくとろ	
102	鳥取県	琴浦町	ポート赤碕	
104	岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	
111	広島県	北広島町	舞ロードIC千代田	
121	香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	
123	愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	重点
130	高知県	四万十町	あぐり窪川	
133	長崎県	西海市	さいかい	
134	熊本県	菊池市	旭志	
138	大分県	豊後大野市	原尻の滝	
143	宮崎県	日南市	なんごう	

（４）平成 27 年度夏期 就労体験型実習結果概要

平成 27 年度夏期における就労体験型実習結果について、①に実習結果概要一覧、②に「道の駅」別の実習結果概要を示します。

①実習結果概要一覧

№1

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
10	青森県	青森市	なみおか	東北芸術工科大学	○実習期間：平成27年8月17日（月）～8月30日（日）【14日間】 ○実 習 生：東北芸術工科大学学生 1名 ○実習内容：①道の駅職員に対する聞き取り調査 ②道の駅マップ作成 ③商品陳列等レイアウトに関する調査・提案
				青森大学	○実習期間：平成27年8月4日（火）～8月10日（月）、8月25日（火）～8月31日（月）【14日間】 ○実 習 生：青森大学学生 1名 ○実習内容：①利用者（聞き取り）調査 ②調査内容取りまとめ ③企画提案
12	青森県	七戸町	しちのへ	帝京大学	○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【14日間】 ○実 習 生：帝京大学学生 1名 ○実習内容：①レジ業務補助 ②商品陳列等業務補助 ③その他道の駅業務全般補助
14	岩手県	遠野市	遠野風の丘	立教大学	○実習期間：平成27年8月3日（月）～8月12日（水）【10日間】 ○実 習 生：立教大学学生 1名 ○実習内容：①売店・レストラン施設業務実習 ②インフォメーションセンター業務実習 ③関係者とアリング・客へのヒアリング ④ヒアリング結果の調査集計
				岩手県立大学	○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【15日間】 平成27年8月21日（金）～8月27日（木）【7日間】 ○実 習 生：岩手県立大学学生 2名 ○実習内容：①売店・レストラン施設業務実習 ②インフォメーションセンター業務実習 ③関係者とアリング・客へのヒアリング ④ヒアリング結果の調査集計
16	宮城県	大崎市	あ・ら・伊達な道の駅	岩手県立大学	○実習期間：平成27年8月24日（月）～9月6日（日）【14日間】 ○実 習 生：岩手県立大学　学生1名 ○実習内容：①農産部門実習（農産物直売所等）【8/24～8/27】 ②販売部門実習（ロイズコーナー等）【8/28～9/2】 ③飲食部門実習（レストラン等）【9/3～9/6】 ④座学「岩出山の歴史と北海道当別町との関係について」【9/2】
21	秋田県	にかほ市	象潟	帝京大学	○実習期間：平成27年8月4日（火）～8月11日（火）【8日間】 ○実 習 生：帝京大学学生 1名 ○実習内容：①特産品の6次産業化や、より付加価値の高い商品の提案 ②道の駅と連携した周遊観光企画の提案 ③販売実習 ④ねむの丘活性化の提案
26	福島県	磐梯町	ばんだい	帝京大学	○実習期間：平成27年8月18日（火）～8月30日（日）【13日間】 ○実 習 生：帝京大学学生 1名 ○実習内容：①販売体験 ②アンケートの実施 ③ブログの作成

№2

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
30	茨城県	常陸太田市	さとみ	茨城キリスト教大学	○実習期間：平成27年8月12日（水）～8月25日（火）【14日間】 ○実 習 生：茨城キリスト教大学　1名 ○実習内容：①「道の駅」での業務全般 （道の駅での販売および清掃業務、施設設備の改善） ②ホームステイ先農家での農業実習等 豆腐作り、蕎麦種蒔き、蕎麦祭りへの参加、地域おこし協力隊との意見交換
31	茨城県	城里町	かつら	茨城県立農業大学校	○実習期間：平成27年8月8日（土）～8月16日（日）【9日間】 ○実 習 生：茨城県農業総合センター農業大学校（茨城県立農業大学校） 2名 ○実習内容：①「道の駅」駅長業務 ・運営内、施設の清掃、接客、レジ打ち、商品の受入・袋詰め・陳列 ・情報発信用の写真撮影 ②ホームステイ先農家での農業実習 ・ナシの収穫・選別 等
33	栃木県	栃木市	みかも	帝京大学	○実習期間：平成27年8月24日（月）～8月31日（月）【7日間】 ○実 習 生：帝京大学学生　3名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験） ②「道の駅」来場者へのアンケート調査・分析 ③アンケート結果を踏まえた新商品開発及び販売
35	栃木県	茂木町	もてぎ	跡見学園女子大学	○実習期間：平成27年8月1日（日）～8月5日（水）【5日間】 ○実 習 生：跡見学園女子大学学生　4名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所と お土産コーナーのレジ体験） ②「道の駅」来場者へのアンケート調査 ③観光資源の視察・把握（大瀬観光やなや益子焼など） ④着地観光プログラムの企画・提案
					○実習期間：平成27年9月24日（木）～9月28日（月）【5日間】 ○実 習 生：跡見学園女子大学学生　5名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所と お土産コーナーの売り場体験） ②「道の駅」来場者へのアンケート調査 ③地域資源の視察・把握（えごまの栽の収穫やえごまの加工所視察など） ④オリジナル商品の企画、開発（えごまを使用した商品の容器やラベル）
40	千葉県	八千代市	やちよ	江戸川大学	○実習期間：平成27年9月2日（水）～9月6日（日）【5日間】 ○実 習 生：江戸川大学学生　1名 ○実習内容：①農産物直売所及び「やちよ製フェア」での就労体験実習 ②就労体験を踏まえた農産物直売所に関する提案 ③特産物等の広報、情報発信の提案
49	山梨県	中央市	とよとみ	山梨学院大学	○実習期間：平成27年8月9日（日）～11日（火）、9月1日（火）～3日（木）【計6日間】 ○実 習 生：山梨学院大学学生　1名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（農産物直売所のレジ体験、ハム製造・加工体験） ②「道の駅」農産物のPOP広告の作成 ③ 地産農産物（トウモロコシ）を使った新商品開発やメニュー改良の提案 ④ 観光資源の視察・把握（市内観光施設 など）
54	長野県	東御市	雷電くるみの里	帝京大学	○実習期間：平成27年8月11日（火）～8月18日（火）【8日間】 ○実 習 生：帝京大学　1名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験等） ②業務体験を通じた業務改善の提案
55	長野県	青木村	あおき	大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会（松山大学）	○実習期間：平成27年8月6日（木）～8月19日（水）【14日間】 ○実 習 生：大学コンソーシアムえひめ（松山大学） 1名 ○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験） ②体験型イベント広報の企画提案

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
63	富山県	射水市	カモンパーク新湊	青森中央学院大学	○実習期間：平成27年9月11日（金）～9月23日（水）【13日間】 ○実 習 生：青森中央学院大学学生 2名 ○実習内容：①新商品企画（アイディア検討） ②地域観光資源調査 ③イベントの企画 ④通常の業務（レストランでの接客、イベント手伝い、直売等でのレジ業務）
73	岐阜県	美濃市	美濃にわか茶屋	中部学院大学	○実習期間：平成27年8月8日（土）～8月13日（木）【5日間】 平成27年8月24日（月）～8月28日（金）【5日間】 ○実 習 生：中部学院大学学生 各1名 ○実習内容：①地域の特産品である美濃和紙・和菓子・日本酒・掛煮・鮎などの商品陳列、管理等。 ②野菜・花など販売接客。
75	岐阜県	郡上市	古今伝授の里やまと	中部学院大学 立命館大学	○実習期間：平成27年8月29日（土）～9月3日（水）【5日間】 平成27年9月10日（木）～9月14日（月）【5日間】 ○実 習 生：中部学院大学学生 2名、立命館大学学生 1名 ○実習内容：①地域の特産品である生乳加工品等の販売接客 ②イベント開催補助
78	岐阜県	池田町	池田温泉	中部学院大学	○実習期間：平成27年8月24日（月）～8月28日（金）【5日間】 ○実 習 生：中部学院大学学生 3名 ○実習内容：①接客体験（販売補助や清掃）を活かし、イベント広場の活用方法について企画提案（予定） ②観光案内等の接客補助
83	静岡県	富士市	富士川楽座	常葉大学	○実習期間：平成27年8月17日（月）～8月26日（水）【10日間】 ○実 習 生：常葉大学学生 1名 ○実習内容：富士川楽座利用者のマーケティング調査 7日間のマーケティング実習の後、調査資料をとりまとめ
86	三重県	大台町	奥伊勢おおだい	大阪観光大学	○実習期間：平成27年9月7日（月）～9月17日（木）【10日間】 ○実 習 生：大阪観光大学学生 1名 ○実習内容：①物販、食堂、イベント等における業務補佐 ②商品陳列の提案
89	京都府	福知山市	農匠の郷やくの	立命館大学	○実習期間：平成27年8月24日(月)～9月4日(金)【12日間】 ○実 習 生：立命館大学学生 1名 ○実習内容：①農体験の実践を通じて魅力あるPR方法の企画・提案 ②ぶどう・ブルーベリーを活用した新商品の企画・提案 ③そばのSNSを活用した広報の企画・提案 ④地域のまつりに参加し道の駅の魅力づくりの提案
99	和歌山県	北山村	おくとろ	立教大学	○実習期間：平成27年8月3日(月)～8月22日(土)【20日間】 ○実 習 生：立教大学学生 1名 ○実習内容：①若者にも魅力あるPR方法・内容の企画・提案 ②いやだ下りの『語り部』の実践 ③外国人向けの北山村紹介、観光案内の企画・提案 ④地域資源の掘り起こしチャレンジ
102	鳥取県	琴浦町	ポート赤碕	香川大学	○実習期間：平成27年8月10日（土）～8月21日（金）【10日間】 ○実 習 生：香川大学学生 1名 ○実習内容 ・若者目線での、琴浦町の話題や「道の駅 ポート赤碕」の商品広告企画の作成、売り場情報の発信 ・日本海の新鮮な魚介類や町内農産品を用いた道の駅オリジナルの商品を提案 ① 店舗での対面による物産販売 ② 中山間地域への移動販売 ③ イベント用のディスプレイ広告作成・展示 ④ 岩がき等の特産品PR

No	都道府県	市町村	道の駅名	大学名	実習概要
104	岡山県	笠岡市	笠岡ベイファーム	倉敷芸術科学大学	○実習期間：平成27年8月19日（水）～8月29日（土）【10日間】※8月24日（月）休み ○実 習 生：倉敷芸術科学大学学生 3名 ○実習内容：①「道の駅」の仕組み・経営について把握 ②商品の販売業務、農作物の植付体験 ③笠岡市で生産されている食材調査、生産者へ直接聞き取り。 ④調査結果を活用した「道の駅」オリジナル弁当（駅弁）の企画開発
111	広島県	北広島町	舞ロードIC千代田	鳥取大学	○実習期間：平成27年8月26日（水）～9月9日（水）【11日間】 ○実 習 生：鳥取大学学生 1名 ○実習内容：①「道の駅」販売品の仕入れ／集荷を体験 ②売り場での業務体験によるコミュニケーション能力向上 ③イベント企画（地元産 はぶ草茶試飲企画） ④商品ポップの作成、店舗の売り場演出 など
121	香川県	小豆島町	小豆島ふるさと村	立教大学	○実習期間：平成27年8月1日（土）～8月30日（日）【30日間】 ○実 習 生：立教大学学生 1名 ○実習内容：①小豆島ふるさと村の観光業務体験 ②観光メニュー等の企画立案(ウォーキングマップ作成) ③SNSによる情報発信
123	愛媛県	今治市	しまなみの駅御島	松山大学（コンソーシアムえひめインターンシップ部会）	○実習期間：平成27年8月17日（月）～8月31日（月）【15日間】 ○実 習 生：松山大学 学生 2回生 1名 ○実習内容：① 観光ガイド受講 ② 農業収穫体験 ③ みかん丸ごとケーキ作り体験 ④ 漁業栽培体験 ⑤サイクリングツアーの企画
130	高知県	四万十町	あぐり窪川	平安女学院大学	○実習期間：平成27年8月24日（月）～9月4日（金）【10日間】 ○実 習 生：平安女学院大学学生 1名 ○実習内容：①「四万十生姜」及び「仁井田米」を使用したファストフードメニューの提案・開発及び製造・販売 ②自社ブログ及びフェイスブック等のSNSを活用し、来場者とのふれあいや生産者情報、加工品開発情報を発信する
133	長崎県	西海市	さいかい	長崎県立大学	○実習期間：平成27年8月7日（金）～8月23日（日）【17日間】 ○実 習 生：長崎県立大学学生 1名 ○実習内容：①イベント「ジャンボかぼちゃコンテスト」運営に対する新たな提案 ②地元産品のみかん、びわ等を活用した新たな物産品のアイデア提案 ③HP、SNSを活用した観光・イベント等の情報発信
134	熊本県	菊池市	旭志	立教大学	○実習期間：平成27年8月9日（日）～8月19日（水）【11日間】 ○実 習 生：立教大学学生 1名 ○実習内容：①「道の駅」、直売所での視察研修 ②農産物生産者と現地での視察研修 ③「道の駅」駐車場の調査及び利用者アンケート ④「道の駅」各部署での実地研修
138	大分県	豊後大野市	原尻の滝	日本文理大学	○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月23日（日）【13日間】 ○実 習 生：日本文理大学学生 4名 ○実習内容：①現地販売実習 ②外国人向けサービスの企画提案 ③新規顧客、リピーター向け企画提案 ④お祭りイベントの準備支援 ⑤現地販売の改善活動 ⑥お祭りイベントへの提言
143	宮崎県	日南市	なんごう	青森中央学院大学	○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【15日間】 ○実 習 生：青森中央学院大学学生 3名 ○実習内容：①レストランでの接客業務 ②農産物直売所でのレジ担当業務 ③イベントの企画・実務業務 ④アンケートによる市場調査

②「道の駅」別実習結果概要

道の駅「なみおか」 東北芸術工科大学インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月17日（月）～8月30日（日）【14日間】
○実 習 生：東北芸術工科大学学生　1名
○実習内容：①道の駅職員に対する聞き取り調査
②道の駅マップ作成
③商品陳列等レイアウトに関する調査・提案

取組状況


＜道の駅マップの作成状況＞


＜作成した道の駅マップ＞

道の駅「なみおか」 東北芸術工科大学インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・商品陳列の参考のため作成した木製の陳列什器





・報告会の様子



実習を終えて

・自分の意見や考え方を表現できる取り組みとなっており、やりがいを感じることが出来た。（学生）

道の駅「なみおか」 青森大学インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月4日（火）～8月10日（月）、8月25日（火）～8月31日（月）
【14日間】
○実 習 生：青森大学学生　1名
○実習内容：①利用者（聞き取り）調査
②調査内容取りまとめ
③企画提案

取組状況



（H27.8.4　ATVわっちより）
＜利用者調査の実施状況＞


＜調査内容取りまとめの状況＞


＜中間報告会の様子＞

道の駅「なみおか」 青森大学インターンシップ結果概要②

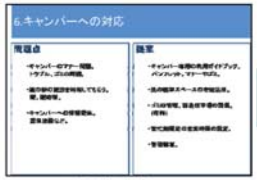
国土交通省

実習成果

・最終報告会の様子



・提案→最終報告に向けて作成したパワーポイント（例）



（中間報告時PPT）



（最終報告時PPT）

実習を終えて

・大学と道の駅が同一県内と言うことも有り、大学側の協力を得やすかった。（道の駅）
・実際に利用者の方にインタビュー調査を実施でき、利用者目線での意見を聞くことが出来ました。私自身もたくさんの学ぶべき事を発見できました。（学生）

道の駅「しちのへ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【14日間】
○実 習 生：帝京大学学生　1名
○実習内容：①レジ業務補助
②商品陳列等業務補助
③その他道の駅業務全般補助

取組状況





＜商品陳列の様子＞

道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月3日（月）～8月12日（水）【10日間】
○実 習 生：立教大学学生　1名
○実習内容：①売店・レストラン施設業務実習
②インフォメーションセンター業務実習
③関係者ヒアリング・客へのヒアリング
④ヒアリング結果の調査集計

取組状況



＜売店・レストラン施設業務実習の実施状況＞



＜インフォメーションセンター業務実習の実施状況＞

道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・聞き取り調査の内容をまとめている状況



・インターンシップ報告書



実習を終えて

・地域と道の駅の関わりがどうなのかというものを今回のインターンシップで自分なりに考えることができた。（学生）

道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【15日間】
　　平成27年8月21日（金）～8月27日（木）【7日間】
○実 習 生：岩手県立大学学生　2名
○実習内容：①売店・レストラン施設業務実習
　　②インフォメーションセンター業務実習
　　③関係者ヒアリング・客へのヒアリング
　　④ヒアリング結果の調査集計

取組状況



＜売店・レストラン施設業務実習の実施状況＞



＜インフォメーションセンター業務実習の実施状況＞

道の駅「遠野風の丘」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・駅長との打合せの状況



実習を終えて

・２週間以上という長期間参加、目的を持たせてもらい参加できたのは良かった。（学生）
・道の駅の成功事例を学ぶことができ、今後学年が進んだ時の講義などを受ける時に生きてくると感じた。（学生）

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年８月２４日（月）～９月６日（日）【14日間】
○実 習 生：岩手県立大学　学生１名
○実習内容：①農産部門実習（農産物直売所等）　【8/24～8/27】
　　②販売部門実習（ロイズコーナー等）【8/28～9/2】
　　③飲食部門実習（レストラン等）　【9/3～9/6】
　　④座学「岩出山の歴史と北海道当別町との関係について」【9/2】

取組状況



＜朝会の実施状況＞



＜農産部門実習の実施状況＞



＜飲食部門実習の実施状況＞

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・実習生による「道の駅」ブログ更新。
　（商品販促）



実習を終えて

・連日多くの客で賑わっている「道の駅」であるが、時代の流れに対応して「変化」する柔軟な思考が必要と感じた。（道の駅）
・大勢のお客さんで賑わってもらうためには、スタッフ全員の仕事に対する真摯な取組みが重要だと思った。 また、平日と休日の客層の違いや来場目的などから、「道の駅」が「休憩施設・情報発信機能・地域連携機能」を併せ持つ、まさに「地域とともに作る個性豊かな賑わいの場」であることを体感できた。「道の駅」の課題を見つけ、解決策を導き出すことは総合政策学部生として頑張りどころであり、「お客様」と「学生」の視点から同時に考えるアプローチは良かったと思う。これから益々広い視野で物事を見て問題点に気づける力を身につけていきたいと思う。（学生）

道の駅「象潟」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月4日（火）～8月11日（火）【８日間】
○実 習 生：帝京大学学生　１名
○実習内容：①特産品の６次産業化や、より付加価値の高い商品の提案
②道の駅と連携した周遊観光企画の提案
③販売実習
④ねむの丘活性化の提案

取組状況


<任命書授与>


<販売実習>


<特産品販売店視察>

道の駅「象潟」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・６次産業化、周遊観光化企画等

＜学生の答え＞

○特産品の6次産業化の提案
加工業者、販売者にヒアリングした結果、新たな提案は難しいと感じた。今あるもの（イチジク、地酒等）をよりPRした方が良いと感じた。

○道の駅と連携した周遊観光企画の提案
公共交通機関を利用して訪れた観光客のために、レンタカーの配備を提案する。

・活性化に向けて作成したプラン



・道の駅活性化に向けた報告会



実習を終えて

・こういう企画がなければ一生訪れることもない土地で、いろいろな人とふれあうことだけでも十分価値がある。自分の見聞を広げるという意味ではとても良い企画である。（学生）

道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要①

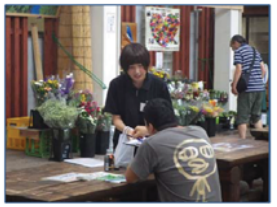
国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年８月１８日（火）～８月３０日（日）【１３日間】
○実 習 生：帝京大学学生　１名
○実習内容：①販売体験
②アンケートの実施
③ブログの作成

取組状況


<販売体験状況>


<アンケートの実施状況>

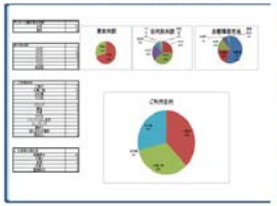

<ブログの作成状況>

道の駅「ばんだい」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・アンケート集計結果



・開設したブログ①



・開設したブログ②



実習を終えて

・道の駅の仕事は充実していて、やりがいを感じることができました。私も将来、この仕事に就いてよかったなと思える仕事をしたいと思います。いろんな人と関われる仕事がしたいと思いました。（学生）

道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月１２日（水）～８月２５日（火）【１４日間】
○実 習 生：茨城キリスト教大学　１名
○実習内容：①「道の駅」での業務全般
（道の駅での販売および清掃業務、施設設備の改善）
②ホームステイ先農家での農業実習等
豆腐作り、蕎麦種蒔き、蕎麦祭りへの参加、地域おこし協力隊との意見交換

実習成果

○ソフトクリームの売店をさらにアピールするために看板の改善を行った。
○道の駅に改善の提案を行った。
・好評のソフトクリームの販売をより充実させるため、動線を意識した売り場の改善。
・新しい情報への更新をこまめに行い、利用者に良いイメージを与える。
・「道の駅さとみ」に立ち寄ってもらうにはどうすればいいのかを常陸太田市・地元の皆様で話し合いを実施。
○住民の方との交流を実習後も続けていくとともに、大学内でも里美地区の魅力を伝え、交流の拡大を図っていく。

道の駅「さとみ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習を終えて

・ソフトクリーム販売時も様々な会話があり、お客さんとのコミュニケーションができるのがよい。（学生）
・地域をよく知り、知った上でそれから私は何をその地域で生かせるのだろうか、一緒に生きていく、生活していくことができるのか、見つけなければいけないという発見につながりました。大学最後の夏休みにすばらしい体験をすることができ、協力してくださった周りの方々に感謝しております。（学生）

道の駅「かつら」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月８日（土）～８月１６日（日）【９日間】
○実 習 生：茨城県農業総合センター農業大学校（茨城県立農業大学校）　２名
○実習内容：①「道の駅」駅長業務
・道案内，施設の清掃，接客，レジ打ち，商品の受入・袋詰め・陳列
・情報発信用の写真撮影
②ホームステイ先農家での農業実習
・ナシの収穫・選別 等

取組状況


■レジ打ち実施状況


■学生自ら提案したプランターへの寄せ植え実施状況


■ホームステイ先農家でのナシの収穫状況

道の駅「かつら」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果


■寄せ植えした花の管理

○農業大学校の学生であり、専門知識があることから自ら寄せ植え作業を提案し、観賞用に寄せ植えした花を道の駅内に設置した。
○道の駅に改善に関する提案を行った。
・道の駅に隣接するキャンプ場に訪れたお客様への用具の貸し出しや販売サービスの充実、お客様向けの救急箱の設置をする。
・道の駅の魅力を伝えるために、SNSに道の駅を訪れた方が楽しんでいるところを掲載する。

実習を終えて

・幼い頃からお客さんとして来ていたが、裏側を見ることができて良かった。（学生）
・将来農業に携わりたいと考えているので、梨園でのナシの収穫や選別、農家の直売所での仕事、ホームステイの農家で体験談を聞けたことや道の駅での接客時のお客様に対する対応は、非常に勉強になりました。（学生）
・道の駅スタッフ一人一人が強いプロ意識をもち、地域のためお客様のためによりよいサービスや職場環境を形成する姿に感動しました。（学生）
・農業大学は、インターンの受け入れがあまりないので今回の道の駅のインターンシップは続けてほしい。（学生）

道の駅「みかも」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月２４日（月）～８月３１日（月）【７日間】
○実 習 生：帝京大学学生　３名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験）
②「道の駅」来場者へのアンケート調査・分析
③アンケート結果を踏まえた新商品開発及び販売

取組状況



■道の駅での職場体験
（直売所でのレジ打ち）実施状況



■道の駅来場者へのｱﾝｹｰﾄ調査実施状況



■新商品企画・提案の打ち合わせの実施状況

道の駅「みかも」インターンシップ結果概要②

国土交通省

取組状況



■新商品販売の実施状況

実習成果

○今回実施したアンケート結果から来客者がデザートの飲食やお土産に野菜を購入する意見が多いことから、地元の野菜や果物を利用したジェラートを企画・販売した。
○また、併せて商品の説明用のPOPも企画・作成した。



■企画した「さつまいもとかぼちゃのジェラート」



■商品説明のＰＯＰ

実習を終えて

・短い期間で学生はよくがんばってくれた。今回の新商品をアンケート結果を踏まえながら本格販売できるよう考えていきたい。（道の駅）
・商品開発関係の就職を希望しており、今回は、企業やデパートでは体験できない「道の駅」だからこそ商品開発からコスト計算、作業工程など短期間に一連で学ぶことができ、今後の就職などに活かしていきたいです。（学生）

道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年８月１日（日）～８月５日（水）【５日間】
○実 習 生：跡見学園女子大学学生　４名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所とお土産コーナーのレジ体験）
②「道の駅」来場者へのアンケート調査
③観光資源の視察・把握（大瀬観光やなや益子焼など）
④着地観光プログラムの企画・提案

取組状況



■道の駅での職場体験（お土産コーナーでのレジ打ち）実施状況



■道の駅来場者へのｱﾝｹｰﾄ調査実施状況



■観光資源である大瀬観光やなを視察した際の関係者へのヒアリング実施状況

道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

取組状況



■観光プログラム企画会議の実施状況

実習成果

・真岡鉄道が10/25に実施する**ハロウィン列車（SL）と連携し、「道の駅」を発着とした観光資源を巡る味覚ツアーを企画**していくこととなりました。
今後、具体的な企画案をつくりあげていく予定です。
・今回の観光資源の視察を踏まえ、茂木町の観光資源や特産品などを整理し、来場者アンケート結果の検証なども行い、地方創生の一躍を担える**観光プログラムのビジネスモデルについて提案**していく予定です。

実習を終えて

・大学と道の駅との連携が、来年度も引き続き実施していただくことを希望します。（道の駅）
・実習を通じ、町の職員の方や道の駅の来場者が地元をとても愛していることを痛感し、今回の取り組みで「日本一の道の駅」にしていきたいと考えています。（学生）

道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年９月24日（木）～９月28日（月）【５日間】
○実　習　生：跡見学園女子大学学生　５名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所とお土産コーナーの売り場体験）
②「道の駅」来場者へのアンケート調査
③地域資源の視察・把握（えごまの葉の収穫やえごまの加工所視察など）
④オリジナル商品の企画、開発（えごまを使用した商品の容器やラベル）

取組状況



■道の駅での職場体験（お土産コーナーでのレジ打ち）実施状況



■道の駅来場者へのｱﾝｹｰﾄ調査実施状況



■オリジナル商品の企画・開発の打合せ

道の駅「もてぎ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・道の駅「もてぎ」で販売する**オリジナル商品の容器やラベルの企画・開発を行い、「道の駅」で販売**することとなりました。販売に向け容器や商品ラベルをつくりあげていく予定です。
・今回の体験で、茂木町の地域資源や特産品などの知識を深めることができたことから、今後、**企画・開発したオリジナル商品のポップ等を提案**していく予定です。



■えごまを使用したマヨネーズとえごまの葉の粉末の試作品

実習を終えて

・コストなどの制限された中、短期間で販売商品をゼロから考えることは難しいが、学生が良く頑張ってくれた。（道の駅）
・企画・開発に携われたオリジナル商品に愛着が湧きました。道の駅に来てくださる方に、商品を買っていただけるよう、今回の商品のＰＯＰ広告を作成し、道の駅に送りたいと考えており、採用していただければと思っています。（学生）

道の駅「やちよ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年９月２日（水）～９月６日（日）【５日間】
○実　習　生：江戸川大学学生　１名
○実習内容：①農産物直売所及び「やちよ梨フェア」での就労体験実習
②就労体験を踏まえた農産物直売所に関する提案
③特産物等の広報、情報発信の提案

取組状況



■農産物直売所での就労体験実習（開店前の商品陳列）の実施状況



■農産物直売所での就労体験実習（お米の精米）の実施状況



■やちよ梨フェアでの就労体験実習（梨の試食案内）実施状況

道の駅「やちよ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

取組状況



■学生と関係者による意見聴取の実施状況

実習成果（学生からの提案）

【提案①】ホームページの充実
・農産物の紹介（食べ方、特徴など）
・生産者の情報（告知、コメント、品揃え予定など）
【提案②】施設改修
・売り場、トイレ、駐車場などの増設
【提案③】売り場の工夫
・カートの設置、商品陳列の工夫（高齢者に優しい売場）
【提案④】農産物の出張販売、宅配サービス
・高齢者、一人暮らしの学生を対象とした客層の拡大
【提案⑤】商品の充実
・軽食等の販売

実習を終えて

・今後は、より学生の自由な発想を取り入れられるような実習を行っていきたい。（道の駅）
・バイト先のスーパーと違い、お客様と生産者との直接のやり取り等が見られ、「顔が見える関係」が築かれており、とても重視されていると感じました。（学生）

道の駅「とよとみ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月９日（日）～１１日（火）、９月１日（火）～３日（木）
【計６日間】
○実 習 生：山梨学院大学学生　１名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（農産物直売所のレジ体験、ハム製造・加工体験）
②「道の駅」農産物のPOP広告の作成
③ 地産農産物（トウモロコシ）を使った新商品開発やメニュー改良の提案
④ 観光資源の視察・把握（市内観光施設　など）

取組状況



■ゴールドラッシュの皮むき体験状況



■ハムの製造・加工の体験実施状況



■道の駅農産物直売所での
職場（レジ手伝い）体験状況

道の駅「とよとみ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

取組状況



■道の駅来場者へのヒアリング
実施状況



■商品開発（トウモロコシ使用）
に向けた企画打合せ実施状況

実習成果



■農産物（ポポー）のPOP広告

・POP作成
レジ業務でお客様から1番質問が多かった**"ポポー"**について、「どんな味がするのか」「その食材の食べ方」「買ってもらえる文句」の3点に絞って、**"ポポー"のPOP**を作成しました。

・新商品の企画提案
スイートコーン（ゴールドラッシュ）、地元野菜等を使用した商品を企画提案した。
・コーンバーガー
・ポップコーン
・ソフトクリーム
・さつまいもスティック
※今後、道の駅で具体的に検討をしていく予定です。

実習を終えて

・生産者さんや道の駅従業員の方々が優しく教えて下さり、また新商品アイディアの助言を頂き、有意義な実習となりました。（学生）
・来場者の方々からの声を聞くと、この道の駅は地域に根差しており、地元の方々にはなくてはならない施設だと実感しました。（学生）
・この道の駅でスイートコーンは一番人気商品であり、これを目当てに全国からお客様が来ていることから、スイートコーンを使った新たな商品の企画を提案しました。もっと活性化させて、また道の駅グランプリで優勝できる道の駅にしていきたいと考えています。（学生）

道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月１１日（火）～８月１８日（火）【８日間】
○実 習 生：帝京大学　１名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験等）
②業務体験を通じた業務改善の提案

取組状況



■道の駅での職場体験（野菜直売所でのレジ打ち）実施状況

実習成果

○将来の希望就職先（地域活性化に係わる職業）の業務イメージを道の駅での体験（接客、生産者との関わりなど）を通じ明確にすることができた。
（学生）

○職員一人一人が学生の真摯な姿勢に刺激を受けて、今まで以上に笑顔の接客を心がけ、積極的に業務へ取り組んでいた。道の駅全体の活気が増して職員の業務改善に大きく貢献した。
（道の駅）

道の駅「雷電くるみの里」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習を終えて

・業務に非常に前向きに取り組んでもらい、職員への影響も大きかった。（道の駅）

・地域振興に興味があって応募した。地元の道の駅で、笑顔の対応があり、自分もやってみたいと思った。実際来てみて、インターネットで事前に得られる情報とは違い、地域の方や、道の駅の人の明るさ、良さが、面と向かって話すことで分かった。とても忙しいが、とてもやりがいを感じた。（学生）

道の駅「あおき」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月６日（木）～８月１９日（水）【１４日間】
○実 習 生：大学コンソーシアムえひめ（松山大学）　１名
○実習内容：①「道の駅」職場体験（野菜直売所のレジ体験）
　　②体験型イベント広報の企画提案

取組状況



■道の駅での職場体験（野菜直売所でのレジ打ち）実施状況



■役場にて広報資料作成状況

道の駅「あおき」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果





■実習期間中に作成したイベント告知資料

・道の駅にて開催される「苗まつり8/29・30」及び「花実まつり9/20～9/26」の広報ポスターを作成。駅やHPに掲示していくこととなった。
・地元住民の間で、子供のインターンシップ先として「道の駅」で体験させたいとの関心が高まった。

実習を終えて

・道の駅は、コンビニとは違い、地域の方とのふれあいや、生産者の方と直接お話を伺うことができて良かった。今回の経験を活かし故郷（愛媛県）の活性化に活かしたい。（学生）

道の駅「カモンパーク新湊」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年9月11日（金）～9月23日（水）【13日間】
○実 習 生：青森中央学院大学学生　2名
○実習内容：①新商品企画（アイディア検討）
②地域観光資源調査
③イベントの企画
④通常の業務（レストランでの接客、イベント手伝い、直売等でのレジ業務）

取組状況



＜新商品企画等の打合せ＞



＜地域観光資源調査（新水市新湊博物館）＞



＜道の駅内でのイベント実施状況＞

道の駅「カモンパーク新湊」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果



新商品開発に向けて駅長へアイディア発表



「青森県産ホタテ貝焼」イベントに向けて作成したPR看板



学生自ら企画した「青森県産ホタテ貝焼」販売

実習を終えて

・ただアルバイトのように働くのではなく、新商品、イベントを企画する貴重な体験ができたので、常に良い勉強になった。（学生）
・接客対応は良い経験になり、商売・接客の難しさを感じた。（学生）
・二週間の経験を将来に役立てたい。（学生）

道の駅「美濃にわか茶屋」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月8日（土）～8月13日（木）【５日間】
　　平成27年8月24日（月）～8月28日（金）【５日間】
○実 習 生：中部学院大学学生　各１名
○実習内容：①地域の特産品である美濃和紙・和菓子・日本酒・佃煮・鮎などの商品陳列、管理等。
　　②野菜・花など販売接客。



取組状況


<Wi-FiのPR方法について提案>


<接客について説明を受ける>


<接客の実施状況>

道の駅「美濃にわか茶屋」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・販売補助等多くの方々と接する中で気になったことを提案

【Wi-FiのPR方法の提案】

■問題点・課題
・Wi-Fiが設置されているが有効利用されていない
・Wi-Fiがどこで使えるか分からない。また、繋ぐことによるメリットが分からない
■提案
・Wi-Fiによる情報提供内容をPRすることを提案
・Wi-FiのPRチラシの設置箇所について、Wi-Fiの電波状況を調査した上で提案

【施設配置の提案】

■問題点・課題
・子供が飲食をしているところに喫煙所があった（分煙が不十分）
・年配の方の休憩施設が少ないと感じた
■提案
・喫煙所の分離を提案
・利用者数に応じたベンチの設置及び施設の立地環境（清流長良川が眺望できる位置）を考慮して設置場所を提案

実習を終えて

・道の駅がこれだけ多くの人が立ち寄る施設であることや、レンタサイクルによる市内の周遊観光など道の駅と観光との関わり、防災機能が充実していることを初めて知った。（学生）

道の駅「古今伝授の里やまと」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月29日（土）～9月3日（水）【5日間】
　　平成27年9月10日（木）～9月14日（月）【5日間】
○実 習 生：中部学院大学学生　２名、立命館大学学生　１名
○実習内容：①地域の特産品である生乳加工品等の販売接客
　　②イベント開催補助



取組状況


<特産品について説明を受ける状況>


<道の駅の現状説明を受ける状況>


<SNSによる情報提供について提案>

道の駅「古今伝授の里やまと」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

道の駅関係者や道の駅来場者など多くの人との交流を踏まえて以下を提案

・若い人は自転車（ロード）とカメラ（1眼レフ）を持って数日移動している状況から、
　①ロードバイク用の駐輪場（スタンドの設置）を提案
　②若い人向けのゲストハウスの設置や持ち帰り用のおにぎりセットのメニューを提案
・Wi-Fi環境が整っているが利用者が少ないと感じたため、
　①Wi-Fi環境が整っていることのPRを提案（若者はWi-Fi環境を求めている）
　②ツイッターなどＳＮＳを活用した情報を発信の提案（若者の情報収集はスマートフォン）

実習を終えて

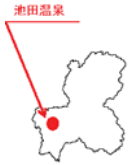
・今回の就労体験では、道の駅側の立場で多くの人と交流ができ、今後の人生に大変役に立つと思う。（学生）

道の駅「池田温泉」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月24日（月）～8月28日（金）【5日間】
○実 習 生：中部学院大学学生　３名
○実習内容：①接客体験（販売補助や清掃）を活かし、イベント広場の
　　活用方法について企画提案（予定）
　　②観光案内等の接客補助



取組状況


<清掃について指導を受ける状況>


<身体障害者トイレ清掃実施状況>


<こども広場の接客補助>

道の駅「池田温泉」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・接客補助やこども広場・トイレの清掃など

実習を終えて

・道の駅が池田町の観光施設となっているなど道の駅自体が目的地となっていたり、来場者を楽しませるような色々なイベントを行っていることに驚いた。（学生）

道の駅「富士川楽座」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成２７年８月１７日（月）～８月２６日（水）【１０日間】
○実 習 生：常葉大学学生　１名
○実習内容：富士川楽座利用者のマーケティング調査
　　７日間のマーケティング実習の後、調査資料をとりまとめ

取組状況


<施設の説明>


<調査方針の打合せ>


<お客様の利用目的などを調査>

道の駅「富士川楽座」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

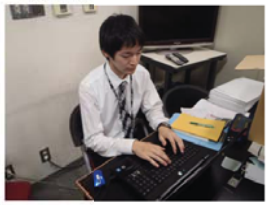
・聞き取り調査を実施



・聞き取り調査を実施



・調査結果のとりまとめ



実習を終えて

・お客さまに声をかけて、調査に協力頂けるお客様をみつけるのが大変だったが、楽しく実習できた。（学生）

道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年9月7日（月）～9月17日（木）【10日間】
○実 習 生：大阪観光大学学生　１名
○実習内容：①物販、食堂、イベント等における業務補佐
　　②商品陳列の整理

取組状況


<商品陳列の打ち合わせ状況>


<学生の提案による募金活動>


<事務補助業務の実施状況>

道の駅「奥伊勢おおだい」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・道の駅から離れている地区に行き農家の方が道の駅で販売する野菜の集荷を行った。利用する方は高齢者が多く、販売したくても道の駅に行くことが難しい方たちの負担を解消することができた。

・食堂で使う食券台の修理、屋台のシンク修理など設備修繕を行った。材料は廃材や使わなくなった部品を使って修理コストを抑えることができた。

・その他、実習中にイベント日があり、その時に学生からの提案で台風18号に伴う大災害に対しての義援金箱を設置し、集まった義援金を日本赤十字社へ寄附した（「道の駅」の公の役割を再認識）

学生からの感想

・地元、観光客など多くの人が集まり利用する施設と思わなく驚いた。地域の魅力を発信する施設であり、直接地域振興に関わる経験ができ有意義な研修ができた。

道の駅「農匠の郷やくの」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月24日（月）～9月4日（金）【12日間】
○実 習 生：立命館大学学生　１名
○実習内容：
①農体験の実践を通じて魅力あるＰＲ方法の企画・提案
②ぶどう・ブルーベリーを活用した新商品の企画・提案
③そばのＳＮＳを活用した広報の企画・提案
④地域のまつりに参加し道の駅の魅力づくりの提案


<道の駅各施設の状況把握>

取組状況


<農作業（草刈）体験>


<ぶどうの出荷作業体験>


<地域産品（そば）の販売>
（地域のまつりにて）

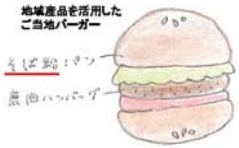
道の駅「農匠の郷やくの」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

道の駅を活用した地域活性化の企画案作成

今回の実習で行った様々な経験を通じ、道の駅活性化につながる企画案の作成や、全国で取り組まれている内容を参考にしつつ、地域産品を活用した新メニュー作成など地域活性化に繋がる企画案を作成。







実習を終えて

・草刈をするとは思っていなかったが、草刈は重要でその作業をしてくれる方への感謝の気持ちがわかった。また、仕事は人と人とのコミュニケーションであり、人とのつながりの上に全ての物事が動いていることを肌で感じることが出来た。（学生）

道の駅「おくとろ」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月3日（月）～8月22日（土）【20日間】
○実 習 生：立教大学学生　１名
○実習内容：
①若者にも魅力あるＰＲ方法・内容の企画・提案
②いかだ下りの『語り部』の実践
③外国人向けの北山村紹介、観光案内の企画・提案
④地域資源の掘り起こしチャレンジ


<ＰＲ方法の方向性議論状況>

取組状況


<特産品じゃばらの製造作業体験>


<いかだ下り案内状況>

道の駅「おくとろ」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

筏下り観光案内動画の作成

外国の方にも分かりやすいよう、英語字幕付きで筏下りの紹介動画を作成。
若者も惹きつける、外国人にもわかりやすい、【筏下り】の魅力を発信。
完成した動画は、筏下りのHP内に掲載すると共に道の駅のモニタでも映像を流します。







外国人への英語による説明

外国の方にもっと「おくとろ」を理解し楽しんでもらうため、工夫を凝らした説明を実施。
外国の方と談笑しながら筏下りに参加していただきました。



実習を終えて

・北山村は住んでいる方もとても親切で、場所も自然豊かな所でした。道の駅「おくとろ」のような観光事業の最前線に、今後も携わっていきたいです。（学生）

道の駅「ポート赤碕」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月10日（土）～8月21日（金）【10日間】
○実 習 生：香川大学学生　1名
○実習内容：
・若者目線での、琴浦町の話題や「道の駅　ポート赤碕」の商品広告企画の作成、売り場情報の発信
・日本海の新鮮な魚介類や町内農産品を用いた道の駅オリジナルの商品を提案
①　店舗での対面による物産販売　　②　中山間地域への移動販売
③　イベント用のディスプレイ広告作成・展示　④　岩がき等の特産品ＰＲ

取組状況


<①の実施状況>


<②の実施状況>


<③の実施状況>


<④の実施状況>

道の駅「ポート赤碕」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・若者目線での、琴浦町の話題や道の駅「ポート赤碕」の商品販売ディスプレイ広告の作成、売り場情報の発信





ディスプレイ広告データ作成・展示

・日本海の新鮮な魚介類や町内農産品を用いた道の駅オリジナルの商品を検討



実習を終えて

・道の駅として情報発信が弱いので、引き続き若者の力も借りながら、ホームページなどの作成を検討し、特産品、イベントなどのＰＲに活かしたい。（道の駅）

・今回のインターンシップを通じて、観光客減少や中山間部の高齢化による農業の衰退など鳥取県が抱える様々な問題について学んだ。将来は鳥取県でこのような問題を考え、自然や食などの強みを活かすことで課題を解決し、もっと活気ある鳥取県にしたいと考えており、今回の経験が役立つと確信している。（学生）

道の駅「笠岡ベイファーム」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月19日（水）～8月29日（土）【10日間】 ※8月24日（月）休み
○実 習 生：倉敷芸術科学大学学生　3名
○実習内容：①「道の駅」の仕組み・経営について把握
②商品の販売業務、農作物の植付体験
③笠岡市で生産されている食材調査。生産者へ直接聞き取り。
④調査結果を活用した「道の駅」オリジナル弁当（駅弁）の企画開発

取組状況


<駅長・笠岡市職員と「道の駅」について把握>


<食材のこだわり、直接生産者を訪問し調査>
"もみじたまご" 生産者への聞き取り


<オリジナル弁当（駅弁）の企画打合せ>

道の駅「笠岡ベイファーム」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・オリジナル弁当（駅弁）のプレゼン



・笠岡産食材のみ使用の「駅弁」
原価計算は実施



・学生が企画したオリジナル弁当（駅弁）を実際に試食



・「道の駅」・大学・国土交通省等の関係者等を招いて、オリジナル弁当（駅弁）のプレゼンを実施。
・地元食材にこだわった結果、コストの課題があるが、味は抜群。駅長は、売り出し方を工夫して「道の駅」で販売したいと意欲。

実習を終えて

・実施前に事前打合せをしていたので、スムーズに実習に入れました。（学生）
・「道の駅」・笠岡市役所・国土交通省の方が丁寧に対応してくれたので、充実した実習生活が送れました。（学生）
・10日間という期間は、気力・体力的に適当でした。（学生）

道の駅「舞ロードIC千代田」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月26日（水）～9月9日（水）【１１日間】
○実 習 生：鳥取大学学生　１名
○実習内容：①「道の駅」販売品の仕入れ／集荷を体験
②売り場での業務体験によるコミュニケーション能力向上
③イベント企画（地元産　はぶ草茶試飲企画）
④商品ポップの作成、店舗の売り場演出　など

取組状況


<道の駅の仕組みを把握>
駅長から講義


<集荷／仕入れ体験>
自らの目で商品をチェック


<売り場での業務体験状況>
お客様とのコミュニケーション

道の駅「舞ロードIC千代田」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

イベント（はぶ草茶試飲）の企画・実施



商品ホップ／店舗売り場演出



商品ホップ／店舗売り場演出



実習を終えて

・店舗演出で工夫が足りない部分もありましたが、売場や仕入れ等の業務体験など、自分の希望を全て、道の駅駅長、スタッフに尊重していただき、貴重な体験をさせて頂きました。道の駅が地域にとって重要な施設であることは間違いないと感じました。（学生）

道の駅「小豆島ふるさと村」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年８月１日（土）～８月３０日（日）【３０日間】
○実　習　生：立教大学学生　１名
○実習内容：①小豆島ふるさと村の観光業務体験
②観光メニュー等の企画立案（ウォーキングマップ作成）
③ＳＮＳによる情報発信

取組状況


＜カヤック体験補助作業状況＞


＜つり体験受付業務状況＞


＜キャンプ場ゴミ分別収集状況＞

道の駅「小豆島ふるさと村」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・観光メニューの作成状況等



・スタッフとの打合せ状況等



・実習成果素案



実習を終えて

・「小豆島ふるさと村」は、全国でも珍しいカヤックやキャンプ場などの体験できることから興味があり、参加しました。小豆島へ来て、まず地域の魅力を探ることから、島内を散策しま した。観光業務体験では、主にキャンプ場やカヤック補助等をメインに実施しました。そこで得られた経験をベースに、授業では経験することのできないSNSを使った情報発信、ウォーキングコースとサイクリングコースの考案などは、日々の授業で学んだ知識を活かすことができ、今後の卒論研究やゼミでの活動に結びつけていきたいと考えます。そして何より、さまざまな小豆島の魅力を理解し、SNSやカヤック業務で他人に伝える楽しさは、実際にインターンシップに参加することで、小豆島に生活し、働いたからこそ得ることができました。最後に私が考える今後の小豆島ふるさと村は、道の駅という伝わりやすいコンセプトを前面に出し、それを基盤とした施設作り、情報発信が必要だと感じました。（学生）

道の駅「しまなみの駅　御島」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月17日（月）～8月31日（月）【15日間】
○実　習　生：松山大学 学生 ２回生　1名
○実習内容：① 観光ガイド受講　② 農業収穫体験
③ みかん丸ごとケーキ作り体験　④ 漁業栽培体験　⑤サイクリングツアーの企画

取組状況

＜「しまなみの駅 御島」の説明実施状況＞



＜みかん丸ごとケーキ作り体験の実施状況＞



＜漁業栽培体験の実施状況＞



道の駅「しまなみの駅　御島」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・中間報告と改善点を提案（8月26日 意見交換会）



【サイクリングツアーの企画】
（ガイドを雇う、もしくはあらかじめ道の駅が用意したパンフレットに沿って）
・サイクリング中の方には「サイクリング割引」を行う。
（体験・見学施設・お土産代・宿泊施設 等）
・サイクリング中に一息つけるようなカフェを廃校になった学校などの一部を利用して作る。（特に周りに休めるような施設が無い地域）
・宿、疲れをしっかり癒やせるような、おもてなし。
（懐石料理のようなものではなくて、おふくろの味的なもの）

実習を終えて

・今回の経験を通して地域の活性化にも関わりたいと思い、今回のインターンシップを希望しました。当初は感じていた不安も、島の皆さんの温かさに触れることですぐに無くなりました。今回初めて来た大三島は、色々な研修を通じ大三島のことを知っていく中で、この島、この島に住む方々のことが大好きになり、野菜など食べる側の立場だけでなく、出荷者の立場についても学ぶことができました。島の素晴らしさに、島の方に気づいていただくことが重要だと思います。（学生）
・将来的には様々な年代の方にサイクリングを楽しんでもらうため、サイクリングイベントの実施や、サイクリングツアーの企画、若い女性をターゲットにしたグリーンツーリズム（女性はグループ旅行が多い）の写真を多く撮って頻繁にアップして宣伝をすること、観光案内所など人の目のつくところに掲示物として案内を貼るなどをしてはどうだろうかと思いました。（学生）

道の駅「あぐり窪川」インターンシップ結果概要①

国土交通省

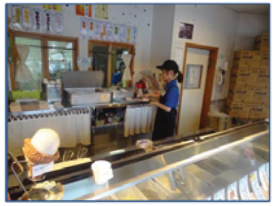
実習概要

○実習期間：平成27年８月２４日（月）～９月４日（金）【１０日間】
○実　習　生：平安女学院大学学生　１名
○実習内容：①「四万十生姜」及び「仁井田米」を使用したファストフードメニューの提案・開発及び製造・販売
②自社ブログ及びフェイスブック等のＳＮＳを活用し、来場者とのふれあいや生産者情報、加工品開発情報を発信する

取組状況


＜試作の実施状況＞


＜製造の実施状況＞


＜販売の実施状況＞

道の駅「あぐり窪川」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・地場産品活用に向けて作成した生姜とさつま芋のかき揚げ



・地場産品活用に向けて作成した生姜と仁井田米のドーナツ



・情報発信に向けて作成したブログ



あぐり窪川公式ブログ
（http://ameblo.jp/aguri-kubokawa/）

実習を終えて

・こめ粉ぱん工房とみるく工房では、こめ粉ぱんやアイスクリームの製造や農カフェ40010での販売実習を体験させて頂きました。商品の製造から販売までの一連の作業の流れを理解することができ、ひとつひとつの丁寧な作業が美味しい商品を作り出しているんだと改めて実感することができました。（学生）
・また地元の特産品である生姜を使用した新メニューの考案や試作は頭を使うことも多く大変ではありましたが、どの商品も地元の野菜や果物を使用しており、多くの方々に商品を買ってもらうことが生産者のためにもなるので頑張ることができました。（学生）
・ここ「あぐり窪川」のある四万十町は私の出身地です。愛着のある地元『道の駅』で様々な経験をさせて頂くことができました。急なインターンシップ実習であったにも関わらず快く受け入れてくださった「道の駅」スタッフの皆様、本当にありがとうございました。卒業後の進路の参考になった気がします。（学生）

道の駅「さいかい」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月7日（金）～8月23日（日）【17日間】
○実　習　生：長崎県立大学学生　１名
○実習内容：①イベント「ジャンボかぼちゃコンテスト」運営に対する新たな提案
②地元産品のみかん、びわ等を活用した新たな物産品のアイデア提案
③ＨＰ、ＳＮＳを活用した観光・イベント等の情報発信

取組状況


＜イベントの事前準備＞


＜手作りパンの製作＞


＜情報提供施設のチラシ配置＞

道の駅「さいかい」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・イベント「ジャンボかぼちゃコンテスト」の状況



・イベント内で実施した「氷中宝探し」を担当する学生



・学生が事前にイベント情報を掲載した道の駅ＨＰ



実習を終えて

・集客、イベント、商品開発等に対しアイデアを提案することは難しい。（学生）

道の駅「旭志」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成28年2月10日（水）～2月23日（火）【14日間】
○実　習　生：帝京大学学生　2名
○実習内容：①「道の駅」、直売所での視察研修
② 農産物生産者と現地での視察研修
③ SNS フェイスブック、ツイッター活用
④「道の駅」各部署での実地研修

取組状況



<道の駅視察研修の実施状況>
西水　養生市場



<農家研修　クレソン栽培>
菊池



<インターンシップ>
菊池まるごと市場研修

道の駅「旭志」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

○今後の新規性創造方策の提言書作成
・LINE・Facebook・Twitterを活用し、情報発信と宣伝を行う。
・上記を活用するものとして、農家・観光施設の写真多用
・若者の視点からの「宝」の発掘
高齢者などの交流できる場（空間）作り
大学などと連携した商品開発
都市部とのネットワーク作り
観光コンシェルジュの設置



<スマホアプリ導入への協議>

実習を終えて

・道の駅情報発信の新たな取組みとして、SNS等の活用が有用であると考える。
その際、農家・観光施設等の写真をPRの手段として多用することが重要。

道の駅「原尻の滝」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月23日（日）【13日間】
○実　習　生：日本文理大学学生　４名
○実習内容：①現地販売実習
②外国人向けサービスの企画提案
③新規顧客、リピーター向け企画提案
④お祭りイベントの準備支援
⑤現地販売の改善活動
⑥お祭りイベントへの提言

取組状況



<外国人向けサービスの実施状況>



<新規顧客、リピーター向け企画提案の実施状況>



<現地販売の改善活動の実施状況>

道の駅「原尻の滝」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

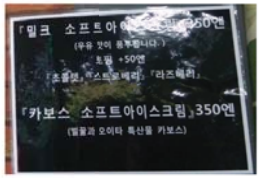
・トイレ、営業時間等についての多言語案内板の作成及び掲示



・韓国語版の「道の駅」パンフレットの作成



・韓国語版の販促案内板の作成及び掲示



実習を終えて

・学生は皆大変優秀で、各々で何でも理解し行動に移せて素晴らしいと感じました。（道の駅）
・従業員の仕事のマンネリ化も抑制できたと思います。（道の駅）
・雰囲気的にも明るくなりました。今後もこういう機会を作って頂きたいと思います。（道の駅）
・店内表示を韓国語に訳すことや、韓国語で話す最低限の言葉を表記することで従業員が困らないようにできてよかった。（学生）
・すごく良い環境で、今後もインターンシップにチャレンジしたい。（学生）

道の駅「なんごう」インターンシップ結果概要①

国土交通省

実習概要

○実習期間：平成27年8月10日（月）～8月24日（月）【15日間】
○実　習　生：青森中央学院大学学生　3名
○実習内容：①レストランでの接客業務
②農産物直売所でのレジ担当業務
③イベントの企画・実務業務
④アンケートによる市場調査

取組状況



＜レストラン接客業務の実施状況＞



＜イベントの企画検討状況＞



＜ポスター掲示の依頼状況＞

道の駅「なんごう」インターンシップ結果概要②

国土交通省

実習成果

・ｱﾝｹｰﾄによる道の駅市場調査



・地域活性化＆青森PR イベント



・ｲﾍﾞﾝﾄに向けて作成したﾎﾟｽﾀｰ



実習を終えて

・仕事をする中で駅長や皆様の指導、お客様とのふれあいをとおして、「働くということの意義」がわかった。
・お客様からよく道を聞かれた。道路情報のサポートも道の駅の役割として重要だと思った。

「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定

全国「道の駅」連絡会（以下「甲」という。）と○○○大学（以下「乙」という。）は、乙の所属学生（以下「学生」という。）が、「道の駅」において就労体験型実習を行うことについて、下記のとおり協定を締結する。

記

第１　目的

「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、もって、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的として、「道の駅」就労体験型実習（以下、単に「実習」という。）を行う。

第２　就労体験型実習実施に係る基本的役割等

甲は、全国の「道の駅」を対象として、実習の実施内容等をとりまとめ、乙に提示の上、学生を受け入れる「道の駅」の決定を行う。

乙は、甲の提示する実習内容に基づき、派遣する学生を推薦する。また、受入が決定された学生に対し、実習中の遵守事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第３　諸条件

実習の実施にあたって、必要な事項は学生を受け入れる「道の駅」と乙の間で別途定めるものとする。

第４　協議

本協定に定めがない事項又は本協定に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ１通を保管するものとする。

平成　　年　　月　　日

甲　全国「道の駅」連絡会会長　遠野市長　本田 敏秋

乙　○○大学学長【学部長等でも可】　○○ ○○

（別添１）

実習計画書

実習実施「道の駅」	道の駅名	道の駅
実　習　生	所属大学等名	
	氏　　名	
「道の駅」担当者	職　　名	
	氏　　名	
実習計画	目　　的	
	月　　日	内　容

※大学担当者と「道の駅」担当者の間で協議・検討し、実習内容を決定すること。
※必要に応じて、実習計画書の体裁を変えても良い。

（別添２）

「道の駅」就労体験型実習に関する覚書

道の駅「●●●」（以下「甲」という。）と○○○大学（以下「乙」という。）は、別記「「道の駅」就労体験型実習生名簿」に記載されている乙の所属学生（以下「学生」という。）が、甲において就労体験型実習（以下「実習」という。）を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第１　実習実施に係る基本的役割等

甲は、別記のとおり学生に実習させることを目的として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。

乙は、学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、実習を円滑に進めるため必要な指導及び監督を行う。

第２　実習時間、手当等の支給及び事故への対応等（道の駅と大学で協議し内容を決定）

（１）　実習時間は、午前○時○○分から午後○時○○分まで（以下「定時」という。）とし、このうち午後○時から午後○時までを休憩時間とする。ただし、○○○にあっては、実習時間は、午前○時○○分から午後○時○○分までとし、このうち午後○時○○分から午後○時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも実習を行うことがある。

（２）　甲は、実習中、学生に対し、通勤費（自宅又は滞在先より）を原則支給しない。また、手当（日当）、食費及び旅費（滞在先までの往復旅費）は必要に応じて甲の原則負担とする。

（３）　乙は、実習中における関係他者（甲、人物、財物等）に対する法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償できるよう、学生に損害賠償保険等に加入させ、保険等の写しを甲に提出させることとする。

（４）　学生の実習期間中の災害及び通勤に際しての災害については、学生の自己責任で損害を負担するものとし、また、乙が誠意をもって問題の解決にあたるものとする。

第３　実習中における遵守事項等

（１）　学生は、実習に関する甲の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、甲又は他の「道の駅」の信用を傷つけ、又は不名誉となるような行為を行ってはならない。

（２）　実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に甲に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても２日以上欠務した場合、甲は、実習を打ち切ることができることとする。

（３）　学生は、甲における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、甲の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

（４）　学生は、実習期間終了後２週間以内に、実習内容に関する報告書（様式自由）を作成し、甲に提出しなければならない。

（５）　学生は、実習の成果を論文等により発表する場合（乙の所属学生又は教職員のみに発表する場合を除く）には、事前に甲の承認を受けなければならない。

（6） 甲は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。甲は、実習を打ち切った場合は、速やかに乙にその旨を通知する。

第４　誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、甲に対して誓約書（別添７）を提出する。

第５ 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書２通を作成し、甲及び乙が記名捺印のうえ、それぞれ１通を保管するものとする。

平成　　年　　月　　日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

甲　道の駅「●●●」責任者（首長、駅長等）　●● ●●

乙　○○大学・・・・・　　○○ ○○

（総括責任者）

別　記

「道の駅」就労体験型実習生名簿

受入部署名	受入開始日	受入終了日	学部・学科	氏　名

（別添３）

誓　約　書

道の駅「●●●」責任者　殿

道の駅「●●●」において就労体験型実習を行うに当たり、「道の駅」設置者（自治体等）が定める就業体験実習に関する実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

１．実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。

２．実習期間中は「道の駅」職員が遵守すべき法令及び規則を遵守するとともに、実習生としての活動について「道の駅」担当者の指導、監督等に従うこと。

３．実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。

４．「道の駅」における実習活動中に知り得た情報(公開されているものを除く。)の開示については、「道の駅」担当者の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。

５．実習終了後２週間以内に、実習内容に関する報告書（様式自由）を作成し、「道の駅」担当者に提出すること。

６．実習の成果を論文等により発表する場合（乙の所属学生又は教職員のみに発表する場合を除く）には、事前に「道の駅」責任者（駅長等、「道の駅」設置者が設定）の承認を受けること。

７．病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに「道の駅」担当者にその旨を連絡すること。

平成　　年　　月　　日

大学等名　　学生氏名　　印

（別添４）

就労体験型実習受入結果報告

道の駅名	道の駅		
担当者名			
実習生名			
大学学部名等	大学　　学部　　学科　　年		
期　間	月　　日　～　月　　日		
出席状況	出席　　日　・　欠席　　日 遅刻　　日　・　早退　　日		
評価項目		評価	特記事項
実習生の実習態度	規律正しい態度であり、実習中支障がなかった	A・B C・D	
	業務内容の的確な理解ができていた	A・B C・D	
	業務内容に適応した行動であった	A・B C・D	
	目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた	A・B C・D	
就労体験型実習で得られた成果（アウトプット） 1.顕著な成果が得られた　2.成果が得られた　3.あまり成果がなかった			
就労体験型実習の波及効果・良い影響（例　職場が明るくなった、職員のITスキル向上　等）			
今後の改善点			
その他（感想・良かった点等自由にご記入ください。）			

評価：A（優れている）　B（やや優れている）　C（普通）　D（劣っている）の４段階

３．平成 27 年度 連携企画型実習結果

（１）連携企画型実習状況

平成 27 年度においては、全国 43 箇所の「道の駅」と 39 の大学との間で、42 の連携企画型実習が実施されました。

表-5　平成 27 年度 連携企画型実習状況一覧

道の駅名	都道府県	大学名	道の駅名	都道府県	大学名
てしお	北海道	北海道大学	中条	長野県	松本大学
みついし	北海道	室蘭工業大学	ちぢみの里おぢや	新潟県	長岡技術科学大学
いまべつ	青森県	青森大学	すずなり	石川県	金沢星稜大学
なみおか	青森県	弘前大学	紀宝町ウミガメ公園	三重県	鈴鹿大学
とうわ	岩手県	岩手県立大学	竜王かがみの里	滋賀県	滋賀短期大学
石鳥谷	岩手県	岩手県立大学	農匠の郷やくの	京都府	成美大学 （H28.4～福知山公立大学）
あ･ら･伊達な道の駅	宮城県	石巻専修大学	北はりまエコミュージアム	兵庫県	阪南大学
鳥海	山形県	東北公益文科大学	杉の湯川上	奈良県	大阪大学
常陸大宮	茨城県	茨城大学	吉野路大塔	奈良県	帝塚山大学
ひたちおおた	茨城県	茨城大学地域づくり大学･高専コンソーシアム	愛彩ランド	大阪府	和歌山大学
はが	栃木県	文星芸術大学	ふるさとセンター大塔	和歌山県	和歌山大学
にしかた	栃木県	宇都宮大学	第九の里	徳島県	徳島大学
どまんなか　たぬま	栃木県	佐野短期大学	ふれあいパークみの	香川県	香川大学
もてぎ	栃木県	跡見学園女子大学	たからだの里さいた	香川県	香川大学
甘楽	群馬県	帝京大学	小豆島ふるさと村	香川県	香川大学
玉村宿	群馬県	群馬県立女子大学	恋人の聖地 うたづ臨海公園	香川県	香川大学
めぬま	埼玉県	立正大学	ピオスおおがた	高知県	高知工科大学
果樹公園あしがくぼ	埼玉県	淑徳大学	さいかい	長崎県	長崎国際大学
いちごの里よしみ	埼玉県	立教大学	生月大橋･昆虫の里たびら	長崎県	長崎県立大学
鴨川オーシャンパーク	千葉県	城西国際大学	みえ	大分県	立命館アジア太平洋大学
とよとみ	山梨県	山梨学院大学	つの	宮崎県	宮崎大学

※「茨城大学地域づくり大学･高専コンソーシアム」は、3つの大学と1つの高等専門学校（茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学、茨城工業専門学校）より構成されている。（道の駅「ひたちおおた」と実施している取組については現在実施中）

（２）平成 27 年度 連携企画型実習結果概要



道の駅「みついし」と室蘭工業大学との連携

国土交通省 北海道開発局

道の駅「みついし」と室蘭工業大学（建築社会基盤系学科土木工学コース）の学生が連携して、地域資源を活用した道の駅の活性化に向けた企画提案を行います。

①新ひだか町の地域資源の把握
- 道の駅「みついし」の現状把握。
- 町内の観光施設や農業等の地域資源について調査を実施。

【地域資源を学習】
- 新ひだか町内の「観光案内所」や「和牛センター」、「乗馬施設」など各施設の現地調査、ならびに働いている方へヒアリング調査を実施し、今回の取り組みに反映。

観光案内所



和牛センター



反映

②課題抽出及びプラン案の検討
- 道の駅内の各施設における課題を抽出。
- 課題の改善地域資源を活用した「道の駅」活性化案を検討。

発展

③地域資源を活用した道の駅の活性化案を新ひだか町に提案。

【室蘭工業大学】
自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献するため設立された大学です。

【道の駅「みついし」について】

新ひだか町のマリンレジャーの拠点である三石海浜公園の中にあり、敷地内にはみついし昆布温泉「歳三」もあります。三石海浜公園は、充実した施設として注目されるオートキャンプ場と海水浴場もあり、道の駅はオートキャンプ場のセンターハウスも兼ねています。

オートキャンプ場



ふれあいビーチ



道の駅「みついし」と室蘭工業大学との連携

国土交通省 北海道開発局

平成２７年度　取組み内容：道の駅の活性化案の検討

取組み前の調査

●道井新ひだか町長と、新ひだか町及び「道の駅」の現状等について意見交換を実施。



●新ひだか町の地域資源を現地調査（乗馬施設）



○学生が現地に宿泊し、新ひだか町について学び、現地調査を行い、発見した魅力ある地域資源をもとに、道の駅活性化案の検討を行いました。

○検討結果発表会において、提案内容を新ひだか町へ説明。
- 軽種馬や昆布、みついし牛等の地域資源の活用
- 観光客の滞在時間を延ばすため、屋外休憩施設の改善

等を提案しました。

●併設するキャンプ場に宿泊し、施設を利用した経験や調査した地域資源をもとに、活性化案を検討



●副町長をはじめ、新ひだか町職員に検討した活性化案を報告





道の駅「いまべつ」と青森大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

国土交通省による、「道の駅」と大学の連携事業として、「道の駅」いまべつと青森大学が2015年10月6日、連携協定の覚書を交換。学生の視点を生かした道の駅の活動支援事業が始まる。



聞き取り調査で可能性と課題を把握

連携は、学生が「道の駅」の商品開発や運営への提言を行う「連携企画型」で実施。



「道の駅」いまべつ・山田駅長へ聞取

「荒馬」めぐる交流にヒント



荒馬の里資料館

今別町の小野成治・新幹線対策室長に聞き取り調査する中で、「荒馬まつり」を軸とした若者の移動や交流に活性化のヒントを得る。



小野室長に聞き取り調査

2015年10月の青森大学祭で中間報告（社会学部3名）。
2016年4月に「道の駅」へ本年度最終報告予定。
自然環境や観光資源に恵まれた今別町を効果的にPRするため、**「情報発信力の強化」（ホームページ開設など）が提案**予定。
連携活動は来年度以降も継続。

【青森大学】
「大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す」ことを大学の教育理念としており、地域社会との交流体験を通じて一人ひとりの個性と能力を伸ばす「実践スキルアップ」を実施しております。

今後の計画

- **2年目**
  - **新幹線の効果・影響の検証**
  - **ニーズに応じた提言・支援**
- **3年目**
  - **新幹線の効果・影響の検証**
  - **学生による企画、実践の試行**

【道の駅「いまべつ」】
平成28年3月26日に開業する、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」に隣接した「道の駅」です。今後は地域の観光拠点を目指して取り組んでいきます。

道の駅「なみおか」と弘前大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

「道の駅」なみおかと弘前大学（人文学部）の学生が連携して、「来客数1割アップ達成のための施策」の検討を行い、企画提案を行います。

課題：来客数1割アップ達成のための施策



課題解決策検討、施策検討

道の駅訪問



連携のヒントを探しています

駅長より概要についての説明を受けた後、学生達が道の駅の現状を、連携のヒントを探しながら見て回りました。

企画提案についての発表を学生が行い、それに対して道の駅からコメントをいただく、という流れでミーティングを行いました。



道の駅と企画提案の相談です

道の駅「なみおか」と弘前大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

成果報告会



各グループによる発表の様子

学生が5つのグループに分かれて、各グループごとに、企画提案についての発表が行なわれました。

道の駅が若い人達の出会いの場となれるように考えられた「みちコン」や、夜間の利用者数が少ないことに目を付けた「天体観測」の提案など、各グループそれぞれによく考えられた成果報告がされていました。

アップルヒル雪まつり



スノーキャンドルでライトアップされた道の駅

「弘前大学との連携」で企画提案された学生のアイディアも取り入れた「アップルヒル雪まつり」が開催されました。

学生が提案した企画からは「スノーキャンドル（ローソクの雪灯籠）」と「雪中宝探し」が取り入れられました。



雪中宝探しの様子

【弘前大学】
「教育基本法の精神にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者の育成をもって目的とする。」ことを大学の基本理念としております。今回は、人文学部で開講された「ビジネスシミュレーション実習Ⅰ」において「道の駅なみおか」と連携した取り組みを行いました。
※ビジネスシミュレーション実習Ⅰの概要
事業の企画提案のために必要な基礎知識について事例研究や実務家の講義・指導などを受けながら学習する。また、実際に事業を企画することを想定し、企画提案書の作成方法も学習する。具体的には、青森県の企業や製品を対象とし、企業の経営戦略や、製品のマーケティング戦略について企画・検討していくものである。

【道の駅「なみおか」】
「道の駅なみおか創業20周年祭」の第1弾として、今回の弘前大学との連携における、学生からの提案を取り入れた「アップルヒル雪まつり」を開催しました。
今後も、年間での「来客数1割アップ」を目指して、様々なイベントを企画したいと考えています。

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

石巻専修大学の学生が、「あ・ら・伊達な道の駅」（重点「道の駅」）において現地調査等を実施し、課題を抽出・整理するとともに、「あ・ら・伊達な道の駅」のポジション（ゲートウェイ型：地域の観光総合窓口機能、インバウンド観光の促進等）を踏まえ、

○ 地域情報の発信拠点機能の強化　○ 若者を呼び込む新たな魅力の創出　○ 外国人観光客への対応

を重点課題として取り組み、改善策の提案や企画の立案等を行います。

■現地調査から道の駅の課題を抽出、改善策を検討
- ○「道の駅オススメ観光マップ」等の作成、コストを意識した情報提供方法を考える。
- ○ 外国人観光客に対応した情報発信、スタッフの外国語によるコミュニケーション手段の検討。
- ○ 大学内で学生対象のアンケートを実施し、若者の「道の駅」利用実態とニーズを把握、新たな魅力ある企画を提案。

■課題に対する具体的提案
- ○ **「地域情報発信拠点の強化」**について
  県や市のHP上の観光情報等をQRコードに集約し携帯端末等で読み取り情報を得る。⇒ パンフレット減少（コスト削減）
- ○ **「若者を呼び込む新たな魅力の創出」**について
  「道の駅」で販売している食材と、姉妹都市である北海道当別町のジンギスカンを食材にした「手ぶらバーベキュー」の開催を提案。
- ○ **「外国人観光客への対応」**について
  「指差し会話集」の活用を提案
  札幌市の「指差し接客会話シート」、茨城県観光物産協会の「外国人観光客指さし会話集」をラミネート加工し提供。
  （札幌市・茨城県観光物産協会ともに承諾済み）





【石巻専修大学】（所在地：宮城県石巻市）
石巻専修大学は「社会に対する報恩奉仕」を建学の精神として1989年に開学しました。 本学では「実践的な教育」を教育目標に掲げ、様々な分野をより専門的に学べるようコース・履修モデルを導入。さらに、実験・実習やゼミナールなど、教員との「対話」を重視し、少人数教育を行う本学ならではのきめ細かな指導を行っています。



【あ・ら・伊達な道の駅】（所在地：宮城県大崎市） **重点「道の駅」**
地域資源（伊達政宗の史実・文化等）を活用し、インバウンド観光を促進する観光拠点を構築。温泉・地域資源を活かした独自商品を開発・販売。鳴子峡や温泉郷を「見る観光」に、地域の文化・芸能を「知る観光」にそれぞれ位置づけ、一段高いレベルの観光を提供。

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

現地調査・意見交換会・歴史勉強会等の実施状況



＜現地調査＞
「道の駅」の課題を抽出



＜意見交換会＞
改善すべき課題の共有



＜歴史勉強会＞
歴史・地域情報資源を把握



＜観光スポット視察＞
発信すべき情報の整理

中間発表会等を経て

最終成果報告会



＜学生からの最終提案＞
それぞれの課題に対する改善策等の発表





＜報告書の提出＞
学生から駅長へ「最終成果報告書」を提出

道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」と石巻専修大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

学生の提案内容

①地域情報発信拠点の強化について

■QRコードを活用した情報発信・集約を試行し、「道の駅」において活用する改善策を提案。

■WEBを活用した情報発信方法の提案

○ 地域情報発信拠点として求められるもの ⇒ 情報の内容：イベント・周辺観光・地域交通
道路・気象・災害・医療・宿泊施設等

○ 有効だと考えられる情報手段 ⇒ HP上で観光情報を提供、地域巡りコースやツアーを掲載
県・市の観光情報のリンク、コースマップのPDFを貼り付ける
Facebook（SNS）での情報発信 → スタップブログを転用
⇒ パンフレット減少（コスト削減）の解決策となる。



【学生の提案を受け運用中のQRコードによる観光案内】

②若者を呼び込む新たな魅力の創出について

○ 学内において実施した学生アンケートの結果から、
「道の駅」におけるバーベキュー開催を検討。
「道の駅」で販売している地元新鮮野菜と姉妹都市である北海道当別町のジンギスカンを食材にした「手ぶらでバーベキュー」の開催を提案する。
「道の駅」の野菜を、積層白髭関が所属している宮城野部屋に送っているエピソードを宣伝文句にすることにより、地域のアピールにも繋がる。



【バーベキュースペースの提案】





【地元新鮮野菜と姉妹都市の当別町のジンギスカン】

③外国人観光客への対応について

○ 「指差し会話集」の活用。
・札幌市の「指差し接客会話シート」、茨城県観光物産協会の「外国人観光客指さし会話集」をラミネート加工し「道の駅」へ提供。
（札幌市・茨城県観光物産協会ともに承諾済み）
※「指差し会話集」を「道の駅」で実際に使用し、使い勝手を茨城県観光物産協会にフィードバックすることにより、さらに使い易く編集した「指差し会話集」の作成が可能。



【「指差し会話集」 出典：札幌市】



おつかれさまでした。

道の駅「鳥海」と東北公益文科大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

道の駅「鳥海」と東北公益文科大学が連携して道の駅の観光、産業振興、防災など多様な役割や地域社会との関わり、課題について学ぶとともに、「道の駅」の売り場の改善や将来に向けた「道の駅」の活性化策の提案を行います。

【競争型課題解決演習】
「道の駅鳥海ふらっと公益活性化プロジェクト」

○実施日時：平成27年10月2日～平成28年1月22日
金曜日の全15回　13時00分～14時30分
○実施場所：「道の駅」鳥海、東北公益文科大学207教室
○受講生　：東北公益文科大学の学生9名

※「競争型課題解決演習」とは、地域や企業から提示された課題の解決に公益学を学ぶ学生が取り組む東北公益文科大学の演習授業。
（競争型⇒複数の学生チームに課題の解決案を競わせる方式）

①「道の駅の多様な役割や地域社会との関わりの把握
②「道の駅」の現状と課題の把握
・道の駅の現状と、商品の販売等における困難が抱える課題等について「道の駅」鳥海の駅長、国交省酒田河川国道事務所より講義を受け、道の駅の役割、地域との関わり、課題について学ぶ。
③特産品売り場の改善に向けた利用者への聞き取り調査
・売り場の現地調査、利用者ニーズを調査を実施、調査結果を踏まえ「道の駅」鳥海との意見交換

発展

④大学生目線での「道の駅」売り場の改善提案
⑤将来に向けた「道の駅」活性化策の提案
・売り場の改善策、道の駅の更なる活性化策の検討（グループディスカッション）を経て、1月22日「道の駅」鳥海にて提案発表（報告会）を開催



【道の駅（鳥海）】
「道の駅」鳥海は、東北山形県の最北、名峰鳥海山山頂を有する遊佐町にあり、日本海側の国道7号沿い、秋田県境付近に位置する道の駅です。日本海と鳥海山の恵みを受けた地元産の農産物と水産物を人気の的として、利用客数約230万人（H24県内第1位）を誇り、全国から来訪者を集めています。



【東北公益文科大学】
東北公益文科大学は、2001年、山形県並びに庄内地域2市3町（鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町）が設立した日本で初めて「公益学」が学べる公校民営の大学です。グローバルな視野を持ち、地域の人々とともに、地域社会が直面する経済、行政、福祉などの課題に、リーダーシップをもって展開に取り組む人材を育成します。



道の駅「鳥海」と東北公益文科大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：「道の駅」売り場の改善に向けた利用者聞き取り調査

○「道の駅」鳥海の特産品売り場改善に向けた現地視察
（平成27年10月23日）
・施設全体の現状の説明を受け、各売り場の状況や遊佐町の特産品を把握するため、「売り上げ上位の商品は何か」、「特産品の取り扱い数は何品目か」、「現在商品ディスプレイに工夫されている点は何か」など多くの質問が出されました。
・学生からは「幅広い世代に集まっていただけるような売り場空間にしたい」と気持ちを新たに意気込みが見られました。
・駅長からは「私たちの気づかない新鮮なアイディアを期待しています。」と学生に期待を寄せていました。



【真剣に説明を聞く学生たち】

○利用者への聞き取り調査
（平成27年11月6日）（平成27年11月13日）
・「道の駅」鳥海の利用者の特産品売り場に関する意識を調査し、」売り場改善の参考とするため、聞き取り調査を行いました。
・「特産品売り場で購入した商品は何か」、「商品を選んだ理由」、「どなたに購入したのか」など、合計１０５名の利用者の方々にご協力をいただきました。
・今後の「道の駅」鳥海の売り場改善の参考として「特産品売り場をよくするためにどんなところに力を入れて改善したら良いか」なども併せて聞き込みし、聞き取り調査結果をとりまとめ、駅長さんと意見交換を行っています。



【熱心に聞き取りする学生】

道の駅「鳥海」と東北公益文科大学との連携

国土交通省 東北地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：売り場の改善提案、「道の駅」の更なる活性化策の提案

○報告会開催（平成28年1月22日）
　2チームの学生に分け、課題解決案を競わせる競争型課題解決演習による提案報告会を「道の駅」鳥海にて開催。



【「道の駅」鳥海での報告会】

1）特産品売り場の改善提案
【利用者聞き取り調査結果より】
・お客様の6割が県外、3割が圧内地域、６０歳代が6割、夫婦家族連れが多い
・特産品を目立たせてほしい、試食が少ない、イチ押し商品がわかりづらい、地場産品をもっと多く置いてほしい、売り場が狭いなど
【学生からの改善提案】
・道方から来たお客様に地場産品をＰＲでき、従業員が直接説明することにより、お客様に興味を持っていただくためＰＯＰを積極的に活用する。
・試食を増やすと衛生面の問題から実現が難しいため、試食をしたような効果を生み出す手書きで温かみのあるＰＯＰを使用する。
（※学生９名がそれぞれＰＯＰを作成しました）
・商品の配置を換え、人がすれ違うことができる余裕のある通路幅にする。

2）将来に向けた「道の駅」活性化策の提案
・町内の観光施設と繋ぐバスロータリーを設置し、町内を巡回するバスの発着地点を設置してはどうか。
・バブリカ祭り、バブリカキャンドルづくり体験、バブリカ型のデザインの椅子、外灯など、姉妹都市であるハンガリー・ソルノク市から伝わった特産品である遊佐町バブリカをＰＲし、関連商品の売り上げにつなげてはどうか　など。

【学生が作成したPOP（ポップ）設置状況】







「道の駅」鳥海フラットの指定管理者の遊佐町総合交流促進施設株式会社より
○森　常務取締役
・若者目線から見る斬新なアイデアはとても参考になりました。
○鈴木駅長
・改善を重ねて出来上がったポップは、味や香りまで想像出来るようなものになりましたね。ありがとうございました。

道の駅「常陸大宮」と茨城大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「常陸大宮」と茨城大学（人文地理学Ⅰゼミナール）の学生が連携して、地域資源を発掘しながら、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

地理学を学ぶ学生が、現地調査や生産者との交流を通じて「見て・聞いて・体験しながら」魅力的な地域資源を発掘。

反映

①魅力を体感できるイベント・ツーリズムの企画
・常陸大宮市の魅力が体感できる体験・交流型のイベントや、自然を体感できるツーリズムのメニューを企画します。
②特産物を使った新商品開発
・特産物を使った商品を開発します。さらに、開発した商品を使った道の駅での空間づくりを提案します。

発展

③情報発信・PR
・道の駅周辺の魅力的な地域資源や、大学と道の駅による連携した取組みを、SNSを利用して発信していきます。

【茨城大学】
道の駅は「地域の魅力を創造・体感・発信するための場」であり、地域を知ってもらうことで、「ここにまた来たい、住んでみたい」という人が増え、それが地域の活性化につながっていきます。
茨城大学人文地理学Ⅰゼミナールでは、地理学という視点から地域資源を発掘するとともに、学生ならではの若い感性も取り入れ、常陸大宮市の魅力を発信していきたいと考えています。来客者が常陸大宮市の魅力を五感で感じてもらうことを通じて、幅広い客層に支持される道の駅づくりを目指します。（小原　規宏（茨城大学人文学部社会科学科 准教授））

【アリーナ社会論に基づくまちづくりの展開】



町をアリーナ（劇場）にみたて様々な役者（地域資源）が一つの目標に向かって進むまちづくりのあり方を、今回の企画提案において道の駅を中心に実践していきます。

【道の駅「常陸大宮」について】
道の駅「常陸大宮」では、『常陸大宮市の魅力を創造・体感・発信するための場づくり』を基本コンセプトに平成28年3月25日オープンいたします。



道の駅「常陸大宮」と茨城大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　魅力的な地域資源の発掘

取組み前の調査

●ベテラン農家へ取材調査



●300人の生産者が出荷する直売所「グリーンハウス大宮」への調査



魅力的な地域資源を発掘

あやめ雪の発掘

取材の中で「あやめ雪」という、実の上部が紫色の色鮮やかな珍しいカブを発掘、常陸大宮では昔から浅漬けで食べていたもの



→地域ならではの食べ方を伝えると共に、新しい食べ方の提案

ロマネスコの発掘

調査する中で「ロマネスコ」という珍しい洋野菜を発掘、常陸大宮であまり食べられずに出荷先は主に東京方面



→地元常陸大宮で地消できるような取り組みの提案

今後の展開

①地域資源の更なる発掘

②発掘資源の活用提案（イベント、商品開発、PR等）

道の駅「はが」と文星芸術大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「はが」と文星芸術大学（美術学部デザイン専攻）の学生が連携して、「道の駅」販売商品の開発等を行います。

①芳賀町の観光・地域資源の把握
・花火大会や道の駅販売商品に関するヒアリング調査

反映

■花火大会ポスターの作成
②「芳賀町ロマン花火 2015」 の開催案内ポスター製作
■「道の駅」販売商品等のデザイン作成
③「梨ワイン」の商品ラベル作成

発展

④デザインによる高い価値を持った商品の開発（ブランド化）

反映

【芳賀町ロマン花火２０１５】

道の駅「はが」の西側で開催され、例年5～6万人が訪れる花火大会です。約5000発の花火が打ち上げられ、五行川（ごぎょうがわ）の水面に映る花火は幻想的です。

「芳賀温泉ロマンの湯」の露天風呂からも鑑賞できます。また、当日は、道の駅「はが」において様々なイベントを開催予定です。



【にっこり梨】

芳賀町の特産品で、無袋栽培で太陽の光をふんだんに浴びて育ち、シャリッとおいしい歯ざわりで人気の赤梨です。甘くてみずみずしく、夏ばて解消にも効果があると言われています。

今後、「にっこり梨」を使用した「梨ワイン」の販売を予定しています。



【文星芸術大学】

文星芸術大学（所在地：栃木県宇都宮市）は、伝統と最先端の双方に根ざした優れた美意識を持った人材の育成など広く文化に貢献できる人材育成を教育目標としており、７つの専門分野を設けています。

このうち、デザイン専攻は、グラフィックデザインや装飾デザインなど４つの研究室に分かれており、造形教育に特化することなく、今のデザイナーに必要な「経営のための技術」という実践的な側面も学んでいます。

また、地域社会との連携を深めるため、文星・芸術文化地域連携センターを平成２０年９月に学内に設置し、自治体と連携し、各種デザインの企画・開発に取り組んでいます。



【はがまるくん】

芳賀町のマスコットキャラクターです。平成２６年に迎えた「町制施行６０周年」にさきがけて、公募により募集・決定しました。

道の駅「はが」と文星芸術大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：花火大会開催案内ポスター作成及び商品ラベルのデザイン

取組み前の調査

●大学と道の駅との打合せ状況



平成27年4月から学生と道の駅関係者で打合せを重ね、大学側からは、浮世絵等のデザインを参考にポスターを作成する提案があり、道の駅関係者からは、道の駅を中心に屋台が連なり、花火を見ている人々が沢山出ている情景をデザインする要望がありました。

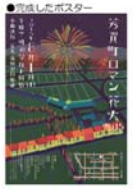
【花火大会ポスターの伝達式の状況】

○ポスター作成に参加した２名の学生から駅長に花火大会ポスターを手渡しました。

●学生から駅長に手渡している様子



●完成したポスター



【3種類のワインの商品ラベル】

●ラベル完成・商品販売



●ワイン発売発表会



○学生が３種類のワインの商品ラベルをデザインし、町で発売発表会を開催しました。

道の駅「にしかた」と宇都宮大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「にしかた」と宇都宮大学（教育学部家政教育専攻）の学生が連携して、地元農産物（とちぎ小江戸ブランド認定農産物）を活用した道の駅「にしかた」オリジナルのメニュー開発を行います。

①栃木市の地元農産物の把握
・「とちぎ小江戸ブランド」認定の農産物を調査し、真上の梅の収穫を体験し、生産者の声をヒアリング調査

反映

「とちぎ小江戸ブランド」に認定されているお米や梅などを活用したメニューの開発
②農村レストランのメニュー開発
③農産物直売所の弁当・総菜のメニュー開発
④スイーツのメニュー開発

発展

⑤道の駅「にしかた」オリジナルメニューを開発し、道の駅で販売。

反映

【とちぎ小江戸ブランド】

栃木市内の特性を活かした、特産品及び農作物等を地域ブランドとして認定し、県内外に情報を発信することにより、本市の知名度向上、産業の振興及び地域の活性化を図ることを目的とし、栃木市ブランド推進協議会において、審査し認定を行っています。

ちなみに農産物は、平成25年度までに「真上の梅」を含め15品目が認定されています。



【お米（桜おとめ）】

「桜おとめ」は、栃木市西方町産で江戸時代から品質の高さに定評があります。日光連山からの湧水が流れる思川から小倉堰を介して水田に行き渡り、高い技術により栽培されています。



【真上の梅】

真上地区では、昔、こんにゃくいもを栽培していたが、高齢化に伴い放棄地が出てきたため、あまり手のかからない梅を平成15年から栽培することになった。

平成20年には本格的な収穫が始まり、年々収穫量が増えています。

なお、今年の6月には収穫体験ツアーを予定しており、宇都宮大学の学生も体験し、生産者の思いを受け取りメニューに活かしたいと考えています。



【宇都宮大学】

宇都宮大学（所在地：栃木県宇都宮市）は、1949年に創立された栃木県で唯一の国立大学で、専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成を目指しています。

今回、参画する教育学部家政教育専攻では、生活に関する専門教育を基礎とし、生活全般にわたる専門的・実践的な内容からなる講義と実験・実習等を行い、生活者の視点を踏まえて総合的な観点から多面的に捉える教育と研究等を進めています。

今までの取り組みの一つとして、平成２４年度より地場産物を活用した健康メニューの開発も行っており、開発した「餃子めし」などは、食育フェアや市の保健センター、学校給食等で提供され、好評を得ています。

なお、「地域活性化の中核的拠点」を目指し、平成２８年４月に新学部「地域デザイン科学部」の設置を計画中です。

道の駅「にしかた」と宇都宮大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：道の駅「にしかた」オリジナルメニューの開発・販売

取組み前の調査

【学生による真上の梅の実収穫体験】

●収穫体験の様子



●生産者の方へのヒアリング状況



●新メニュー打合せの様子



○メニューづくりに参加する学生８名が、栃木小江戸ブランドである真上の梅の実の収穫体験を行いました。当日は、生産者の方から、梅の実の収穫の仕方や真上の梅の特徴、最良の調理方法をおそわったり、苦労話や真上の梅への思いなどをうかがいました。

【オリジナルメニューの完成】

栃木市長による新メニュー７品目の試食会を開催しました。

●試食会での学生からメニューについて説明の様子（栃木市長）



●学生が提案したメニュー（西方にらジェノベーゼ＆地元の梅を使用したチキンフライセット）



【完成メニュー試食販売】

学生が提案したメニュー（お総菜、デザート）を「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2015」のイベント来場者に試食販売を行いました。

●フェアでの試食・販売の様子





道の駅「どまんなか　たぬま」と佐野短期大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「どまんなか　たぬま」と佐野短期大学（総合キャリア教育学科）の学生が連携して、「道の駅」販売商品の開発や地域貢献（福祉サービス事業）活動の提案等を行います。

①学生による道の駅の状況調査
・地元農産物や地場産商品を視察

反映

②道の駅オリジナルデザートや弁当の開発
・オリジナルデザートや弁当を開発提案します。
③直売所野菜について生産者と調理法等の説明パネル作成
・農産物直売所で販売している野菜等を提供する地元生産者の紹介等をわかりやすく親しみやすいパネルの作成提案をします。
④高齢者等のための福祉サービス
・福祉スキルを活かし、福祉サービスの提案を行います。
⑤「道の駅」と「短大」の相互体験交流

発展

⑥大学の多様な専攻分野を活かし、効果的な事業の提案・継続実施

反映

【日本野菜ソムリエ協会認定】
農産物直売所とレストランが、H26年9月と10月に日本野菜ソムリエ協会の認定レストランと青果取扱店となりました。野菜にこだわった料理を提供しているレストランと青果物流通の活性化を目指す青果取扱店として両方の認定は、全国初です。



【無料宅配サービス】
道の駅「どまんなかたぬま」で販売している商品について、高齢者等を対象に佐野市内限定で、無料にて宅配サービスを行っています。



【学生参加イベント】
地元の方達によるイベントが、道の駅にある「どまんなかホール」を利用し、定期的に行われています。



【佐野短期大学】
今年度、開学２５周年を迎える佐野短期大学（栃木県佐野市）は、文部科学省認可の「総合キャリア教育学科」を有し、幅広い教養教育を基本に、自立に向けた専門的知識と技術を身につけた地域社会に貢献できる人材の育成を目指しており、２６年度の正規採用就職率９８．３％と就職に強い短大です。
今回、参画する総合キャリア教育学科は、栄養士、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の養成課程の他、医療事務、社会福祉、英語、観光、情報、ビジネス、健康スポーツ、ファッション、フードなどの専門分野があり、それぞれの分野の特性を活かしながら、多彩な提案や活動を展開していきます。

道の駅「どまんなか　たぬま」と佐野短期大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：「道の駅」販売商品の開発や地域貢献（福祉サービス）活動の提案・実施

取組み前の調査



【オリジナルデザート試食会の実施】
○学生が考案した地場産野菜を使ったデザートの試食会を行い、「大玉とさつまいものモンブラン」「かき菜といちごタルト」「きゅうりゼリー」の３品を道の駅来場者に試食してもらいました。
また、併せて作成した「栄養知識用ファイル」も配布しました。





【福祉サービス（こども虐待防止オレンジリボン運動）の実施】
○「こども虐待防止オレンジリボン運動」の関連となった栃木県で、学生と保育園児による両者活動を行いました。
学生の代表が児童虐待防止への誓いの言葉を述べ、学生と園児が、佐野市のゆるキャラ「さのまる」と一緒に手話を交えた歌を披露し、この運動のチラシやリボンを配付しました。





【直売所のいちごディスプレイ作成】
○学生が、道の駅の農産物直売所の売り場に、生産者の方のいちご作りに対する熱い思いや品種について説明する手作りのいちごディスプレイを行いました。





【福祉サービス（「どまんなかHawaii」）の実施】
○障害をお持ちの方や高齢者に足を運んでもらう機会を作ることを目的に、学生がイベントを企画しました。
学生たちによるフラダンスやフラダンス解説、会場に集まった皆さんと一緒に簡単なフラダンスを踊りました。





【相互体験交流（障害者や高齢者などへのおもてなしの授業）の実施】
○佐野短大キャンパスを会場に道の駅の職員が、接遇の向上を目的として高齢者や障害者へのおもてなし授業を受講しました。
大学の先生から高齢者や障害者の介助法などについて講義を受け、学生アシスタントとともに高齢者や障害者の疑似体験し、実際に介助法などの支援について学びました。





【相互体験交流（小学生餃子つくり教室）の実施】
○夏休みの小学生の思い出づくり「小学生餃子つくり体験教室」に、学生８名がアシスタントとしてお手伝いしました。





道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学（観光コミュニティ学部）の学生が連携して、観光資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①来場者アンケート調査と茂木町の観光資源の把握
・道の駅「もてぎ」利用者のニーズを調査
・茂木町の「文化」や「特産」を学び、地域の観光資源を把握

反映

②着地観光プログラムの企画・提案
・「大瀬観光やな」などの体験を活かし、着地観光プログラムを企画提案し、学生自らツアーガイドを実施
③オリジナル商品の企画・開発
・「ゆず」や「ブルーベリー」などの地域資源を活かしたオリジナル商品の開発

発展

④着地観光プログラムやオリジナル商品の情報発信の提案

反映

【観光資源を学習】
「大瀬観光やな」や「ブルーベリー農園」で夏期休暇を利用した実習（8/1～8/5）をおこないながら、働いている方から苦労話や思いを聞き取り、今回の取り組みに反映します。



【跡見学園によるツアーガイドの実績】
跡見学園では、学生自らが、観光や文化について、仕事を体験したことを活かし、ツアーガイドを実施した実績があり、これらのノウハウを活用していきます。



【跡見学園女子大学】
1875(明治8)年の「跡見学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、実践的な教養を備え、自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としています。
今回、参画する「観光コミュニティ学部」は、「観光」と「コミュニティ」の両面から地域を活性化させることのできる「デザイン能力」をもった女性の育成を目指し、今年度から新しく開設されました。
また、昨年度は、観光マネジメント学科の学生が「大学生観光まちづくりコンテスト」でグランプリ（観光庁長官賞）を受賞するなど観光地域づくりにおいて多数の実績があります。

【道の駅「もてぎ」について】
道の駅「もてぎ」では、「もてぎ手づくり工房」を整備し、６次産業化に取り組んでおり、更なる商品開発を行い、全国に情報を発信していきます。



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：着地観光プログラムの企画・提案

取組み前の調査

●茂木町の「文化」や「特産」を学び、地域の観光資源を把握（写真の講師は古口町長）



●茂木町の観光資源を現地調査（やな）



学生が茂木町について学び、現地調査し、発見した魅力ある観光資源をもとに、着地観光プログラムの企画・提案を行いました。

さらに、提案した着地観光プログラムの課題把握や改善点の提案等をおこなうため、モニターツアーを行いました。

●着地観光プログラムの企画・提案にむけた打合せ状況



●モニターツアーの地元そば粉を使用したそば打ち実演で、学生が説明



●モニターツアーの餅と船が離上する川下で、学生が「やな漁」を説明



道の駅「もてぎ」と跡見学園女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：地域資源を活かしたオリジナル商品の企画・開発

取組み前の調査

●道の駅「もてぎ」利用者のニーズを調査



●道の駅の物産販売所を調査



アンケート調査結果や、えごまの葉の収穫、えごま等の地産品の加工所を視察し、茂木町の地域資源や特産品などの知識を深めました。

それをふまえ、道の駅もてぎのオリジナル商品について、容器やラベルのデザインを提案しました。

●道の駅もてぎ手作り工房の視察状況



●商品ラベルの企画打合せ状況



●学生がデザインに関わったえごまを使用したオリジナル商品の容器やラベル（試作品）



道の駅「甘楽」と帝京大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「甘楽」と帝京大学（経済学部）の学生が連携して、まち歩き体験プログラムやフードメニューの開発を実施します。

①まち歩き体験プログラムづくり

■道の駅を城下町小幡のまち歩きの入口として位置付け、以下を実施。

・クイズ形式で謎解きをしながら観光拠点を巡りつつ、関連するクイズや体験（羽根つき等）を行う回遊プログラムの企画提案。

・回遊プログラムを中心にまちの魅力を発信、提案する観光コンシェルジュの仕組みづくりを企画提案。

【城下町小幡の古い街並み】



【国指定名勝楽山園】



②まち歩きフードメニューの開発

■地元特産品や交流都市の食材等を活用したまち歩きのお供となるテイクアウト・アイテムを中心に、道の駅フードメニューの開発等を実施。

【姉妹都市イタリア・チェルタルド市】



【イタリアから直輸入のワイン】



【まち歩き体験プログラムの実施】
■イベント名：まち歩きピンゴ大会
■開催日時：平成28年3月13日（日）
PM1：00～PM2：30
■開催場所：道の駅「甘楽」を含む周辺エリア

【道の駅「甘楽」】

歴史情緒あふれる城下町小幡の玄関口にあたり、地元の新鮮な農産物や特産品、工芸品、お土産、姉妹都市イタリア・チェルタルド市直輸入のワイン・オリーブオイルなどの販売を行っています。



【帝京大学】

帝京大学経済学部観光経営学科を中心に学生約7名が道の駅甘楽を現地研究フィールドとする「道の駅検討チーム」として活動予定。

これまでに経済学部観光経営学科の大下教授は、甘楽町まちづくりアドバイザーとして「歩きたくなるまち『小幡』の実現に向けて」をテーマに、甘楽町観光まちづくりプランに参画されています。

道の駅「甘楽」と帝京大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：甘楽町の魅力を発見する体験プログラムの企画・提案
①まち歩き体験プログラムづくり

取組み前の調査

●道の駅での来訪者アンケート調査



●学生によるまち歩きプログラムの試行状況



○「まち歩きピンゴ大会」の開催

帝京大学大下ゼミナールの学生は、道の駅利用者へのアンケートや道の駅周辺の現地調査をおこない、甘楽町の魅力を発見する体験プログラムの企画・提案に取り組んできました。

学生が、子ども達に地域巡りで地元の良さを知ってもらい、誇りをもって住みつづけてほしいとの思いから、甘楽町に「まち歩きピンゴ大会」を提案し、今回のイベントを開催することとなりました。

開催に向け、ピンゴカードやシールのデザイン作成、子供が楽しめるクイズの作成、危険が予想される箇所への学生配置等の安全対策などの準備も進めました。

●学生による大会ルール説明状況



●大会参加者のまち歩き状況



●イベント案内チラシ



●使用したまち歩きマップ



●使用したピンゴカード



道の駅「甘楽」と帝京大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：甘楽町の魅力を発見する体験プログラムの企画・提案
②まち歩きフードメニューの開発

取組み前の調査

●道の駅利用者へのアンケート調査



○まち歩きフードメニューの開発

学生は、高齢者の来訪者が多いことに気づき、おからを使って帝京大学らしさを感じるラグビーボール型のドーナッツや、ピザ生地を使ったピザロール等を提案。

引き続き、食べ歩きに適しているメニューの検討を進めていく予定。

○農産物直売所の商品構成・ディスプレイの企画

アンケート調査の結果、販売している商品の陳列がわかりにくいとの意見がありました。

そこで学生は、「イタリア料理に関連する商品を一箇所にまとめてレシピを置けば家庭での献立にも役立つのでは」と考え、農産物直売所の一角で『プチ贅沢な時間をワインとパスタでプロデュース』と題した商品陳列を企画しました。

●道の駅に設置した大学ブースの状況





●ブースに設置したパスタのレシピ



道の駅「玉村宿」と群馬県立女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「玉村宿」と群馬県立女子大学（国際コミュニケーション学部）の学生が連携して、学生が発見した玉村町の魅力を発信し、「道の駅」を盛り上げるイベントを企画します。

ビジネス・リーダー論の授業におけるグループ・ワークの企画発表会

1. 目的
調査分析力・課題解決力・行動力などの向上を目指す。

2. 課題
道の駅「玉村宿」を盛り上げるイベントを企画し、実行する。
・H27.5.31に道の駅がオープンし、玉村町は地域活性化の起爆剤として期待
・道の駅の教育的機能への期待（H23.11.21観光庁・国土交通省）
・「地域力×女子力＝無限大の未来」（2015男女参画週間のｷｬｯﾁﾌﾚｰｽﾞ）の実践

3. イベント
(1)テーマ：We♡TAMAMURA～女子大生が伝える玉村の魅力
(2)目標：道の駅「玉村宿」の認知度向上

4. 提案する企画
①電動バスを用いた玉村観光ショート・トリップ企画
②道の駅「玉村宿」の名物となる弁当企画
③玉村の観光名所を伝えるイベント企画
④玉村の行事（花火大会など）を伝えるイベント企画
⑤玉村の食（グルメ）を伝えるイベント企画

【道の駅「玉村宿」】
平成26年5月31日に開業した群馬県31箇所目の道の駅です。
採れたて新鮮野菜や、卸売市場直売店の「肉の駅」ならではの新鮮で上質なお肉や揚げたてコロッケ、メンチなども販売しています。
又、食堂の「Tama亭」では、地場産食材を使った料理を提供。特にこだわり抜いた軍配山ラーメンがお勧めです。
食事のあとは地元で評判のスイーツも堪能する等、たまむらグルメをぜひ満喫してください！



【群馬県立女子大学】
日本で2校しかない公立の女子大学で、文学部、国際コミュニケーション学部の2学部があります。
国際コミュニケーション学部の安倉准教授は、「ビジネス・リーダー論」の授業や「社会デザイン論ゼミナール」において、地元の玉村町と連携し、道の駅「玉村宿」を盛り上げるイベントを企画・実行するグループワークに取り組んでいます。

道の駅「玉村宿」と群馬県立女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：道の駅を盛り上げるイベント「道の駅女子大プロジェクト」の開催

取組み前の調査

①玉村町役場と道の駅「玉村宿」による大学での講義（平成27年6月11日）

【学生の講義受講状況】



【玉村町職員による講義】



【道の駅駅長による講義】



②玉村ツアーを実施（平成27年6月20日）

【道の駅「玉村町」の見学状況】



【玉村八幡宮の見学状況】



【電動バスも見学！】



③「道の駅」を盛り上げる企画案を発表（平成27年7月23日）

【学生による発表状況】



【玉村不思議発見クイズを提案】



【玉村弁当（仮称）を提案】



群馬県立女子大学の学生が企画したイベントを開催。

■イベント名：
道の駅女子大プロジェクト

■開催日時：
平成27年11月22日（日）
AM11：00～PM3：00

■開催場所：道の駅「玉村宿」



道の駅「玉村宿」と群馬県立女子大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容：道の駅を盛り上げるイベント「道の駅女子大プロジェクト」の開催

イベント当日

学生が玉村町について学び、現地調査し、発見した魅力あるグルメ、観光名所及び史跡、電動バスの情報を発信するため、道の駅を盛り上げるイベント「道の駅女子大プロジェクト」を開催しました。

●学生が考案したレディースランチの販売状況



●玉村町所有の電動バス試乗会を実施



●学生によるルール説明状況（道の駅「玉村宿」のグルメNo.1を決定する「たまわんグランプリ2015」）



●学生による玉村町の観光とイベントの紹介
「We Love TAMAMURA!」



道の駅「めぬま」と立正大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「めぬま」と立正大学の学生が連携して、道の駅と国宝「妻沼聖天山（歓喜院聖天堂）」を核とした地域活性化に向け、観光情報発信、観光資源マップの作成等を行います。

■道の駅めぬまと国宝「妻沼聖天山（歓喜院聖天堂）」の連携促進

1. 学生による観光情報発信
   - イベント時に道の駅内に学生による観光案内デスクを設置
   - 道の駅を拠点とした観光モデルルートを紹介
   - 道の駅の来場者のニーズを、アンケート調査、分析により確認
2. 新たな観光資源マップの作成
   - 学生が道の駅から妻沼聖天山までのフィールドワーク調査等により新たな地域資源を発掘
   - 道の駅と妻沼聖天山を拠点とする新たな観光資源マップとして取りまとめ

妻沼聖天山歓喜院（熊谷市HPより）
本殿「聖天堂」は約830年前に、源平合戦の英雄、斎藤別当実盛により開かれたとされ、現在の建物は、宝暦11年（1760）に完成しました。
日光東照宮を彷彿させる本格的装飾建築で、その精巧さゆえに「埼玉日光」と称され、国宝に指定されています。





立正大学
立正大学は（所在地：東京都品川区および埼玉県熊谷市）、2012年に開校140周年を迎えた歴史と伝統のある総合大学で、「人間・社会・地球（環境）」に関する8学部15学科を有しています。
今回、参画する地球環境科学部地理学科では、人文・自然の両面から地域の事象を把握し、問題点を探っていきます。2014年に大学が文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択されたことを受け、双方向授業やフィールドワークの充実など、学生がよりアクティブに学べる教育環境を整備し、新しいスタイルの授業を展開しています。
また、学生がまちづくり活動に参加する場として熊谷市妻沼地区の観光まちづくりを取りまとめ、2015年3月に地理学科学生取材による「めぬま観光読本。」を発行しています。



道の駅めぬま
花や野菜をテーマにしたアグリパーク内の「めぬまる」では、ジェラートをはじめ、農とろ饅頭、ジャンボいなり寿しが人気です。
バラ園では、約400種2,000株の華やかなバラを楽しむことができます。新鮮野菜はめぬま物産センターで販売されています。



道の駅「めぬま」と立正大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：学生による観光情報発信

取組み前の調査

●学生たちがフィールドワークにより道の駅から妻沼聖天山までの地域資源調査



●地域資源となるネギ畑の調査の様子



熊谷市妻沼地区の若手経営者の集まりである「めぬま商人会（あきんどかい）」の主催で、昭和レトロをコンセプトとした「第3回熊谷妻沼昭和まつり」が妻沼聖天山境内で開催されました。

当日は14名の学生が、まつり会場と道の駅「めぬま」内に観光案内デスクを設け、昭和まつりや妻沼地区に関する観光情報を提供しました。

併せて、今後の取り組みの参考とするため、来場者アンケート調査を行いました。

●昭和まつり会場の様子



●道の駅での観光案内デスクの様子



●昭和まつり会場での観光案内デスクの様子



道の駅「めぬま」と立正大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：新たな観光資源マップの作成

取組み前の調査

●商店街での無料日傘レンタル実施の調査状況



●「ゆるきゃら」を活用した地域資源ＰＲ撮影の様子



学生は、四季をとおして、道の駅「めぬま」から妻沼聖天山にかけて地域資源発掘調査を実施しました。

調査結果の発表や、地元の方との意見交換、観光案内マップの効果的なＰＲ方法について議論する「町なかゼミ」を開催し、試作をつくって検討を重ねながら「妻沼観光案内図」を作成しました。

●「町なかゼミ」での意見交換状況



●「町なかゼミ」での調査結果発表状況



●学生が作成した「妻沼観光案内図」



道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

横瀬町の道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学（経営学部経営学科）の学生が連携して、地元産物を活用したオリジナル商品の開発や町の魅力を広める情報発信の企画・立案をします。

①横瀬町の産物や観光農園などの調査把握

横瀬町に豊富に存在する産物等の資源を把握し、市場調査を踏まえながら新たな町の魅力を発掘します。

②「果樹公園あしがくぼ」オリジナル商品の開発

調査把握をふまえ、新たな町の魅力を伝えるオリジナル商品を開発します。

③道の駅のお客様が自ら情報発信したくなる「場」の創出

お客様に道の駅での体験や商品をSNSや口コミとして発信してもらうために必要な仕組みづくりをします。
（例：イベント企画による話題作りなど）

横瀬町ファンのさらなる創出へ！

【横瀬町の観光農業】

横瀬町の観光農園は、イチゴなどを中心とした施設園芸や、ブドウ、プラムなどの果樹栽培が年間を通じて盛んに営まれています。最近では、栽培が大変難しいブドウの新品種「ちちぶ山ルビー」を栽培する農園も多く、種が無く皮ごと食べられ、その独特の甘さが多くの方に人気となっています。

また、中山間地域特有の傾斜地を利用して古くからお茶の栽培が行われていますが、平成24年度からは2番茶を利用して紅茶の生産を始めています。紅茶は、道の駅で洋菓子やソフトクリームなど加工品の材料としても用いられ、新たな地域の特産品として注目されています。

○イチゴ（冬～春）



○ブドウ（夏～秋）



○緑茶・紅茶（初夏）



【淑徳大学】

淑徳大学（経営学部所在地：埼玉県入間郡三芳町）は、社会福祉の増進と教育とによる人間開発・社会開発に貢献する人材の育成を目的とした大学で、2015年に創立50周年を迎えます。

経営学部は体験型・実践型学習を充実させていることが特長です。講義での知識獲得だけではなく、各種企業の協力を得て、学んだ知識や論理を確認・定着・発展させる取り組みを積極的に実施しています。このような取り組みから、学生に広い視野を持ってもらうとともに、問題を発見し、分析し、解決する力を養成しています。

【道の駅「果樹公園あしがくぼ」】

当道の駅は、山々の深い緑、横瀬川の清流、澄んだ空気と四季折々の花や果樹といった、豊かな自然に囲まれています。駅施設内には、農産物直売所・食堂・休憩施設・体験道場（うどん・そば）・陶芸教室・ギャラリーなどがあり、屋外には交流広場や川のせせらぎを楽しめるデッキもあります。

施設のすぐ脇を流れる横瀬川の散策もでき、水に親しみ、のんびりゆっくり休めるなど、ドライブ途中のリフレッシュには最適です。花、緑、丸、水といった自然のすばらしさを体感できる道の駅です。

道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：「果樹公園あしがくぼ」オリジナル商品の開発

取組み前の調査

●横瀬町の産物である緑茶や紅茶の生産工程を見学



●観光農園で四季折々の産物について、話を伺う様子



横瀬町の調査を実施し、町の産物や製品の生産工程、そして観光農園を調査しました。

その調査を元に学内でアイデアを出しながら学生同士でディスカッションを重ねた商品開発班は、紅茶のパッケージの提案や横瀬町の各種果物を想定しフルーツフレーバーティーを試みました。

●学生が提案した緑茶デザイン案



●道の駅へ中間報告の様子



●中間報告後にフルーツフレーバーティーについてのヒアリングの様子



道の駅「果樹公園あしがくぼ」と淑徳大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：道の駅のお客様が自ら情報発信したくなる「場」の創出

取組み前の調査

●道の駅にて打合せの様子



●学生がイベント会場で成功を祈願して記念撮影実施



学生が横瀬町の魅力をひろめることを目的に、道の駅から歩いて10分ほどのところにある「あしがくぼの氷柱」会場でアイスキャンドルアートのイベントを実施しました。

イベントまでには横瀬町や秩父青年会議所の協力も頂きながら、関係者との調整や、ろうそくを入れる氷の器作成、学園祭でのアイスキャンドルの実験の準備を進めるなかで気運を高めてきました。

当日は、日没とともにアイスキャンドルアートが点灯されると、通路いっぱいのお客さんから歓声があがりました。

●学生たちが作成したアイスキャンドル



●アイスキャンドルの設置実施の様子



●アイスキャンドルアートイベントの実施状況



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学（観光学部）の学生が連携して、「道の駅」の歳時記カレンダーや吉見の食材を活かした独自商品などを企画・立案します。

吉見町の地域資源調査
町の魅力を追求するため、道の駅利用者や地域の農家などに取材します。

歳時記カレンダー作成
イベント情報（祭）、花の見ごろ（彩）、地域野菜の旬な時期（菜）等を歳時記にします。

祭・彩・菜の3つの**"サイ"**で、よしみの**今**が一目でわかる、**サイ**時記カレンダーを作成します。

独自商品等の企画
吉見町の魅力を発信できる商品やオリジナル弁当などを企画します。



吉見町PR大使 よしみん

【吉見町】

・吉見いちご
合併直後の昭和30年代から養蚕に代わって栽培が始まった吉見のいちご。
荒川と市野川に挟まれた肥沃な大地にとびきりおいしいいちごの生育に最適で、今や県内一の生産量を誇る産地です。



・吉見あぶら味噌
吉見町認定のB級グルメ「あぶら味噌」は、昔から農家で食べられていた掘土料理。
栄養価も高く疲労回復に効果的です。
町内飲食店では、あぶら味噌ハーモニーを展開中。



・花便り（桜・菜の花／紅葉）
四季折々の花が楽しめるのも魅力です。
特に、権堤公園の桜のトンネルと菜の花のコントラスト、晩秋を彩る八丁湖の紅葉と紅葉をライトアップするヒーリングナイトは、吉見町自慢の景色です。



【立教大学】
立教大学観光学部（所在地：新座市）は、今年度より「道の駅」と連携し、学生の実践的学びとして様々なプログラムを実施しています。「就労体験型」として、学部の正課インターンシップ（学部の正規の授業として単位が認定されるもの）である「観光インターンシップ」の受講生2名のほか、学部内公募の学生2名が各地の道の駅で実習を行います。
道の駅「いちごの里よしみ」を舞台とした「連携企画型」として、東教授のゼミナールに所属している8名の学生が、コンセプトの提案や商品企画、イベント企画等、様々な課題に取り組んでいます。（東教授のゼミナールでは、マーケティングの視点から観光・サービス・まちづくり等、様々な問題について学生の自主的な取り組みを活かした研究を進めています。）

【道の駅「いちごの里よしみ」】
埼玉県内第1位の生産量を誇る「吉見いちご」の直売やいちごのお土産が買える、「いちご づくし」の道の駅。
地元野菜が並ぶ農産物直売所、B級グルメが味わえる食堂、いちごをモチーフにした遊具もある広場など、年間を通して多くの来場者で賑わいます。



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：独自商品等の企画

取組み前の調査

●吉見町の魅力を追求するため、地域資源調査



●道の駅と大学との打合せ



吉見町の「吉見のうまいもんフェアin いちごの里よしみ」で学生が企画した「あぶら味噌焼きうどん」のお披露目と来場者アンケート調査を実施しました（平成27年10月25日）

「吉見のうまいもんフェア」でお披露目した「あぶら味噌焼うどん」を、立教大学学園祭にて販売しました。（平成27年10月31日～11月1日）

●学生が提案したあぶら味噌焼きうどん



●来場者アンケート実施状況



●学園祭での「あぶら味噌焼うどん」販売の様子



道の駅「いちごの里よしみ」と立教大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：歳時記カレンダーの作成

取組み前の調査

●道の駅の調査



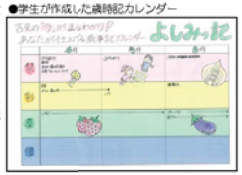
●道の駅で聞き取り



学生が吉見町の地域資源調査を調査し、「よしみっ記」歳時記カレンダーの作成を行いました。

作成にあたっては、道の駅支配人、吉見町職員への意見を伺いながら修正をかさねました。あなたが仕上げる歳時記として４つ目の「催」を追加しました。

●学生が作成した歳時記カレンダー



●道の駅へ報告状況



●歳時記カレンダーを囲んで先生と学生で記念撮影



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、海の幸・山の幸に恵まれた鴨川の食材を活かした独自商品の開発や魅力を発信する「情報基地」化を企画・立案します。

①道の駅「鴨川オーシャンパーク」利用者のニーズを調査。
また、鴨川の「歴史」「文化」「特産」を学び、地域の観光資源を把握。

結果を反映

②独自の販売商品等の開発
- 鴨川の魅力をぎっしり詰めた、道の駅で販売するオリジナル弁当等の企画・販売
- 道の駅内にあるレストランの新たなメニュー開発、レストランのレイアウトの提案



光沢と風味が自慢の長狭米



地元で水揚げされた金目鯛

③観光資源の情報発信
- 魅力を発信する「情報基地」としての仕組みづくり
- 鴨川の魅力をまとめたリーフレット等の作成



道の駅を拠点とした情報発信



魅力を発信するリーフレット

【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】

城西国際大学は、ウェルネスツーリズム※を目指した実践的な観光学を学びます。特に親身な教育、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての実務に強い教育が特色です。

※ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との協働で生み出される人と地球にやさしい観光」のことです。

ウェルネスツーリズム



【道の駅「鴨川オーシャンパーク」】

鴨川オーシャンパークは、文字通り豊かな自然や温暖な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に触いとやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地場産業や文化、芸術分野との連携を図ることで地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：独自の販売商品等の開発

取組み前の調査

●「鴨川の魅力」を活かした食の商品開発についてグループ毎に議論



●元大手ホテル総料理長、馬場先生の監修のもと行われたメニュー開発



鴨川について学び、地域の食材、ほんものの食材にこだわった「鴨川の魅力」を活かした商品開発について、道の駅関係者も交え、議論を重ねてきました。

商品のネーミング、原価計算、食材選び・調達方法の他、販売の広報素材づくりもおこない、道の駅で限定５０個で販売したお弁当は、数時間で完売しました。

●販売当日の盛り付け作業状況



●お弁当（岡総太海のたまてばこ）販売ブースの様子



●学生が企画・販売したお弁当とデザート。2月6日に道の駅で販売し、限定５０個が完売



道の駅「鴨川オーシャンパーク」と城西国際大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：観光資源の情報発信

取組み前の調査

●道の駅「鴨川オーシャンパーク」利用者のニーズを調査



●道の駅関係者との意見交換



観光資源の情報発信として、太海地区に焦点を絞り、周辺の昔懐かしい雰囲気のある漁村や、家の軒先を巡るような裏路地など、何気ない日常の中に存在する地域の資源を調査しました。

学生が感じた地域の魅力を「太海探検マップ」として作成し、道の駅鴨川オーシャンパークで配布するとともに、パネルも作成・展示し、道の駅利用者へ情報発信しました。

●太海地区の魅力を発掘する現地調査



●学生が作成した「太海探検マップ」。
2月6日から道の駅の観光情報施設で配布



●太海地区の図情豊かなパネルも展示



道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「とよとみ」と山梨学院大学（国際交流センター）の学生が連携し、道の駅で販売する特産物等のPOP広告※を企画・提案したり、留学生の視点を活用した外国人観光客向けの観光施設の充実など、道の駅を中央市のインバウンド観光の拠点とするための取組みを行います。

※商品名と価格、キャッチコピーや説明文、イラストを手描きしたもの

■「道の駅」の実地調査
　観光案内所、施設内案内表示及び商品ディスプレイなどの問題点の抽出
■中央市の観光施設の調査
　中央市の「歴史・文化」を学び、留学生の視点で観光地の魅力を発見

反映

■外国人観光客向けパンフレットの作成や直売所での商品説明/POP（案）を提案
■留学人学生の視点で発見した観光施設の魅力を外国人観光客向けにアピールする改善点の提案

発展

■道の駅を中央市のインバウンド観光拠点に

【山梨学院大学】
山梨学院大学（所在地：山梨県甲府市）は、昭和21年に創立され、日本文化への深い理解と広い国際的視野をもって社会に貢献する人間の育成を目指し、豊かな教養と創造力を備えた人格の形成を図ることを教育理念としています。
学部横断型副専攻として観光・ホスピタリティプログラムを行っており、観光、宿泊、レジャー施設等で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。また、国際交流センターではアジア、ヨーロッパ、アメリカ圏からの留学生との国際交流を図ることで、グローバルな視野を養っています。

■道の駅とよとみ
【特産品のトウモロコシを使った焼酎】



■中央市の観光施設
【歴史郷土資料館】





道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：中央市の特産物や地産品を使用した商品、レストランメニューの多言語表記を含めた外国人向けパンフレット作成やPOP広告等の企画・提案

取組み前の調査

●道の駅関係者との打合せ



●道の駅の物産販売所を調査



実地調査を実施し、中央市の地域資源や道の駅の特産品などの知識を深めました。

その調査を踏まえ、留学生の視点を活用した外国人観光客向けパンフレットを作成しました。

また、施設内案内表示及び商品ディスプレイなどの問題点を抽出し、直売所での商品説明/POP（案）を提案しました。

●学生が多言語表記に携わった、道の駅「とよとみ」外国語案内パンフレット（完成品）



●外国語案内パンフレットの内容打合せ状況



●直売所商品説明及びポップ（案）

<くとうもろこしの焼酎>
表示例：
（日本語）
「焼酎　道の駅オリジナル焼酎　”とよとみ”　&　”恵”」
（中国語）
「本地特产烧酒-丰富＆梦」



道の駅「とよとみ」と山梨学院大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：中央市の観光施設の現地調査を実施し、中央市の「歴史・文化」を学び、留学生の視点で観光地の魅力を発見

取組み前の調査

●中央市の「歴史」や「文化」を学び、地域の観光資源を把握



●中央市の観光資源を現地調査（シルク体験館）



●中央市の観光資源を現地調査（歴史郷土資料館）



■課題、改善点の提案

○景色のすばらしい公園や歴史や文化を学べる貴重な品々を展示している施設があるため、日本の歴史や文化が好きな外国人向けにPRしてはどうか。そのためには、パンフレット類の外国語版やSNS等での積極的な情報発信を提案。

○施設内の説明に外国語表記が全然ないので、英語・中国語表記を提案。

○郷土工芸体験ができる繭・紬はた織りや陶芸工房があるで随時体験できるように提案。

道の駅「中条」と松本大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

道の駅「中条」と松本大学の学生が連携し、山姥（やまんば）伝説や栃倉の棚田（日本の棚田100選）等のお宝を活かした観光情報発信やお祭りへの参加など、中条の地域活性化に向けた取り組みを実施します。

① **「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条のお宝探し**

アルプスを望み、虫倉山に抱かれた自然豊かな「子育ての神：山姥（やまんば）伝説の里」中条の魅力を学生の目線で発見し、発信していきます。また、地域の特産物を使った商品アイテアを提案します。

② **中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力**

地域住民が作りあげる中条地域最大「むしくらまつり」に参加し、イベント企画など情報を発信していきます。



道の駅「中条」は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する道の駅です。

【道の駅中条　全景】

【松本大学】

松本大学総合経営学部の学生が「８８（やまんば）プロジェクト」を提案し、道の駅中条を現地研究フィールド拠点として約20名で活動開始。道の駅中条から「未知」を楽しみ、創造（想像）の翼を広げています。



中条の「山姥伝説」山姥（やまんば）





信州百名山「虫倉山」

道の駅「中条」と松本大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：子育ての神「山姥（やまんば）」伝説の里　中条のお宝探し

取組み前の調査

●松本大学・総合経営学部学生19名と教員5名で、道の駅関係者とキックオフ・ミーティング及び「山姥（やまんば）伝説」で知られる長野市中条の魅力知るため現地調査を実施。



●虫倉山の山姥伝説の像



学生が中条地域について学び、現地調査し、発見した魅力ある資源をもとに、「味（おいしいもの）」、「観」（自然豊かな広場）、「育」（子育て伝説）のコンセプトの元、商品の企画・提案を行いました。

●商品開発に向けた打ち合わせ



●地元の伝説にちなんだキーホルダーをデザイン



●地元特産を活かした「おからドック」を提案



道の駅「中条」と松本大学との連携

国土交通省 関東地方整備局

平成２７年度　取り組み内容②：中条地域最大「むしくらまつり」の連携・協力

現地調査の結果を踏まえ、新商品の販売に加え、「むしくらまつり」が子育てにまつわるお祭りとして地域を元気にする企画・提案をおこないました。

●連携企画「８８（やまんば）プロジェクト」をデザインしたスタッフジャンパーを作成



●まつり名物「きのこ千人鍋」の調理・ふるまい



●地域の名産「西山大豆」を活用した「おからドッグ」は午前中に完売！





●デザインしたキーホルダーも併せて販売。

●会場の方も一緒に踊るダンスイベントを企画しました



今回の実習を終えて

●道の駅「中条」からのコメント
- 例年約4,000名の方がいらっしゃるが、今年は延べで6,200名の方に来ていただけた。
- 学生達の新しい企画で祭りが盛り上がった。
- お年寄りや子供達に喜んでいただけた。





◎参加した学生の意見
- 地域自慢の種を発見できた。
- 地域の中にある魅力を自分の目線で発見できた。
- 中条の皆様との協働で、企画、商品開発ができた。
- アイデアを実現化していく課程を体験できた。
- 今後も地域自慢の種を一緒に育てていきたい。

道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

長岡技術科学大学の学生が、道の駅「ちぢみの里おぢや」と連携・交流し、道の駅を活用した地域活性化方策を検討

長岡技術科学大学環境システム工学特別演習（４年１学期開講）
学生が主体的に社会事象を実地調査し、実社会における制約条件を考慮した実現可能な解決策を提示するカリキュラムに取り組んでいる。

平成２７年度
「道の駅」を活用した地域活性化方策の検討を行うため、道の駅「ちぢみの里おぢや」において学生自らが企画提案したイベントを実施。
イベント開催とアンケート調査により道の駅から人の流れを把握し地域活性化の方策を探る。



学生自らポスターを作成してイベントをPR

【取組①　スタンプラリー】
地域の魅力を知ってもらうために道の駅を中心とした、周辺地域を巡る３コースを設定。各コース毎にスタンプを集め、道の駅に戻られた方に、景品と道の駅ちぢみの里おぢや内の温泉割引券を贈呈。

【取組②　物産販売】
道の駅利用者との交流を目的に地元で採れた山菜や豆菓子などを大学生が販売。売り上げの一部を研究費に。

【取組③　科学実験】
道の駅利用者との交流を目的に技術科学大学の特性を生かした科学実験（プラ板キーホルダー作成）を実施。

道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

取組①：スタンプラリー

地域の魅力を知ってもらう目的から、道の駅周辺の観光名所等を巡る３コースを設定。



アンケート調査により、利用者ニーズを把握



▲スタンプラリー参加者へアンケート調査

▼スタンプラリー景品（カンバッチ、ボールペン、温泉割引券）





①山古志コース　・・「やまこし復興交流館おらたる」を中心としたコース
②馬場清水コース・・「おぢや震災ミュージアム　そなえ館」を中心として巡るコース
③山本山コース　・・「おぢや震災ミュージアム　そなえ館」や越後三山などを見渡せる山本山高原を巡るコース

道の駅「ちぢみの里おぢや」と長岡技術科学大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

取組②：物産販売



▲▼地元で採れた新鮮な山菜や豆菓子などを販売する大学生



取組③：科学実験（ﾌﾟﾗ板ｷｰﾎﾙﾀﾞｰ作成）

紙に描いた絵をプラ板に写す







プラ板をオーブンで焼くとキーホルダーが完成

道の駅「すずなり」と金沢星稜大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

道の駅「すずなり」と金沢星稜大学経済学部の学生が連携して、観光資源を活用し、道の駅を含めた珠洲市全体の地域活性化の企画提案を行いました。



【珠洲市の概要】
珠洲市は、能登半島の最先端に位置し、美しい能登の里山里海が広がる。主要な観光地は、見附島や禄剛埼灯台等、特産品は、海の幸、山の幸の他、日本で唯一受け継がれてきた「能登の揚げ浜式」の塩や、珪藻土コンロ、珠洲焼などがある。
珠洲市へは金沢市から車で3時間、公共交通機関で行くと4時間以上かかり、地理的不利な位置にある。
また、人口減や高い高齢化率（H26高齢化率44%）といった課題を有している。

【道の駅「すずなり」の調査ニーズ】
地域活性化のためには、定住人口増加はもちろんのこと、交流人口（観光客等）の増加が不可欠

提 案

【金沢星稜大学との企画提案連携意義】
・若者であること（SNSの活用など若者ならではのツール）
・若者の発想による視点

【金沢星稜大学の紹介】
金沢星稜大学は、昭和42年に金沢経済大学として設立し、平成14年に金沢星稜大学に名称変更されました。建学の精神『誠実にして社会に役立つ人間の育成』の実現を目的に、学都金沢において経済学・経営学及び人間科学を探求する高等教育機関として、地域の発展に貢献することを使命としています。

【道の駅「すずなり」の紹介】
道の駅「すずなり」は、廃線となったのと鉄道珠洲駅の跡地に立地。珠洲産にこだわった800種類以上の商品を取り揃え、すずなりオリジナル商品も多数取り揃えている。
また、珠洲市の公共交通のハブ機能を持っており、珠洲市観光の拠点となっている。
NPO法人能登すずなりが運営しており、観光地への案内の他、各宿泊施設や飲食店への斡旋、体験アクティビティの窓口として機能している。





珠洲の塩



揚げ浜塩バニラソフト

道の駅「すずなり」と金沢星稜大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

平成27年度取組内容

事前調査 H27.6～7 → 現地調査 H27.8.24～25 → 調査研究発表会 H27.11.2【企画提案】

■調査体制
4つのテーマを10ｸﾞﾙｰﾌﾟで調査研究（総勢36名）

①道の駅「すずなり」の調査研究
【目的】利用促進策を提案
【調査内容】
・事前調査
・来訪者ニーズアンケート
・道の駅現地調査



アンケート

事務局長よりヒアリング

提 案

【企画】
・店内商品マップを作成
・POPは統一し、方言を使用
・特産品や食材を使った スイーツ新商品
・各世代を意識したデザ インパッケージ
・SNSの活用方法（facebookよりtwitter）
・食事スペースの確保、隣接するコンビニと商品の差別化等



調査研究発表会

②珠洲市観光調査研究
【目的】観光ルートやPR方法を提案
【調査内容】
・事前調査
・現地観光ルート調査
・アンケート調査
（道の駅「狼煙」にて）



提 案

【企画】
・レンタサイクルがあれば行動範囲が広がる
・沿岸部を周遊するための自転車拠点整備
・全体的に案内看板が少ない
・観光地ごとの連携、ストーリー設定を行うなど インセンティブが重要 等

反 映

道の駅「すずなり」でレンタサイクル試行開始





道の駅「すずなり」と金沢星稜大学との連携

国土交通省 北陸地方整備局

平成27年度取組内容

③宿泊施設の調査研究
【目的】宿泊者の利便性・満足度調査
イベント時の宿泊施設枯渇対応検討
【調査内容】
・事前調査
・民宿アンケート



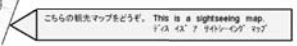
提案

【企画】
・外国人観光客に対して接客程度の言語習得必要
・高齢者、障害者、子ども、外国人に対応したサービスの充実
・衛生面は高評価
・パンフレットの種類が多すぎるので選別する
・イベント時には、市の空き家制度の活用　等

反映

接客英会話集を作成し、各宿泊施設へ配布





④祭りの振興の調査研究
【目的】祭りの参加者増加の為の方策
【調査内容】
・事前調査
・現地調査



提案

【企画】
・祭りについて、HPやSNSでは写真等頻繁に情報更新
・遠方より参加する観光客のために宿泊施設を充実　等

平成27年度取組成果

従来道の駅「すずなり」が独自に検討していた企画案から、学生の企画提案を反映し、以下の2つの取組を実施。
・レンタサイクル
・接客英会話集作成配布

今後の取組

・学生より提案された企画を吟味し、今後活用できるものは取り入れていく
・今後も引き続きテーマを絞り、深く掘りさげた調査を行う

道の駅「紀宝町ウミガメ公園」と鈴鹿大学との連携

国土交通省 中部地方整備局

- 伊勢志摩サミット（H28.6）を契機に、三重県においても訪日外国人客の増加が期待されることから、東紀州地域においても国際化への対応は急務
- 観光客の滞在拠点の一つとなる「道の駅」（紀宝町ウミガメ公園）と国際教育を進めてきた鈴鹿大学が連携することによって、両者の資源を活用し、新たな価値を発信することを期待

■事前調査として昨年10月に学生がアンケート調査を実施
・道の駅「紀宝町ウミガメ公園」利用者のニーズを調査
・道の駅、紀宝町との交流・連携





反映

■実施期間
2016年4月1日（土）～2017年3月31日（金）　1年間

予定

■連携事業内容　【道の駅「紀宝町ウミガメ公園」における国際化への対応】
事業①外国語に対応した館内案内地図(MAP)、POP広告、商品タグ等の作成
事業②外国人対応マニュアルの作成（英語、中国語、韓国語等）
事業③外国語を通じた道の駅「紀宝町ウミガメ公園」の情報発信
（道の駅、周辺地域の案内コンテンツを動画で作成し、日本語もしくは外国語で発信する）

■実施体制

「道の駅」紀宝町ウミガメ公園	鈴鹿大学	紀宝町役場	国土交通省 紀勢国道事務所
◆フィールドの提供 ◆研修における学生指導 ◆学生成果物に対する評価	◆課題解決のための指導 ◆インターンシップ実施の支援 ◆学生の継続的な意欲を促すためのフォローアップ	◆実地研修の情報提供 ◆宿泊予算補助等	◆全体調整 ◆プレスリリースの発信

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学が連携して、若者ならではの視点・感性及び専門分野を活かした新たな特産品の創出等、地域活性化に資する取組を進めています。

連携内容の確認
- 道の駅「竜王かがみの里」からのニーズの確認
- 現地調査により改善点を確認

反映

企画・提案
①特産品を活かしたオリジナル商品の開発
　地元食材を活かしたパンや弁当及びレストランメニューの開発
②売場の環境改善
　陳列方法、惣菜や特産品のＰＯＰつくり、名物定食の説明ＰＲ作成　等
③情報提供（休憩）施設など、施設の有効活用
　多様なニーズに応じた利用勝手のよい空間の創出、イベントの開催　等

発展

期待する効果
- 地域活性化の担い手となる人材育成・確保
- 新たな商品の開発による地域活性化

【滋賀短期大学】
1918(大正7)年の「松村農蘇速進教授所」創立以来の約100年の歴史ある伝統校で、建学の精神である「心技一如」に基づき、品性と能力を車の両輪のようにたとえ、人格教育と実学教育を融合させることによって、一人ひとりの学生の学ぶ力を引き出すことを基本方針としています。
専門の知識とスキルを身につけることで、今回、申請する「ビジネスコミュニケーション学科」は、社会で即戦力となるビジネス実務能力とコミュニケーション能力を持った人材を、「生活学科」は、科学的な視点から生活を捉える姿勢を養い、家庭及び社会でより良い生活を提案できる能力をもった人材を育成しています。

■生活学科

○食健康コース
食品や栄養に関する知識や技術、食と健康に関する知識を学んでいます。今回はこれらの専門知識を生かしました。

○製菓マイスターコース
和菓子、洋菓子、パンづくりの技能を学び、国家資格である製菓衛生師を目指して学んでいます。今回はパンづくりの専門知識を生かしました。

○ライフデザインコース
被服、食物、住居の基礎知識を中心にデザインや家庭経済なども学んでいます。今回は被服はデザイン、住居などの専門知識を生かした。

■ビジネスコミュニケーション学科
様々なビジネスの現場で必要とされる知識とスキルを総合的に学んでいます。今回はCG演習やウェブデザインなどコンピュータ系の技能や、マーケティングなどの専門分野の知識を生かしました。

【道の駅「竜王かがみの里」について】
町が目指す「※土産土法」のまちづくりの実践拠点として、新たな特産品の開発など、観光振興及び農業振興を図っています。
※【土産土法】
土地のものを土地ならではの料理法でもてなすこと。
（竜王町ではまちづくりの手法に取り入れ）

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：特産品を活かしたオリジナル商品の開発

取組み状況

●道の駅と学生が新メニューに向けて打合せを行い、道の駅の要望や竜王町の特産品を確認



●先生の指導のもと商品開発



●商品（牛丼）及びブランド化を目指す特産品白ネギの名前の検討



学生が滋賀県の特産「近江牛」と道の駅からの要望も踏まえ新たなブランド化として期待している「竜王甘太ネギ」など地元の新鮮な食材を使った「竜王牛丼丸」を企画提案。
リーズナブルな価格で近江牛を食べれることやコラーゲン豊富であること等から牛すじを使用する等、若者ならではの視点や専門分野が活かされている。

●竜王の特産品白ネギをブランド化イメージキャラクター作成



●コラボ商品第1弾「竜王牛丼丸」



●道の駅「竜王かがみの里」における牛丼丸試作品販売＆ネギのブランド化発表



■生活学科（食健康コース　製菓マイスターコース）
・新商品メニューのレシピ作成　パンの新商品提案
■ビジネスコミュニケーション学科
・新商品メニューの検討　・イメージキャラクター、ラベルデザイン作成

道の駅「竜王かがみの里」と滋賀短期大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：売場の環境改善　　取組み内容③：施設の有効活用

取組み状況

●竜王かがみの里駅長から改善要望箇所のヒアリング



●改善すべき内容を把握するための現地調査



●メニュー表示、デザインのプレゼンテーション



■生活学科（食健康コース・ライフデザインコース）
・健康栄養ミニ講座　POPや施設のレイアウト提案
■ビジネスコミュニケーション学科
・レストランのメニュー表示改善、正月用イラスト

道の駅スタッフへのヒアリングと現地調査を踏まえ改善すべき内容を提案。
売場の環境改善の一環としてレストランのメニュー表示、デザインの改善を行い、また、健康栄養ミニ講座の開催や正月の飾り付けイラスト作成など、施設を有効活用に協力。

●施設を利用して健康栄養ミニ講座の開催や正月の飾り付け（大学はイラストを作成）等





●レストランのメニュー表示、デザインの改善



名物定食の説明PRを作成



わかりやすいレストラン都のメニュー説明の作成



料理の意匠がわかりやすくおいしく伝わるように工夫

道の駅「農匠の郷やくの」と成美大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「農匠の郷やくの」と成美大学（平成28年4月より福知山公立大学）の学生が連携し、新技術を活用した更なる道の駅の魅力発信について企画・提案を行いました。

①現地調査による道の駅の現状把握
- 「農匠の郷やくの」における現状分析及び課題の抽出
- 抽出した課題に対して、改善案を提案

反映

②結果をもとに、プロモーション戦略の知識を活かした企画・提案
- **「既存媒体の活用」、「地域（施設）資源の活用」、「人的資源の活用」、「最小限の費用」を考慮し、実施可能なプロモーションを検討**

⇒ AR（拡張現実）を活用し、利用者に新技術活用によるインパクトを与える。

反映

発展

③AR（拡張現実）を用いたMAPを製作し、新たな情報発信の提案

【現状把握】

「夜久野高原手作り市」等で調査を行いながら、道の駅における現状を分析し、課題の抽出。



※2調査当日（夜久野高原手作り市）は、大変にも恵まれ過去最高の来訪者（2.5万人）を記録。

【プロモーション戦略とは】

製品・サービスの存在を知らせ、その機能や特徴を分かりやすく伝え、顧客に興味を持たせ、買いたい気持ちになるように説得・刺激する活動。



【AR（拡張現実）とは】

現実環境（Real Environment）と仮想空間（Virtual Reality）の混在した空間（Mixed Reality）。現在では、スマートフォンアプリ等でARの利用が可能。



【成美大学（2016年4月より福知山公立大学）】

2016年4月、地域を担う人材・産業の育成等、地域の発展に寄与することを目的とする福知山市の『教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想』に基づき、公立大学に移行し、「福知山公立大学」として新たな運営が始まります。福知山公立大学は「地域経営学部」を有し、理論や応用などを学ぶ座学と、企業や行政、地域の諸活動を対象に、社会での実践を通じて学ぶフィールド学習（体験学習・インターンシップなど）を展開することで、地域に根ざし地域活性化を担いながら、日本各地そして世界が抱える課題への対応力を備えた人材の育成を目標としています。

【道の駅「農匠の郷やくの」について】

道の駅「農匠の郷やくの」では、緑豊かな夜久野高原に位置し、四季折々の風景が楽しめ、駅内の夜久野高原温泉で身も心もほっこりしていただけます。



道の駅「農匠の郷やくの」と成美大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：現状分析のための現地調査の実施

現地調査の実施

道の駅「農匠の郷やくの」での各施設へのヒアリング調査や5月に実施された夜久野高原手作り市等への現地調査を実施。



この道の駅の強みである「やくの木と漆の館」での漆塗り

抽出した課題をもとに、道の駅の更なる魅力作り及び発信のため、企画・提案を実施。

＜調査で抽出した課題＞

①利用者は主に地元の方で、60歳以上の年配者が中心のため、若者への魅力発信不足。
②道の駅内に管理者が異なる複数の施設が存在し、各施設管理者間での連携性が低い。
③各種イベントで多数来場しても、施設によっては利用率が それほど上がっていない。
④施設MAPが複数存在。（市役所、観光協会、道の駅）

【改善ポイント】
①利用者層の拡大　②各施設間の連携性向上

AR（拡張現実）を用いたMAPの試作へ

道の駅「農匠の郷やくの」と成美大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：ARを活用したオリジナルマップを企画・製作

取組み前のマップ

現在、道の駅で配布している紙のMAP（AR活用前）

●道の駅「農匠の郷やくの」MAP（表面）



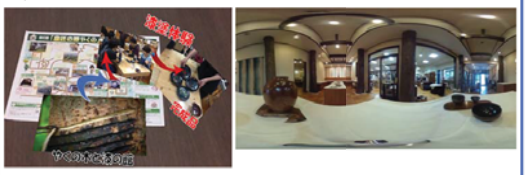
●道の駅「農匠の郷やくの」MAP（裏面）



取組み後のマップ

●道の駅内の施設で実施されている体験プログラムを画像、動画で紹介（表面のMAP）

●イベント時の状況を360度画像で紹介する（裏面のMAP）



ARを活用し、既存のMAPに施設の情報を追加するという、見た人にインパクトを与えるようなMAPへの改良を提案し、試作しました。

更なる発展

今後は、季節毎の様々なイベントや特徴のある風景、そして、施設間の連携に繋がるARを作成することで、魅力的な情報発信が期待されます。

道の駅「愛彩ランド」と和歌山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「愛彩ランド」と和歌山大学（経済学部）の学生が連携して、道の駅運営についての重要課題に取り組み、道の駅を拠点とした地域活性化に向けた企画提案を行います。

・農林水産物直売所・農林水産物加工施設・レストランを活用したアグリビジネスの視点から、「アグリビジネス戦略特殊問題」の講義を開講し、地域活性化の拠点となるための課題解決に向けた方策を探求
・道の駅「愛彩ランド」利用者の実態、ニーズの確認

反映

・道の駅「愛彩ランド」の強みを生かした活性化施策を検討

反映

発展

企画・提案
①子供を連れた若い夫婦をターゲットにした、自然にふれあいながら食事やショッピングを楽しめる機会や場の提供
②通信教育による多様な技能習得や勉強会等による従業員の育成（コミュニケーションを生かした他店との差別化）
③売れ残り商品を利用した惣菜の販売や商品のブランド化

【和歌山大学】
和歌山大学は、1949 年に実学志向の和歌山経済専門学校（創立当初は和歌山高等商業学校）及び和歌山師範学校、和歌山青年師範学校を包括し、「教育基本法・学校教育法の精神に則り、学術文化の中心として広く知識を授け、深く専門の学芸を研究・教授し、社会に寄与する人材を育成する。」という目的と使命のもとに、経済学部・学芸学部（現・教育学部）の2学部からなる新制大学として発足しました。
1995年にシステム工学部、2006年に観光学部を開設し、現在は4学部4大学院研究科を擁しています。
和歌山県唯一の国立総合大学として、設立当初の使命と役割を確かに継承しながら、地域と融合し、地域の発展に寄与する学術研究の推進、地域創生を牽引する人材を育成しています。

【道の駅「愛彩ランド」について】



岸和田市の臨海中央に位置し、付近には、「蜻蛉池公園」や「神於山」などの豊かな自然環境が共存する場所です。
駅内には、地域交流拠点施設のほか、農水産物直売所や地域の食材を活かしたレストラン、農産物加工所があり、「岸和田らしさ」を内外の人々に伝える交流の拠点を目指しています。



農水産物直売所
地元農家や水産業者が安全・安心で新鮮な農産物、水産物を提供



ビュッフェ＆カフェ
地域の旬の食材を使った料理をビュッフェ形式で提供



体験交流館
食と農に関する体験を通じて、地域農業情報の発信や生産者と消費者との交流の場



こだわり手作りの工房
地域食材を利用した農産加工食品の製造

道の駅「愛彩ランド」と和歌山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容：課題解決に向けた企画提案

取組み状況

●道の駅「愛彩ランド」が抱える課題について、ワークショップ等を活用し、学生自らが課題解決に向けての方策を探求





取組みにおける意見交換
和歌山大学経済学部主催「道の駅シンポジウム」

道の駅へのヒアリングと現地調査を踏まえ改善すべき内容を提案

・客層の高齢化	・子供を連れた若い夫婦をターゲットにした、自然にふれあいながら食事やショッピングを楽しめる機会や場の提供（恵まれた自然環境）
・売れ残り商品への対応不足	・売れ残り商品を利用した惣菜の販売や商品のブランド化（加工施設の活用）
・従業員と顧客のコミュニケーション不足	・通信教育による多様な技能習得や勉強会等により従業員を育成することで、対顧客能力を向上（コミュニケーションを重視することによる他店との差別化）





道の駅への企画提案

道の駅「北はりまエコミュージアム」と阪南大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「北はりまエコミュージアム」と阪南大学（国際観光学部）の学生が連携して、地元の特産品をより効果的にPRするための提案を行います。

①道の駅関係者と学生による「道の駅」の課題と特産品の把握
・道の駅「北はりまエコミュージアム」からのニーズの確認
・西脇市の「文化」や「特産」を把握

反映

②学生目線による特産品の企画・提案
・陳列方法、特産品のＰＯＰつくりやパッケージ作成　等

発展

期待する効果
・特産品の生産（開発）者の意識の向上
・地域活性化の担い手となる人材育成・確保

■国際観光学部の3つの研究領域

○観光文化群
観光の文化的・歴史的意味を探り、文化資源を人類共通の財産として活用する方法を考える分野です。
この分野では、国際感覚を備え観光を通じて**文化交流や国際協力に貢献できる人材**を育成することを目標にしています。

○観光計画群
観光の社会的・政策的活用法を探り、まちづくりなど地域社会を活性化する方法を考える分野です。
この分野では、地域の実情を把握し、地域資源を活かして**地域再生を企画・実行できる人材**を育成する事を目標にしています。

○観光事業群
観光の産業的・経済的方途を探り、これからの持続可能な観光のあり方を考える分野です。
この分野では、宿泊・移動・観光地管理・広報・マーケティングなど**多様な問題をマネジメントできる人材**の育成を目標にしています。

【阪南大学】
1965年（昭和40年）に商学部商学科からスタートし、その後時代と社会の要請を常に先取りするかたちで学部学科の増設や改組を行い、現在では5学部5学科と大学院1研究科を擁する都市型総合大学で、「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」を建学の精神としています。
今回、参画する「国際観光学科」は、鋭い国際感覚と幅広い視野をもち、国際観光の多面的な特性を活かして社会に貢献できる実行力のある観光人材の育成を目的に平成9年に開設されました。

【道の駅「北はりまエコミュージアム」について】
西脇市と多可町が取り組む「北はりま田園空間博物館」の有形・無形の地域情報を発信し、播州織製品や、金ゴマ、巻き寿司、新鮮野菜や特産品等を販売しています。
また、地域の食材を使用した料理を味わえるレストランも併設されています。

道の駅「北はりまエコミュージアム」と阪南大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：「道の駅」を視察し、西脇市の特産品についてミーティング

取組み状況

●学生が道の駅を訪れ、西脇市の「文化」や「特産」を把握



【ミーティングの様子】
・現状の課題や西脇市の特産品を紹介



【店舗の様子】
・実際に販売されている特産品を視察

■学生からの意見

●特産品として西脇市民にどの程度浸透しているのか。
●近隣市と協力して販売していく方法はどうか。
●「道の駅」において販売されている商品に生産者の顔、思いが見えないのでは。
●「道の駅」において販売されている商品の陳列を改善したほうが良いのでは。

▼ 学生にPRしてもらう8項目を決定 ▼

●金ゴマ加工品
●播州百日鶏
●播州織ストール・シャツ
●高嶋のたけのこ
●黒田庄和牛
●比也野里のキクイモ
●いちご
●木桶天然醸造の醤油



道の駅「北はりまエコミュージアム」と阪南大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：特産品の生産者へ取材・インタビューの実施

取組み状況

●学生が4グループで分担し、特産品を扱うお店や開発グループを訪問し、取材を実施。



■キクイモ取材時の学生からの意見

●子どもに人気になれば、家庭での話題に上がり、知名度があがるのではないか。

●文字だけでは伝わりにくいので、何かを絡めてPRできなか。

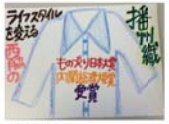
■現在製作中のPOP



百日鶏のPOP



播州織（ストール等）



播州織（シャツ）

取材協力先

- 金ゴマ加工品：日本のへそゴマ研究会
- 播州百日鶏：みつばグループ
- 高嶋のたけのこ：道の駅北はりまエコミュージアム
- 黒田庄和牛：けんしん亭、JAみのり特産開発センター、黒っこマザーズ
- 木桶天然醸造の醤油：足立醸造㈱
- 播州織ストール・シャツ：播州織工業協同組合、tamakiniime
- 比也野里のキクイモ：道の駅北はりまエコミュージアム
- いちご：森田いちご園

道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学（現代生活学部食物栄養学科）の学生が包括的な連携協定に基づく地域連携事業の一環として、紀伊半島大水害で休止していたレストランを再生するためにプロジェクトを立ち上げ帝塚山大学、五條市がバックアップして学生がレストランを運営。

①事前調査。
・学生、先生による五條市全体の視察
・各課題の洗い出し

②学生レストランを運営するまで（課題検討・運営準備）
・運営のコンセプトの整理
・食材の調達、納品、保管方法
・調理工程・食事提供方法
・厨房、客席の清掃及び内装の模様替え
③レストランを運営した学生からの活動報告と提案
・レストラン運営面他

④次期運営に引継
・仕入、調理、接客、会計全てのレストラン業務の学生による継続運営

【地産地消】

地元の食材を使い、おいしい料理を作ろうをテーマに五條市の野菜直売所で食材の仕入れ、地産地消を目指しています。



【五條市職員による五條市の紹介】

五條市を知ってもらうため、観光地や史跡、また紀伊半島大水害で甚大な被害を受けた被災地の視察。



【道の駅】について

道の駅「吉野路大塔」は、平成23年9月の紀伊半島大水害から立ち直るため、鮮麗な星空等を使った様々な企画を行い全国に情報発信を行っています。



・五條市と帝塚山大学との地域包括連携協定
平成25年11月21日に帝塚山大学と連携協力に関する協定を締結しました。
協定締結により、帝塚山大学とは協働のパートナーシップのもと、まちづくり、教育、文化、福祉、産業の振興など多様な分野で包括的な連携協力をし、人と情報の相互交流を深め、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とした連携協力をしていくことになりました。

道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成27年度　取組み内容①：学生レストランを運営するまで！（課題検討・運営準備）

レストランを開店するための準備、調査

★五條市の観光地や史跡を巡り現地の特色を把握



★休止していたレストランの清掃、模様替え



★プロの先生の指導を受けての試作



結果

学生が五條市の観光地や史跡を巡り、五條市を理解して、レストランの内装やメニューの提案を行いました。
提案したメニューは、先生等のアドバイスを受け、より完成度の高いものへとの努力をしました。

★グランドオープン時の状況



★おいしいと評判であった和定食



★アンケート調査で作って欲しい料理の丼を考案



道の駅「吉野路大塔」と帝塚山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成27年度　取組み内容②：レストランを運営した学生からの活動報告と提案

活動状況

★メディアでの宣伝活動



★関係機関の前で本プロジェクトの報告会



結果

レストラン運営での経験やアンケート調査結果を基に、学生自身が経験できたこと、レストラン運営に必要なこと等の報告と提案を行いました。
そして、頑張ってきた学生達との涙と笑いがあふれる1期生卒業式でTEZUcafeの1期目が終わり、その意思を継いで2期生が様々な提案やメニュー作りを頑張っています。

★売上利益の大半を五條市へ寄付



★保護者等の見守る中での卒業式



★1期生から2期生へバトンタッチ



道の駅「杉の湯川上」と大阪大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「杉の湯川上」と大阪大学（文学部）の学生が連携して、観光資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①来場者アンケート調査と川上村の観光資源の把握
- 道の駅「杉の湯川上」利用者の実態、ニーズを調査
- 川上村の「文化」や「特産」を学び、地域の観光資源を把握

反映

②道の駅「杉の湯川上」として取り組むべき「情報発信」の在り方を検討
③道の駅「杉の湯川上」の活性化施策を検討

反映

発展

④道の駅「杉の湯川上」内の情報発信コーナーの見直し、Wi-Fiとインターネットを活用した新しい情報提供のスタイル提案、遊歩道の有効活用、トイレ、店舗の改善策提案、食堂メニューの提案を行った。

【大阪大学】
大阪大学は、大阪府市民ならびに大阪の政財界の強い要望を受け、1931年に第6番目の帝国大学として創立されました。そして、その原点は江戸時代の懐徳堂と適塾に見出すことができます。この二つの学問所の学風と精神を今も継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸に教育研究に取り組んでおり、教育・研究、人材育成において、産業界や社会、地域や市民との連携をさらに加速させる方針を掲げています。大学がいかに新しい価値を創造し、社会を変革していくのか、大阪大学が有する多様な「知」が連携し合うこと（協奏）、また、卓越した「知」を今後とも教職員・学生が共に創出（共創）し続け社会や世界に還元していくこと、つまり、「知の協奏と共創」を究めていきます。

【観光資源を学習】
◆村内の各施設と観光スポット視察を行い、立地条件や観光資源を確認。





道の者から森と水の源流館までの散歩道には天皇陛下の御誕碑があり、ダム湖の眺望も素晴らしい。

【立地条件等の長所と短所を学習】
◆川上村近郊の市町村の道の駅を視察。
◆村で働く人々の聞き取り調査と、道の駅に来るお客様へのアンケート調査を実施。

道の駅「杉の湯川上」と大阪大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２８年度　取組み内容：利用者分析と周辺環境の有効活用および方向性

利用者分析と提案

ヒアリング、アンケート結果から、道の駅　杉の湯川上は

「川上村を代表する場所」
「お客様がまず最初に訪れる場所」である。

【現状分析】
●川上村を走る国道169号線は、沿線に吉野山や大台ケ原があり、行楽目的の利用が多い路線であり、交通量も多い。
しかし、川上村には、吉野山の桜や大台ケ原の対岸に拠る有名観光スポットはなく、道の駅　杉の湯川上は目的地までの休憩スポット的な利用が多い。駐車スペースが少ない為、休憩にも利用されず、素通りされるケースも散見され、村を知ってもらうチャンスも失っている現状。

【取り組み提案】
●第一段階として、近郊への行楽目的の観光客に対し、川上村の情報を魅力的に伝え、「行ってみたくなる」「滞在したいと思える」情報発信に取り組まなければならない。

情報発信力の強化

●単なるトイレ休憩の為だけの道の駅から脱却し、1日1泊の滞在を目指す為に、道の駅としての快適な空間づくりを徹底し、満足度の向上を図る。

店舗の快適化

道の駅 杉の湯川上の方向性

「おもてなし」＝情報発信　＋　快適な空間

【情報発信のあり方の検討】
①大台ケ原などの近郊の観光情報も入手できる場所に。
②川上村の宿泊、食事、観光などの情報を集約する。



③観光客がパンフレットを選ぶ場所にプッシュ型の観光PRを行う。

テレビモニターを設置。
映像で川上村の観光PR



【活性化方策の検討】
④滞在時間の長時間化を実現する為に、店舗、空間の快適化を徹底する。



トイレ壁面に特産品である吉野杉を使用、特別感を演出。



道の駅の入り口正面の段差をバリアフリー化

道の駅「ふるさとセンター大塔」と和歌山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

道の駅「ふるさとセンター大塔」と和歌山大学（経済学部）の学生が連携して、観光資源を活かし、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①学生視点での道の駅調査と大塔地域の観光資源の把握
- ゼミ生が実際に道の駅へ訪問し、学生視点での視察を行う。
- 地元素材の掘り起こし事業を計画。
- 大塔村観光事業振興会主催のイベントへの参加

反映

②オリジナル商品の開発
- 郷土料理「ぼうり」をアレンジしたオリジナル商品の企画

発展

④道の駅「ふるさとセンター大塔」での販売を視野に商品化を検討

【和歌山大学】
1875（明治8）年の「和歌山県師範学校」創立以来の140年の歴史ある伝統校で、基本的人権を擁護し、大学構成員が相互に人格と個性を尊重し合い、共生社会としての大学を目指しています。
今回、参画する「経済学部」は、さまざまな角度から現代社会の課題にアプローチする3つの学科からなり、社会のあらゆる分野で活用することができる知識と実践的なスキルを習得することができます。
平成9年には、和歌山商工会議所及び和歌山社会経済研究所と連携し、「和歌山地域経済研究機構」を結成し、以後和歌山地域活性化のための共同研究に取り組んでいます。

【大塔の歴史を学習】

大塔地域の熊野古道をウォークラリーで巡り、大塔の歴史を学んだ後、道の駅を会場にした大塔の歴史について講演会に参加しました。
また、餅つかぬ伝説の里の餅つき大会へも参加し実際に「ぼうり」を試食し商品開発に活かしました。



【道の駅「ふるさとセンター大塔」について】

道の駅「ふるさとセンター大塔」は、林産物、特産物をご用意し、通路利用者の皆様と、地域の交流をサポートする施設です。地元木材を使った「木工実習」が人気です。澄んだ空気と清流、鮮やかな緑が溢れており四季を通じて大自然を楽しんで頂けます。



道の駅「ふるさとセンター大塔」と和歌山大学との連携

国土交通省 近畿地方整備局

平成２７年度　取組み内容：郷土料理を活かしたオリジナルレシピの開発

取組み前の調査

●学生視点での道の駅視察

今回の取り組みにあたり、ゼミ生が実際に道の駅を視察し課題や解決策の検討を行った。
郷土料理である「ぼうり」、和歌山県の名産である「ウメ」などを活かした商品の企画ができないか検討。

●大塔地域の観光資源の把握

大塔村観光事業振興会主催のイベントへの参加し大塔地域の特性や郷土料理である「ぼうり」について理解を深めた。

●ゼミ生による計画案の検討

今回の取り組みにあたり、ゼミ生で地元素材の掘り起こし事業の計画を検討

郷土料理である「ぼうり」に着眼しオリジナル商品を企画。
和大生考案のオリジナルレシピをもとに「大塔生活研究グループ」が“ぼうりチョコ”を製作。イベントで振る舞ったところ大好評であった。


ぼうりチョコとぼうりを使った餅

道の駅「第九の里」と徳島大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「第九の里」と徳島大学（総合科学部 矢部准教授）の学生が連携して、ふるさと納税の呼びかけPRの企画・実施を道の駅において行います。

①従来からふるさと納税で連携
- 昨年度はふるさと納税のパンフレットを制作
- フィールドワークを実施し、地域活性化の案などを検討

反映

②ふるさと納税ＰＲイベントの企画・提案
- マスキングテープアートイベントを企画提案し、大学生が作成しつつ、道の駅に立ち寄るお客さんも作成参加

反映

発展

③ふるさと納税　記念品道の駅セットの開発
- 地域物産を調査し、地域資源を活かしたふるさと納税記念品となるセットを考案

徳島大学
徳島大学（所在地：徳島県徳島市）は、5学部17学科、3研究部・7教育部を擁した総合大学であり、大学の使命である「社会貢献」のため地域の様々な主体と連携を推進し、地域の課題解決に積極的に取り組んでいます。
平成27年3月には、全国「道の駅」連絡会と全国各地の「道の駅」を舞台に学生の就労体験型実習（インターンシップ）を行うことで合意し、基本協定を締結しました。
同協定の締結は四国では初となります。

【ふるさと納税のパンフレットを作成】

これまでのふるさと納税での徳島大学と鳴門市の連携の実績を活かして、ふるさと納税のＰＲや第九の里への誘客に反映します。



【マスキングアートイベントの実施】

徳島大学では、比較的近くのフィールドで従来からの連携により得られたノウハウを活用した企画・提案を行い、学生の自主的活動を通じて、地域理解も深めていきます。



【道の駅「第九の里」について】

道の駅「第九の里」には、物産館・鳴門市ドイツ館・賀川豊彦記念館の3施設があり、物産館はドイツ俘虜兵舎の一部を移築し、登録有形文化財となっています。



道の駅「第九の里」と徳島大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：ふるさと納税ＰＲイベントの企画・提案

取組み前の調査

●マスキングアートイベント（貼りつけ）の様子



●マスキングテープアート作成までのスケジュール

平成27年4月24日
徳島大学大学生が道の駅第九の里にフィールドワーク。地域活性化の案などを検討。
平成27年7月
（株）レオパレスより大学と道の駅の活性化に参画したいと相談。
平成27年8月7日
徳島大学で大学生、（株）レオパレス、鳴門市でミーティング。
平成27年8月19日～23日
道の駅第九の里でマスキングテープアートイベントの実施

（株）レオパレス２１の支援を得ながら、徳島大学生によるマスキングテープアート作成や来客へのアート作成の参加呼びかけ、道の駅「第九の里」へのさらなる誘客を図りました。
8月19日～23日の間に、大学生が1～5名参加し、マスキングテープアートの作成や、場者への作成参加補助、着ぐるみを着てのPRなどを実施し、イベントを盛り上げました。

●完成したマスキングアート



道の駅「第九の里」と徳島大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：地域資源を活かしたオリジナル商品の企画・開発

取組み前の調査

●ふるさと納税記念品「道の駅」セットの品目を選定した物産館の様子



●ふるさと納税記念品「道の駅」セットの考案まで

- マスキングテープアートのイベントを契機に大学生のふるさと納税に関心が高まる
- 受取り手の立場にたったふるさと納税記念品セットの考案に意欲
- 地域の特産品等の調査を実施
- ふるさと納税記念品「道の駅」セットの考案
- ふるさと納税記念品として9月から実現

大学生が道の駅の物産品を調査し、ふるさと納税記念品セットを考案しました。

<セット１>
道の駅で販売している品目である「なると金時」「塩蔵わかめ」に、季節の産品、加工品を詰め合わせた道の駅第九の里特産品セット

●特産品セット



<セット２>
道の駅第九の里オリジナルじぇらーとセット

●オリジナルじぇらーとセット



道の駅「ふれあいパークみの」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「ふれあいパークみの」と香川大学（「地域インターンシップ」全学共通科目）の学生が連携して、地域食材を活かした商品開発の企画提案を行います。

①地元食材・料理をリサーチして利用できる商品開発の材料を把握
- 三豊市は、フルーツ・魚介類が有名
- 季節にあった材料を把握

反映

②地域食材を活かした商品開発の企画・提案
- 全国道の駅・パンフレット等をもとにアイデアを提案
  ⇒フルーツまん、ゼリーに絞り込み
- たからだの里さいた、源平の里むれへの視察
- フルーツまん、お茶ゼリーのレシピと施策を実施

反映

発展

③試作品の反省を活かし再度施策の実施
- 問題点の改善と、今後の課題

香川大学　地（知）の拠点

香川大学（所在地：香川県高松市）は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や個の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

【特産品の把握】

三豊市の豊富な食材を活かして新規メニューを開発提案するために、学生自らリサーチするとともに、働いている方からの意見を聞き取り、今回の取り組みに反映します。

フルーツ王国三豊市の代表果物



【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に出向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学修を目指している。

インターンシップ報告会



【道の駅「ふれあいパークみの」について】

道の駅「ふれあいパークみの」は、新鮮な野菜と果物が毎日出荷される産直市を開催。温泉・宿泊施設も備え、四国霊場のお遍路が立ち寄る場所となっている。

地域特産の新鮮な果物



道の駅「ふれあいパークみの」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容：地域食材を活かした商品開発の企画・提案

取組み前の調査

●道の駅「ふれあいパークみの」での商品リサーチと提案の様子



●他の道の駅「源平の里むれ」への視察の様子



学生が「ふれあいパークみの」にて、三豊の地元食材を利用したオリジナル商品を提案しました。
三豊の食材リサーチ、道の駅やレストラン・カフェなどの商品リサーチを実施して、中間報告を行なったのちに商品を絞り込み、試作を重ねました。

●商品試作の様子１



●商品試作の様子２



●商品試作の様子３



道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「たからだの里さいた」と香川大学（「地域インターンシップ」全学共通科目）の学生が連携して、道の駅を拠点とした地域物産品の販売促進の企画提案を行います。

①道の駅の課題の把握
- 道の駅担当者からの提供課題＝「若い人が少ない」
- 学生がみた販売促進の課題　＝「POPの改良」

反映

②商品販売促進の企画・提案
- POP作成に関する問題
  （季節ごとのPOP差し替え、新商品への対応などで煩雑）
  ⇒Facebookでの情報発信
  （カフェメニューの紹介、季節の野菜の紹介）

反映

発展

③生産者と地域住民の交流の企画・提案
- 地域野菜を使った料理イベント

【道の駅の問題点の探求】

物産館・温泉・宿泊施設など施設が充実し、一見困ったように見えない道の駅の問題を明らかにし、働いている方から現状を聞き取り、今回の取り組みに反映します。



【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に出向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学修を目指している。



香川大学 地(知)の拠点
香川大学（所在地：香川県高松市）は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

【道の駅「たからだの里さいた」について】

道の駅「たからだの里さいた」は、新鮮な野菜と果物が毎日出荷される産直市を開催。温泉・宿泊施設も備え、四国霊場のお遍路が立ち寄る場所となっている。



道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：商品販売促進の企画・提案

取組み前の調査

●道の駅たからだの里さいたの「特産品」や「観光資源」「課題」を担当の方から学び、取り組むべきテーマを検討



●現状のＰＯＰからFacebookの活用を提案

現状のPOPの課題
- もっと見やすくしたい
- もっと統一感を持たせたい

POP作成（困難）
- 商品の入れ替わり
- 直接集客に結び付かない

Facebookでの情報発信
- おすすめの商品・食べ物・施設紹介
- イベントの告知
- 生産者さんへインタビューし、野菜のおいしさ紹介

学生が「たからだの里さいた」のfacebookを開設し、道の駅の情報発信に取り組みました。



●Facebookは100いいねを超え、店舗の話によると、Facebookを見てきてくれた人がいたということで、少しずつ広まっている。

道の駅「たからだの里さいた」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：生産者と地域住民の交流の企画・提案

取組み前の調査

●共奏キッチン実施に関する打合せの様子



●みんなで行う料理イベントの提案に至るまで

SNSを活用の課題と対応方針
- SNSやインターンシップに対する生産者の方の不信感
- 野菜を使ったレシピを発信したい
- 生産者との距離を縮めたい

みんなで行う料理イベントの提案
- 伝承館の有効活用
- 地域の人同士の交流

共奏キッチンの実施
- 地域で採れた野菜を中心に、買い物して、みんなで料理し、食べるイベント

野菜を作っている生産者の方を身近に感じ、地域の人同士の交流が深められる他、財田の野菜を使った料理方法を学べるなど料理を通していろいろの効果を得ることができました。

●共奏キッチンの実施状況



道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学（「地域インターンシップ」全学共通科目）の学生が連携して、超小型モビリティを活用した周遊観光の企画立案を行います。

①小豆島の特性と道の駅の課題の把握
- 小豆島は、長時間滞在してこそ味わえる魅力がある
- モビリティ（２人乗り小型電気自動車）の有効活用

反映

②超小型モビリティを活用した観光周遊の企画・提案
- 立ち寄りスポットの抽出
  （道の駅からモビリティで立ち寄れるスポットの抽出）
- 小豆島の魅力を満喫できるルートの検討
  （利用者層、所要時間、安全性等に配慮したルート検討）

反映

発展

③モビリティ・ルートマップの作成
- 三都半島周遊モビリティルートマップを作成

【周辺の魅力探求のためのフィールドワーク】

小豆島の魅力、道の駅「小豆島ふるさと村」周辺の観光資源を把握するため、フィールドワークを実施し、道の駅で提供可能な企画提案に反映します。



【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に出向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学修を目指している。



【道の駅「小豆島ふるさと村」について】

年間を通して、すもモソフト、そうめん、こびきうどん等を提供。手延べそうめん館も隣接、体験学習、釣り、体育施設の申込みも実施している。



香川大学 地(知)の拠点

香川大学（所在地：香川県高松市）は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

道の駅「小豆島ふるさと村」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容：超小型モビリティを利用した周遊観光の企画・提案

取組み前の調査

●小豆島の魅力、道の駅「小豆島ふるさと村」の「課題」や周辺の「観光資源」を感じ取るためにフィールドワーク及び道の駅の視察を実施



●現状の把握からモビリティルートを提案

道の駅からの課題
- 超小型モビリティの活用
- 道の駅で提供可能な商品、企画の立案

小豆島の魅力
- 長時間滞在してこそ魅力に気づく
- 三都半島には魅力的な観光資源が豊富

超小型モビリティを利用した周遊観光
- 立ち寄りスポットの抽出
- ルートの検討
- モビリティ ルートマップ作成

学生が超小型モビリティを活用した周遊観光を企画立案し、モビリティルートマップの作成に取り組みました。



意見交換会の様子



学生が提案した周遊観光ルートの一例



学生が抽出した立ち寄りスポットの一例

・城山桜公園	・犬の墓
・誓願寺ソテツ	・風穴庵
・長崎のしし垣	・吉野漁港
・花寿波	・正法寺
・地蔵崎,地蔵崎灯台	・二面漁港

道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」と香川大学（「地域インターンシップ」全学共通科目）の学生が連携して、イベントの企画立案、運営補助を行います。

①道の駅からの課題
- 「アロハナイト2015」における幼児・児童をターゲットとしたイベントの企画立案、運営の補助

反映

②イベントの企画・立案、誘客促進活動の実施
- 体験型スタンプラリー形式のクイズイベントを企画
- 効果的なＰＯＰの提案
- 花飾り店の出店企画
- アロハフェスティバルin高松2015 でのチラシ配布によるＰＲ

反映

発展

③イベントの運営と補助
- クイズイベントの運営と補助
- 商工会出店の店舗運営補助

【イベント内容の把握】

日時：H27/7/18～19
場所：道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」

瀬戸内海の大パノラマと美しい夕陽が楽しめる人気のフラダンスイベント
フードコーナーのほかステージイベントもあり



【香川大学による地域インターンシップの目的】

香川大学では、低年次で地域に出向き、地域づくりの現場・しごとを理解し、地域課題解決への参画を通じて、①社会貢献、②課題探求・解決力の修得、③能動的学修を目指している。



【道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」について】

瀬戸内海国立公園内の良好な海岸景観を有する道の駅。
展望タワー、芝生公園、レストランを備え、数多くのイベントが開催されている。



香川大学 地(知)の拠点

香川大学（所在地：香川県高松市）は、6学部、8研究科を擁した総合大学として、個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしています。また、地域貢献では、文部科学省の大学改革推進事業のひとつ、「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」において、平成25年度に採択され、全学的に県内自治体が連携し、離島振興や街の活性化、定住促進対策などの地域活性化に取り組んでいます。「地域インターンシップ」もCOC事業において新設された科目です。

道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」と香川大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容：イベントの企画・立案、運営補助

取組み前の調査

●「アロハナイト2015」でのイベントの内容、花飾り店の出店企画等についてミーティングを実施



●イベントの提案に至るまで

関連イベントの対応方針
- 関連イベントの視察実施による雰囲気の把握
- チラシ配布による誘客活動実施

イベントの企画提案
- 体験型スタンプラリー形式のクイズイベントを企画提案

イベントの運営と補助の実施
- 効果的なＰＯＰの工夫
- イベントの運営と補助

学生が体験型スタンプラリー形式のクイズイベントを企画し、効果的なＰＯＰ作成、イベントの運営と補助に取り組みました。

効果的なPOPを作成



商工会出店の店舗運営補助



体験型クイズイベントの運営補助状況1



体験型クイズイベントの運営補助状況2



●今後の更なるイベントの活性化に向けて、イベント実施後に、インターンシップ先の道の駅関係者と学生との意見交換会が実施された

道の駅「ビオスおおがた」と高知工科大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

道の駅「ビオスおおがた」と高知工科大学（経済・マネジメント学群 顧客価値創造プロセス研究室 永島研究室）の学生が連携して、黒潮町の豊富な「食」と「自然」を、観光商品としてアピール取り組みを企画提案します。

①来場者へのヒアリング調査と黒潮町の観光資源の把握
- 道の駅「ビオスおおがた」利用者のニーズを調査
- 黒潮町の「食」や「自然」を学び、地域の観光資源を把握

反映

②イベント出展による道の駅と地域の宣伝・PR
- イベント（ものづくり総合技術展）に出展し、情報を発信
- SNSによる情報発信

反映

発展

③イベント参加による黒潮町の豊富な「食」と「自然」のPR
- 作品を第21回 潮風のキルト展に出展
- 「カツオのたたきバーガー」の体験型販売
- 地域の景観マップの作成・配布

【観光資源を学習】

道の駅の来場者や関係者から意見を聞きながら、「潮風のキルト展」において道の駅と黒潮町の豊富な食と自然を観光商品としてアピールする取り組みに反映します。



【高知工科大学による商品販売促進の実績】

高知工科大学では、学生自らが、自然景観、食文化、伝統芸能などと顧客の共感、感情といった新たなマーケティング論を研究してきた実績があり、これらのノウハウを活用していきます。



高知工科大学

高知工科大学は、集中的な科目履修を可能にするクォータ制や学生の自主性を重視した全科目選択制など、先進的な教育システムをいち早く取り入れており、4学群を設けています。
　このうち、経済・マネジメント学群は、7つの専攻を設定しており、1年次から2年次前半には、学群共通の経済系・経営系の専門基礎科目を学び、2年次後半以降は「専門発展科目」を、さらに3～4年次では各専攻において「専攻領域科目」を学び、専門性を高めます。
　また、各省庁の地域活性化政策担当者や地域再生事業に関わるリーダー、大学教員等の講師が、講義、パネルディスカッション、グループワーク等を通して、より実践的な教育を推進する「地域活性化システム論」は、高知工科大学ならではの特色ある教育プログラムとして注目を集めています。

【道の駅「ビオスおおがた」について】

道の駅「ビオスおおがた」では、「カツオたたきバーガー」が人気商品。隣接する砂浜美術館では、自然を舞台にTシャツアートを展開し、情報を発信中。



道の駅「ビオスおおがた」と高知工科大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：イベント出展による道の駅と地域の宣伝・PR

取組み前の議論

●出展に関してアイデアを出し合い、プレゼンを繰り返すなど、入念な準備を重ねました



●ものづくり総合技術展のチラシ



展示による視覚でのアピールだけでなく、直接触れることで本物の良さを実感してもらうことをコンセプトに企画・提案を行いました。

　そのため、美しい砂浜のよさを体験してもらおうと、ケースに入った砂を用意し、宝探しをしてもらいました。

●ものづくり総合技術展への出展の様子



●ブースに掲げた大看板



道の駅「ビオスおおがた」と高知工科大学との連携

国土交通省 四国地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：イベント参加による黒潮町の豊富な「食」「自然」と「アート」の融合のPR

取組み前の調査

●道の駅利用者に対する現地での聞き取り調査



●道の駅関係者との意見交換



　学生が実際に「潮風キルト展」に参加し、キルトの出展を行ったほか、黒潮町について学び、現地調査し、発見した魅力ある観光資源をもとに、「潮風キルト展」において集客のためのプログラムの企画・提案を行いました。
　さらに、多くの人にイベント並びに地域のよさを知ってもらうために、ブログやSNSを活用しました。

●男子大学生が手探りで20日かけて作成した50cm四方のキルト



●カツオたたきバーガーの販売
（実際に来場者に作ってもらう体験は大人気）



●取り組みを多くの人に知ってもらうために、ブログやSNSを開設（「黒潮が知らない四国」）



⇒ブログの開設にあたっては、情報学群の先輩にノウハウ教えてもらい、開設後は試行錯誤して更新を行いました。
⇒3,000人以上のアクセスがあり、遠方からのアクセスもありました。

道の駅「さいかい」と長崎国際大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

道の駅「さいかい」と長崎国際大学の学生が連携して、西海市の特産物を活用し、イベントの企画・運営を行います。

①道の駅施設の現状及び課題の把握
- 西海市観光協会（「道の駅」指定管理者）へのヒアリング

②イベントの企画・運営
- みかんドームの集客アップのためのイベント「よかとこ西海‼みかん芸術祭」を企画、運営
- 毎年開催される「みかんドームフェスティバル」に参加し、上記イベントのコラボ企画を実施
- イベントで募集したレシピの商品化

③広報活動の提案・実施
- SNS（Facebook、twitter）の活用
- イベントちらしの作成
- イベント情報に併せて、道の駅「さいかい」みかんドームの魅力をアピールするためのリーフレットの作成

【長崎国際大学】
長崎国際大学は、学校法人九州文化学園を母体に、人間尊重を基本理念に、長崎県と佐世保市および地元経済界の支援による「公私協力方式」によって平成12年に誕生した、いわば、地域の熱い期待と情熱に支えられて生まれた大学です。
本学の人間社会学部では、地域連携活動として「西海市における地域課題の解決」をテーマに、学生自らが新たなイベントを実施し西海市の魅力を各種メディアで発信することで、「大学生による活動する地域メディアの構築」を目指しています。

【道の駅「さいかい」について】
道の駅「さいかい」は、西海市にあり、主要地方道西彼杵太田和瀬線沿いの西彼杵半島北部にあります。
道の駅の目印は**「みかんドーム」**です。その名の通り半円形の大きなドーム型テントで、西海市のお土産品から観光情報まで揃っています。

みかんドーム



道の駅「さいかい」と長崎国際大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：イベントの企画・運営

「よかとこ西海 ‼ みかん芸術祭」の企画、運営　　開催日：平成27年11月22日（日）

みかんドームの魅力の発信や、地域住民とみかんドームをつなぐ企画を提案し、学生自らイベントを実施しました。

企画内容

①みかんdeアート体験

○みかん文字アート体験
来客者と協力して、巨大文字アートを作成し、西海の魅力を発信

●みかんを使った巨大文字アート



○みかん皮を使ったアート「ピールアート」体験
西海市の特産品であるみかんを使い、みかんの皮で動物を表現したPRを行い話題性を発信

●ピールアート作品



②みかんレシピの募集・投票

フェイスブックや学園祭などでみかんを使ったレシピを募集し、イベント来訪者に投票頂き、オリジナル商品の商品化を提案

③みかん絵馬の作成

みかんドーム来訪者に、みかんの木で作った絵馬に願い事を書いてもらい、思い出づくりを演出

みかん絵馬

●みかん絵馬の作成



●イベント時の記入ブース



④「タブの木」名前公募

道の駅にある樹齢300年と言われる「タブの木」の名前を公募することで、みかんドームへの親しみや、地域の歴史に興味を持たせる

●「タブの木」



道の駅「さいかい」と長崎国際大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：イベントの企画・運営

「みかんドームフェスティバル」の参加、コラボ企画の実施　　開催日：平成27年12月 6日（日）

「よかとこ西海!!みかん芸術祭」と連動する企画を提案し、みかんドームで毎年開催されるフェスティバルの宣伝効果と集客アップを提案しました。

企画内容

①公募された「タブの木」の名前の投票

●投票の様子



●公募された名前



→投票の結果
「さいかいの木」が選定

②投票で選ばれた「みかんレシピ」の商品化

●投票で選ばれた「みかんレシピ」の試作品



●「みかんレシピ」試作品の配布



③みかん文字アート体験

●第１弾で好評だった「みかん文字アート」第２弾　巨大みかんツリー





④オリジナルカレンダー作り

●道の駅で撮影した写真を使った「オリジナルカレンダー」で思い出作り



道の駅「さいかい」と長崎国際大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：広報活動の提案・実施

Facebook、twitterによる情報発信や、ちらし・リーフレットを作成し、観光施設等に設置

西海市の観光資源である道の駅「さいかい」のPR不足を解消するためにSNSでの配信や、ちらしやリーフレットを観光施設等に設置し、イベントのPRを実施

Facebook、twitterの活用

【目的】
イベントへの関心、協力者としての当事者意識の向上、
県内外の潜在的観光客への周知

【ターゲット】
イベント協力者、地域住民、潜在的観光客

【活動内容】
・学生達がFacebookにおいて「西海よかとこ発信部」立ち上げ、イベント準備過程やイベントちらしをアップしました。
・イベント当日はtwitterを使い情報を拡散しました。





ちらしやリーフレットの作成・配布

【目的】
イベント情報に併せて「みかんドーム」の魅力をアピール

【ターゲット】
地域住民、「道の駅」周辺地域の観光施設に訪れた観光客等

【活動内容】
・みかんドームの魅力について、みかんドームのスタッフからヒアリングしたり、学生自ら探し出して、リーフレットを作成しました。
・イベントちらしやリーフレットは、学園祭「長崎国際大学 開国祭」で配布したり、西海市役所や佐世保市内の観光施設の協力を得て設置、掲示しました。





道の駅「生月大橋」「昆虫の里たびら」と長崎県立大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

道の駅「生月大橋」及び道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学の学生が連携して、地域の拠点として「にぎわい」のある道の駅をプロデュースし、学生自ら実証実験を行います。

平成27年度実施

①道の駅施設及び周辺地域調査
- 「道の駅」で販売している商品や陳列状況調査、売場レイアウトなどの道の駅施設の調査
- 「道の駅」周辺の地域資源の調査

②マーケティング調査の実施
- 学生自ら「道の駅」で来客者に対しアンケート調査を実施
- アンケート調査結果を基に分析

反　映

平成28年度実施予定

③「道の駅」売場レイアウト等の検討・提言

④実証実験
- 前年度の調査結果を基に、「道の駅」の集客増を図る手法を検討し、イベント開催などにあわせ学生自ら実証実験

【道の駅「生月大橋」について】

道の駅「生月大橋」は、平戸市と生月町を結ぶ橋のたもとの生月大橋公園内にあります。公園には土産品店、多目的広場、散策道などがあり、隣接地には生月町博物館もあります。
日本一の連続トラス橋『生月大橋』の眺めが素晴らしいです。



【道の駅「昆虫の里たびら」について】

道の駅「昆虫の里たびら」は、平戸市の国道204号に接し、目印は巨大カブトムシのモニュメント。 農水産物や特産品を販売する物産館には、特殊カメラで撮影した昆虫のパネルの展示や観光、季節のイベント情報などを発信しています。



【長崎県立大学】
長崎県立大学は、佐世保市にある佐世保校（経済学部）と西彼杵郡長門町にあるシーボルト校（国際情報学部・看護栄養学部）の2つのキャンパスからなります。現在、本学では、課題の発見力など社会人としての基礎力、社会のグローバル化や情報化に対応する能力を持つ人材育成を目指し、学部・学科の再編を進めており、平成28年4月より新学部、新学科が設置されます。
佐世保校には、「経営学部」と「地域創造学部」の2学部が再編され、「実践経済学科」では、長崎をフィールドとした実習などの実践的な授業を通じて、分析力と即戦力を身につけた人材育成を目指します。

道の駅「生月大橋」及び道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：駅の道施設及び周辺地域調査

道の駅施設及び周辺地域の現状を把握するため、現地調査を実施

1．現地調査実施日
平成27年10月23日（金）

2．調査箇所
- 道の駅：「生月大橋」、「昆虫の里たびら」
- 周辺施設：「島の館（生月町博物館）」、「いきつき山海の四季（農産物直売所）」など

3．調査内容
- 「道の駅」で販売している商品や陳列状況
- 「道の駅」周辺の地域資源
- その他直売所などの商品や陳列状況

●「道の駅」の視察



●「島の館」の視察



●視察後の意見交換



●生月大橋公園の視察



●「いきつき山海の四季」の視察



道の駅「生月大橋」及び道の駅「昆虫の里たびら」と長崎県立大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：マーケティング調査の実施

学生自ら「道の駅」で来客者に対しアンケート調査を実施

1．アンケート調査実施日
○道の駅「生月大橋」
- 平成27年11月27日（金）
- 平成27年12月19日（土）

○道の駅「昆虫の里たびら」
- 平成27年12月13日（日）
- 平成27年12月19日（土）

2．アンケート調査内容
○道の駅にきた理由
- 道の駅にきた情報元、目的
- 年齢、性別等のパーソナルデータ

○道の駅にきて思ったこと
- 道の駅に求める商品など商品に関すること
- 店の雰囲気など店舗に関すること
- 駐車場やトイレなど施設に関すること
- 他の観光スポットなど観光に関すること

●「生月大橋」のアンケート状況





●「昆虫の里たびら」のアンケート状況





道の駅「みえ」と立命館アジア太平洋大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

道の駅「みえ」と立命館アジア太平洋大学の学生が連携して、イベントを活用し、道の駅を拠点とした地域の魅力発信等の企画提案を行います。

①道の駅「みえ」の魅力やイベントの概要、内容を把握
- 道の駅「みえ」イベント来場者層やニーズを把握
- 豊後大野市三重町の「文化」や「特産」を学び地域の特色を把握

反映

②イベント内容の企画・提案
- 外国人学生の国際色を活かし、地場産品を使った韓国料理のふるまいを学生自ら実施

③体験型イベントの企画・提案
- 工作教室やバルーンアート、浴衣の来場者を対象にした記念撮影等を企画提案し、学生自ら実施

発展

④道の駅「みえ」の魅力アップや情報発信の提案

反映

【道の駅「みえ」の魅力、概要を把握】

道の駅「みえ」でのこれまでの取組みや苦労話、これからの思いを聞き取り、今回の取り組みに反映します。



【学生によるイベント企画の実績】

学生自らが、企画・提案したイベント企画を実施し、これらで得たノウハウを今後の活動に活かしていきます。



【道の駅「みえ」について】

道の駅「みえ」は、地元の方々と季節毎のお祭りやイベントで連携しており、地元の方々にとっても憩いの場となっています。



【立命館アジア太平洋大学】

100余年の伝統と歴史をもつ学校法人立命館が大分県と別府市さらに国内外の広範な人々の協力を得て、2000年4月に開学した日本初の本格的な国際大学です。
学生数は約6,000人で、世界中からの国際学生が全学生の約半数を占め、教員も約半数が外国籍という多文化・多言語のキャンパスで、グローバル人材の育成を目指しています。

道の駅「みえ」と立命館アジア太平洋大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容①：イベント内容の企画・提案

取組み前の調査

●道の駅「みえ」の「文化」や「特産」を学び、地域の特色を把握（写真右）は後藤駅長）



●道の駅「みえ」周辺の特色を現地調査



学生が道の駅「みえ」について学び、現地調査し、発見した特色を活かした企画・提案を行いました。

さらに、企画した地場産品を活用した韓国料理のふるまいを行いました。

●イベントの企画・提案にむけた打合せ状況



●地場産品を調査した上で、学生がふるまう韓国料理の準備



●道の駅のイベントに合わせて韓国料理のふるまいを実演



道の駅「みえ」と立命館アジア太平洋大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容②：体験型イベントの企画・提案

取組み前の調査

●イベント来場者の客層やニーズを聞き取り調査



●体験型イベント会場の設営



事前調査結果や、過去の資料等からイベント来場者の客層やニーズなどの知識を深めました。

それをふまえ、イベントに来場される子供連れの方に喜ばれる体験イベントを提案しました。

●体験イベント（工作教室）の準備



●体験イベント（工作教室）の実施



●体験イベント（バルーンアート）の実施



道の駅「つの」と宮崎大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

道の駅「つの」と宮崎大学（教育文化学部）の学生が連携して、地域資源を活用し、道の駅を拠点とした地域活性化等の企画提案を行います。

①都農町の現状把握と分析
- 町内の「産業」や「自然」を視察し、地域の状況を把握
- 道の駅「つの」利用者のアンケート調査を実施し、ニーズを把握
- 都農高校生と連携し、地元の若者の意見を把握

反映

②都農町の魅力を再発見し、町を元気にできるような取り組みを開始
- 大学生の活動内容、都農町の魅力の情報発信として、都農町×宮崎大学の情報誌（フリーペーパー）を発刊

反映

発展

③地域の特色を生かした、「食」に関する企画等を立案、実施

【宮崎大学】
1949（昭和24）年の創立以来の歴史ある伝統校で、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念とし、教育文化学部、医学部、工学部、農学部及び大学院研究科から構成されています。
平成28年4月には「地域資源創成学部」が新たに設置され、地域の活性化に不可欠な社会を牽引するイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、地域から要望が高い、実社会で即戦力として、日本国中で活躍できる人材の輩出を目指しています。

【地域の状況を把握】
「都農ワイナリー」や「都農漁港」、「矢研の滝」などを視察、体感することで状況を把握。



【利用者アンケート調査を実施】
道の駅「つの」利用者にアンケート調査を実施し、ニーズを把握。



【地元高校生と連携】



都農高校生と連携し、地元の若者の意見を把握。

【道の駅「つの」について】
道の駅「つの」では、地域特産のトマトをメインにオリジナル商品の開発に取り組んでおり、更なる地域活性化に寄与していきます。



道の駅「つの」と宮崎大学との連携

国土交通省 九州地方整備局

平成２７年度　取組み内容：情報誌を発刊

取組み前の調査

●都農町の「文化」や「特産」を学び、「産業」や「自然」を視察し、地域の状況を把握



●若者団体が実施したイベントの一部を企画・運営。イベント当日には、アンケートも実施。



学生が都農町について学び、現地調査し、発見した魅力と、大学生の活動内容を紹介する情報発信として情報誌（フリーペーパー）を発刊

●情報誌発刊にむけた打合せ状況



●座談会状況



大学生　都農特社　道の駅つの　大学生



全国「道の駅」連絡会事務局
〒135-0042 東京都江東区木場 2-15-12 MA ビル 3 階
TEL 03-5621-3188／FAX 03-5621-3177
E-mail info@michi-no-eki.jp